平成２５年度　滋賀県学校支援地域本部一覧（従来型）　９市町４３本部

No	市町名	本部名	学校名	幼稚園等	小学校	中学校
1	彦　　根　　市	東中学校区支援地域本部	城東小学校	0	12	5
			佐和山小学校			
			旭森小学校			
			東中学校			
		西中学校区支援地域本部	城西小学校			
			城北小学校			
			西中学校			
		南中学校区支援地域本部	城南小学校			
			城陽小学校			
			若葉小学校			
			亀山小学校			
			南中学校			
		彦根中学校区支援地域本部	河瀬小学校			
			高宮小学校			
			彦根中学校			
		鳥居本中学校区支援地域本部	鳥居本小学校			
			鳥居本中学校			
2	近　江　八　幡　市	近江八幡市学校支援地域本部	―	6	10	2
		八幡小学校支援地域本部	八幡小学校			
		島小学校支援地域本部	島小学校			
		沖島小学校支援地域本部	沖島小学校			
		岡山小学校支援地域本部	岡山小学校			
		金田小学校支援地域本部	金田小学校			
		桐原東小学校支援地域本部	桐原東小学校			
		馬淵小学校支援地域本部	馬淵小学校			
		北里小学校支援地域本部	北里小学校			
		武佐小学校支援地域本部	武佐小学校			
		八幡西中学校支援地域本部	八幡西中学校			
		老蘇小学校支援地域本部	老蘇小学校			
		安土中学校支援地域本部	安土中学校			
		岡山幼稚園支援地域本部	岡山幼稚園			
		桐原幼稚園支援地域本部	桐原幼稚園			
		金田幼稚園支援地域本部	金田幼稚園			
		北里幼稚園支援地域本部	北里幼稚園			
		老蘇幼稚園支援地域本部	老蘇幼稚園			
		安土幼稚園支援地域本部	安土幼稚園			
3	栗　　東　　市	栗東中学校支援地域本部	栗東中学校	0	0	1
4	湖　　南　　市	下田小学校支援地域本部	下田小学校	0	3	1
		三雲東小学校支援地域本部	三雲東小学校			
		三雲小学校支援地域本部	三雲小学校			
		日枝中学校支援地域本部	日枝中学校			
5	東　近　江　市	蒲生地区学校支援地域本部	蒲生東小学校　蒲生西小学校 蒲生北小学校　朝桜中学校	0	12	2
		湖東第一小学校支援地域本部	湖東第一小学校			
		湖東第二小学校支援地域本部	湖東第二小学校			
		湖東第三小学校支援地域本部	湖東第三小学校			
		箕作小学校支援地域本部	箕作小学校			
		市原小学校支援地域本部	市原小学校			
		五個荘小学校支援地域本部	五個荘小学校			
		玉緒小学校支援地域本部	玉緒小学校			
		八日市南小学校支援地域本部	八日市南小学校			
		船岡中学校区学校支援地域本部	八日市西小学校			
			船岡中学校			
6	米　　原　　市	米原市学校支援地域本部	柏原小学校　山東小学校 大原小学校　伊吹小学校 春照小学校　米原小学校 河南小学校　坂田小学校 息長小学校	0	9	0
7	竜　　王　　町	竜王町学校支援地域本部	竜王幼稚園　竜王西幼稚園 竜王小学校　竜王西小学校 竜王中学校	2	2	1
8	愛　　荘　　町	愛荘町学校支援地域本部	秦荘東小学校　秦荘西小学校 愛知川小学校　愛知川東小学校 秦荘中学校　　愛知中学校	0	4	2
9	多　　賀　　町	多賀町学校支援地域本部	多賀幼稚園　大滝幼稚園 多賀小学校　大滝小学校 多賀中学校	2	2	1
合　　計				10	54	15
				79		

ようこそ本の世界へ　～読書活動の充実に向けて　【彦根市】

【従来型】　**【東中学校区支援地域本部：城東小学校】**

１【事業の概要・特色等】

○読み聞かせボランティアの活動

現在、読み聞かせボランティアには２３名の方が登録されている。各学期ごとに図書館教育主任と相談の上、読み聞かせの計画を立て、活動に取り組んでいただいている。

具体的には、毎週火曜日の午前８時２０分からの１０分間を「お話ブーケ」の時間とし、ボランティアそれぞれが、子どもたちに読ませたい本を選んで持参し、各学級で読み聞かせを行っていてくださる。

年々、子どもたちと読み聞かせボランティアとのかかわりが深まり、「お話ブーケ」の日を心待ちにしている児童が多い。



○図書環境ボランティアの活動

図書室の本の整理や図書室の廊下側掲示板の飾りなどを１３名の図書環境ボランティアの方にかかわっていただいている。

季節感のある美しい飾りとともに読んでほしい本の紹介をするなど、子どもたちを読書の世界に誘う工夫が随所に見られる。

こうした活動により、子どもたちの読書への興味・関心が高まっている。



〈工夫した点〉

・読み聞かせボランティアの活動の計画と運営は、ボランティア自身が自主的に行っている。そのため、ボランティアの方が自分の活動日に都合がつかなくても、交代の方が常に２～３名おられ、連絡を受けて読み聞かせに来ていただくことができる。
・毎週火曜日の朝、読み聞かせの活動が終わると、その日のボランティア全員が集まって情報交換を行い、計画的に実施していただいている。

〈他校の参考となる点〉

・ボランティアの方の中には長年活動を続けていただいている方もいるが、その多くは現在小学校に通う児童の保護者である。そのため、児童が卒業するとボランティアをやめられる方が多い。しかし、毎年人数が減るどころかむしろ増えている。それは、ボランティアの方々が、活動後のミーティングで自分たちの活動に参加していただける方の情報を交換し、参加の呼びかけをしていだいているからである。

２【事業の成果】

・読み聞かせボランティアのお話に目を輝かせ、じっと聞き入る子どもたちの姿がどの学級でも見られる。
・図書環境ボランティアの工夫により読書活動への興味・関心が高まり、児童アンケートの結果でも「読書が好き」と答えている子どもの数が９０％をこえている。

３【今後の課題】

・学校支援ボランティアの活動をさらに充実させていくためには、学校支援地域本部を通じて学校が支援してほしいことを地域に発信し続けていくとともに、地域コーディネーターとの連携を深め、人材の発掘と情報交換に努めることが大切である。

学校と地域・家庭とを“つなぐ”教育活動の展開　【彦根市】

【従来型】　**【東中学校支援地域本部：佐和山小学校】**

１【事業の概要、特色】

（１）ふれあいルーム

お年寄りと子どもたちとの交流を目的とした「ふれあいルーム」の取組を実施して今年度で３年目を迎える。毎週木曜日の昼休みを「ふれあいルームの日」として、多くのお年寄りに来校いただいている。子どもたちもこの日を楽しみにしており、目を輝かせながら活動を進めている。また、お年寄りの方からたくさんの愛情をいただき、子どもたちの心の潤いにもつながっている。

（２）保護者・地域ボランティアの協力

５月に彦根警察署の協力をいただき、１年、２年、６年を対象にした交通安全教室を実施した。１年、２年は、「安全な歩行の仕方」６年は、「安全な自転車の乗り方」を目的としたものである。また、６月には、全学年を対象として体力テストを実施した。どちらの活動にも多くの保護者および地域ボランティアに来校いただき、活動を支援していただいた。支援のお陰で有意義な活動を展開することができた。

〈工夫した点〉

・今年度は、「ふれあいルーム」に来ていただいているお年寄りを講師に招き、２年生において、さつまいもの苗植えの取組を実施した。苗植えのポイントをお年寄りに丁寧に教えてもらいながら、子どもたちも意欲的に活動に取り組むことができた。

・本校では、学校行事や校外学習において保護者や地域の方からの学習支援ボランティアを募るためのメール発信を頻繁に行っている。交通安全教室、体力テストを実施する際においても、メールでボランティアを募ったところ、多くの方の協力を得て活動することができた。

〈他校の参考となる点〉

「ふれあいルーム」の取組を通して、子どもたちは、お年寄りとの交流の中で自然と優しさや思いやりの心を身に付けることができているように思う。今後も様々な方とのふれあい活動を実施し、社会性を高めていきたい。

本校では、多くの保護者、地域の方にメール登録をしていただいている。今後も地域に開かれた学校を目指し、多くの情報を発信していきたいと考えている。

２【事業の成果】



ふれあいルームの様子



さつまいもの苗植え

・ふれあいルームの取組は、核家族が多い本校の子どもたちにとってお年寄りの温かさを感じる絶好の機会となっている。お年寄りも笑顔で優しく子どもたちに接していただいており感謝している。



交通安全教室

・様々な教育活動を実践する中で、多くのボランティアに協力をいただいている。ボランティアの方からは、「子どもたちの学校での活動の様子を知ることができて嬉しい。」という感想を多くいただいている。

３【今後の課題】

本校の今年度の学校経営のキーワードを“つなぐ”としている。今後も学校と地域・家庭とをつなぐ活動を大切にしていきたいと考えている。

外部団体による生の体験に学ぶ 【彦根市】

【従来型】 **【東中学校区支援地域本部：旭森小学校】**

１【事業の概要、特色等】

○日々の学習と関わった事業を年間計画に位置づけ継続すること

毎週火曜日の朝の読書タイムにスマイルボランティアさんの支援をいただいて読み聞かせの事業をしている。また、家庭科の「ミシン」を使う学習の時、ミシンの使い方を地域のボランティアの方にお知らせして支援をしていただいている。

○インストラクターによる着衣泳支援

体育科の水泳指導の内容としての着衣泳の支援に、外部のスイミングスクールのインストラクターの方に来校していただいた。

服を着たままで、水難事故に遭った場合、水の中でどのようなことに注意したらよいか体験を交えて説明をしてもらった。

また、水難事故を見かけたとき、友達が水中で助けを求めたとき、どうしたらよいかの説明を受けた。



○福祉体験

総合的な学習のテーマ「旭森の町をやさしく！」の体験学習では、県立盲学校・視覚障害者センター・視覚障害者福祉協会・障害者福祉センター・社会福祉協議会・彦根点字グループ・盲導犬ユーザー・手話サークル「指音」・福祉教育サポーター・彦根市身体障害者更生会の方などたくさんの方の支援をうけた。

＊学習のめあて

・自分を含めた人や命の尊さに目を向け、人と人とのかかわりを通して、思いやりのある社会を築くために自分にできることを考え、実践していこうとする。

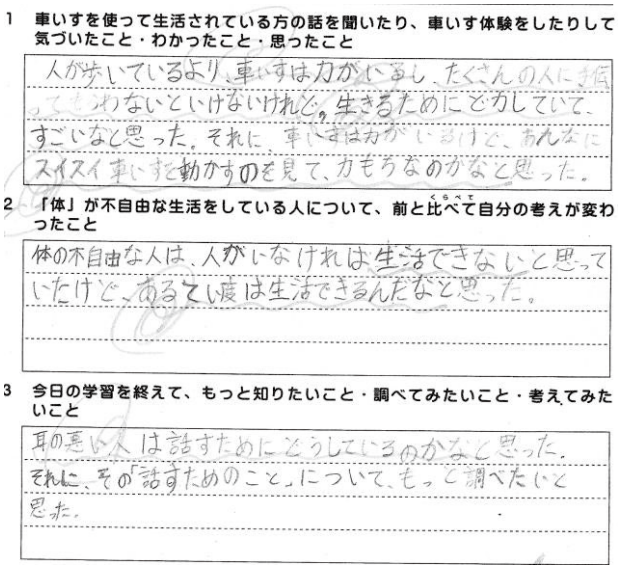
＊内容

・体の不自由な人から日々の生活について話を聞いたり、手話や点字、車椅子等の体験をしたりして、「障害」について考えをもつ。

・自分が関心をもったテーマ（手話、車椅子、点字、盲導犬等）について調べる。

・発表会で交流をする。

・１学期の「ふれ合おう」で取り組んできたことをふり返り、２学期の「発信しよう」への意欲を高める。


1 車いすを使って生活されている方の話を聞いたり、車いす体験をしたりして気づいたこと・わかったこと・思ったこと

人が歩いているより、車いすは力がいるし、たくさんの人に手伝ってもらわないといけないけれど、生きるためにがんばっていて、すごいなと思った。それに、車いすは力がいるけど、あんなにスイスイ車いすを動かすのを見て、力もちなのかなと思った。

2 「体」が不自由な生活をしている人について、前と比べて自分の考えが変わったこと

体の不自由な人は、人がいなければ生活できないと思っていたけど、あるていどは生活できるんだなと思った。

3 今日の学習を終えて、もっと知りたいこと・調べてみたいこと・考えてみたいこと

耳の悪い人は話すためにどうしているのかなと思った。それに、その「話すためのこと」について、もっと調べたいと思った。

〈工夫した点〉

・２本のペットボトルとタフロープを使って用具やビニールの買い物袋とボールで救助用具を作って、救助する体験をグループごとにできた。

・関心を持ったテーマについて体験を通して自分の考えをもち、感想を発表することができた。

２【事業の成果】

・どちらの事業も外部から来ていただくことで、子ども達が真剣にお話を聞くことができ、その後の体験学習や調べ学習に生かすことができた。

３【今後の課題】

・昨年度までの情報を収集して、データベース化し、年度初めに活用できるようにしていきたい。

「生徒に寄り添う学習支援」　【彦根市】

【従来型】　**【東中学校区支援地域本部：東中学校】**

1　【事業の趣旨、特色】

学校支援地域本部事業に取り組んで６年目。事務局・東中学校担当コーディネーターとして､元教員と地域住民の２人を置き、それぞれの持ち味と繋がりを生かした支援を進めてきた。

本校においては、学生や地域住民ボランティアの力を借り「生徒に寄り添う学習支援」に力を入れてきた。

(1) 夏休み中の学習支援
- 対象生徒：各学年の学習支援を必要とする生徒
- 内容：教員の学習指導をサポート
- 実施日：各学年７日間程度

(2) 平日授業の中での学習支援
- 対象生徒：学習支援を必要とする生徒
- 支援者：大学生ボランティア

(3) 放課後学習教室の学習支援
- 対象生徒：３年生希望者
- 実施期間：１１月～３月毎週火・木曜日、放課後１時間程度
- 学習支援ボランティアが英語・数学を中心に基礎的基本的な内容を支援

◆本年度学習支援ボランティア登録者数
17名（学生5名を含む）

〈工夫した点〉



・平日授業の中での学習支援は、生徒にとって「お兄さん･お姉さん」として接している年齢の近い学生ボランティアを、また放課後学習は、時間の都合をつけていただきやすい地域の方を中心に支援をお願いした。

・人間関係が十分できていない間は、自分からボランティアに聞けない生徒もいたので、時間のある時は、お茶タイムをもうけて、お互いに打ち解けて話ができるように配慮した。また今年は、男女別に教室を分けたため、異性の目を気にすることなく、集中して学習に取り組めた。(3)放課後学習教室

・学校の行事によって、開催時間がかわったため、学習日の朝には、必ずボランティア登録者全員に、本日の開催時間の確認と前回の生徒の学習進度などをメールで流すようした。(3)放課後学習教室

・今年度は、生徒一人ひとりの学習進度にあわせた課題を用意し、基礎基本の定着を目指した。(3)放課後学習教室



・学習時間後はボランティアによる情報交換を実施し、次の指導につなげた。(3)放課後学習教室

〈他校の参考となる点〉

・携帯電話の普及により、日時変更などの連絡が瞬時にでき、本事業の運営がスムーズに進められた。

2　【事業の成果】

・個々の生徒のつまずきを把握して、丁寧に学習を進められたため、基礎基本の学習内容の定着が図れた。
・生徒と大学生、地域の方とが触れ合うことで、互いに幅広い人間関係を培うことができた。
・教員を目指す学生ボランティアに学習指導や生徒理解の経験を積む場を提供できた。

3　【今後の課題】

・対象教科や学習内容の拡大を目指したいが、学習支援ボランティアの人数が確保できず、教科の調整がつきにくい。
・１．２年にも学習支援は必要だが、部活動等との調整が必要である。



地域に開かれた学校づくり 【彦根市】

【従来型】 **【西中学校区支援地域本部：城西小学校】**

１【事業の概要、特色】

城西小学校では開かれた学校をめざし、日頃から地域の住民と子どもたちが交流できる取組を推進しています。

子どもの活動を支援する地域の高齢者でつくる「子どもらと楽しもう会」の方々は一年間を通じて、定期的に学校を訪問し、低学年の子どもたちとふれあい活動を続け、子どもと地域をつなぐ役割を担っていただいています。主な行事としては、地域ぐるみで子どもたちの安全を守っていく、『安全キューピープレゼント渡し』です。1年生の児童に「安全に楽しく通学してください。」と楽しもう会の皆さんが入学祝いを贈ろうという取組です。

また、７月には七夕集会で七夕飾りを１，２年生の児童と一緒につくることで、地域の方に親しみをもって接しようとする態度を養っています。



１１月には保育園、幼稚園の年長組の子どもたちと１年生の子どもたちとの交流会「秋のフェスティバル」を開催しています。生活科の学習時間につくった秋のおもちゃ等を使って、１年生と園児、楽しもう会の皆さんが一緒に楽しく遊ぶ時間となっています。

地域のボランティアさんで構成されている「子どもらと楽しもう会」の皆さんとの交流が毎回の行事で深まってきています。

また、地域の多くの方と交わる行事としてＰＴＡのウィークエンドクラブ活動の一環として始まった「お正月を学校で遊ぼう」は、学区内の社会福祉協議会や青少年育成協議会、「子どもらと楽しもう会」も参画する事業として開催しています。

この会は、お正月遊びの定番であったカロムやコマまわし、カルタ取りや剣玉、お手玉といった懐かしい遊びを、テレビゲームしか知らない現代の子ども達に体験させることで、昔ながらの遊びの楽しさと伝統遊具を継承することを目的として毎年１月に開催します。体験の重要性が必要と考え、遊びという切り口だけでなく、餅つきをプログラムに加え、子どもたちに杵と臼で餅つきを体験させ、高齢者らが手返しを行い、小餅に丸めてきなこや餡をまぶして子どもたちに振る舞う時間は、参加する子どもだけでなく保護者や地域の皆さんも楽しみな時間となっています。

〈工夫した点〉

各事業を各種団体に紹介し、ＰＴＡや多くのボランティアを募っています。各事業には保護者の方が多くボランティアとして参加していただいています。地域とＰＴＡとで役割分担を決め、地域として無理なく無駄なく事業サポートできるよう、工夫しています。また、この事業に限らず引き続き学校支援のお手伝いをしていただけるよう、サポート依頼のチラシを幅広く配布し、活動のＰＲにも努めています。

〈他校の参考となる点〉

子どもたちはより多くの地域の方、老人の皆さんと交流して、地域のことやいろいろな昔の話を聞くことができます。また、地域の楽しもう会のメンバーも増え、学校へ来ていただく機会が増え、学校の取組、子どもたちの様子を見ていただいています。

２【事業の成果】

多くの地域の方々が学校を訪れて、子どもたちに関わっていただき、昔遊びの指導をしたり、仕方を教える姿は微笑ましいものといえます。また学校としては、地域との交流により「地域の中の学校」としての認識や「地域の中での学校の役割」も認識できる機会となっています。

３【今後の課題】

保護者、地域の方々にこれらの事業の必要性や意義を、より深く理解していただく必要があると感じます。そのためには、事業サポートをしていただける地域の方々を更に増やしていくことと合わせて、事業の内容も幅広いものにし、地域による学校支援の色合いを強く打ち出すことが必要です。

地域の方々に、学校支援の必要性を伝えるとともに、ボランティアとして活躍できる場を提供し、子どもたちや保護者の方には地域が支える学校という認識を新たにしていただき、地域に開かれた学校をめざしていきたいと考えています。



豊かな心づくりに向けた取組　【彦根市】

【従来型】　【西中学校区支援地域本部：城北小学校】

1【事業の概要、特色】

本校では、２名の学校支援地域本部コーディネーターを中心に様々な分野で学校支援活動の輪が広がっている。

主なものとしては、「スクールガード」「ふるさと探訪オリエンテーリング」「読み聞かせ活動」「学習や校外活動での支援ボランティア」などである。

１　ふるさと探訪オリエンテーリング

彦根城をはじめとする歴史的な文化施設を全校児童で巡り歩き、６年生が各地点で文化財の説明やクイズを出しながら学びを深めるためのリーダー役になっている。毎年行い、身近な自然や文化を地域から学ぼうとする心情や郷土愛の心を育んでいる。また、地域の方々に引率のサポートを依頼しながら交流を深める機会としている。



２　読み聞かせ活動

毎週木曜日の朝の活動で、読み聞かせボランティアが各クラスに入り、子どもたちに１０分間の読み聞かせをしている。



３　スクールガード

９０名ほどの方が毎朝・夕の登下校路に立ち、班登校・下校の見守りをしていただいている。

４　学習や校外活動への支援

音楽会での合唱・合奏での指導支援、スキー教室での指導、地域学習での引率や歴史の話をしていただくことなど、専門性や地域ならではの知識を教えていただく機会をもっている。

〈工夫した点〉

探訪オリエンテーリングでは、彦根城周辺を探訪の場所として選んだ。予備学習として、６年生が文化財課の職員から天守閣や馬屋などを巡り、文化財の歴史的な意味や特徴などをしっかりと聞き取り、オリエンテーリング時の下級生への説明やクイズの出題に役立った。

また、地域の方々２０名ほどのサポートだけでなく、保護者にもボランティアを募り、７名程の参加を得ることができた。

実施時期が以前は、６月であったが、今年度は１０月として、６年生の事前学習や準備に十分時間がとれるようにした。

〈他校の参考となる点〉

学校支援地域本部コーディネーターの方は、足繁く学校に出向いていただき、学校の要望を細かに把握して、地域の方に声をかけて、必要なボランティアを集めていただいている。

お世話になった方々を招いて、「音楽会」や「城北フェスティバル」を開催し、学んだことを発信したり、感謝の気持ちを伝えたりすることにより、ボランティアの方との交流を深めている。

2【事業の成果】

本校では、上記で紹介した様々な活動が定着し、参加されたボランティアの方も子どもたちとのふれあいに満足しておられ、継続して参加されている方が多く見られ、支援活動が息長く続けられている。

また、子どもたちにとっても学校での体験的な活動が広がり、地域の方や様々な講師との出会いの中で日頃の学習ではできない体験をすることにより、学習活動そのものに深まりが出て、より感動的な学習になっている。さらに、教師以外の人々とのふれあいの中で人間関係が深まり、豊かな心づくりに結びついている。

3【今後の課題】

スクールガードなどは、高齢化が目立ち、新たなボランティアの発掘が必要である。保護者に呼びかけるなどこれからの工夫が必要である。

本校の学校支援活動 【彦根市】

【従来型】 【西中学校区支援地域本部：西中学校】

１【事業の概要、特色】

もう５年目を迎えるというのに、あまり成果が見られず、四苦八苦していたが、コーディネーターとして週１半日学校勤務したことで、教職員の方々とコンタクトをとったりすることで現場が見え、具体的な方策が浮かび、さらなる推進をすることができた。

特に人材の発掘や学校・地域相互の理解を図ることや教職員との交流・連携の必要性を感じた１年だった。

〈工夫した点〉

① 地域の支援してくださっている方々に、学校や生徒たちが感謝の意を表わせないかと考え、まず今年は「合唱コンクール」に招待した。

② 少しでも地域との交流ができないかと、公民館など地域の文化祭に、生徒の作品を展示してもらった。

③ 生徒たちの地域での活動をより知ってもらおうと、「地域貢献活動」や「ボランティア部の活動」を紹介し、さらに教職員も「パソコン教室」を開催することで地域に貢献しようとしてくださっている。

④ 地域コーディネーターが週１半日、当該校で勤務させていただき、部屋やパソコンも提供いただき、学校の環境、生徒・教職員の状況などをより知ることができた。

⑤ 教職員に当事業をより理解してもらおうと、「コーディネーターだより」を発行し、さらなる連携を訴えた。



２【事業の成果】

１）家庭訪問を中心とした人材発掘に力を注ぎ、多彩な支援可能者が明らかになってきた。

２）生徒が地域貢献活動で円滑に活動できるよう、地域の方々と事前に協議することで、生徒も気持ち良く活動ができるようになり、地域の理解も得られるようになった。

３）グランドや校地の整備が、地域の方々の支援で恒例となり、見違えるようになった。

４）楽器棚の製作、生け花の提供、スピーチコンテストへの支援などで例年にない地域の教育力の成果をいただいた。



３【今後の課題】

１）支援ボランティアの高齢化や固定化への早急な対応が必要。

２）地域の多彩な教育力を、生涯学習の趣旨からも地域に啓発するとともに、学校現場に活かす工夫が必要。

３）中学校の「敷居の高さ？」や当事業の功罪をどのように考え対処するかなどにも、具体的な方策が必要。

４）地域支援者との懇談を実施することにより、当事業の課題をともに考えていける雰囲気を作りたい。



地域ぐるみで学校を支援する体制づくり　【彦根市】

【従来型】　**【南中学校区支援地域本部：城南小学校】**

1【事業の概要、特色】

本校では、主に読書ボランティア、スクールガード（子ども見守り）、学習支援を中心に地域から支援を受けて学習活動を充実させている。

○読書ボランティア
- ・朝のさわやかタイムの読み語り
- ・図書室の本の整理・環境づくり

○スクールガード
- ・登下校時の通学路の見回り
- ・下校後の公園等の見回り

○学習支援

１年　生活科
「おじいちゃん、おばあちゃんと仲よく」
２年　生活科
「生き物とふれ合おう、育てよう」
「町の人とつながろう」
３年　社会科・総合的な学習の時間
「もっと知りたい！大好きな私の町」
「地域の伝統文化を未来に伝えよう」
４年　社会科・総合的な学習の時間
「きれいな地球をみんなの力で」
「住み続けたいやさしい町づくり」
５年　社会科・理科・総合的な学習の時間
「米作りから見える食環境」
「大切なびわ湖を守り続けよう」
「つながりを大切にしよう　できること」
６年　社会科・総合的な学習の時間
「ふるさとのよさ再発見 学区の今と昔」
「平和な世界をめざして」
「今の私 未来の私」

〈工夫した点〉

・どの活動においても支援してくださる方や団体との事前打ち合わせを十分行うことで、学校と意思疎通を十分図れるように心がけた。

2【事業の成果】

・読書ボランティアでは、子ども達が少しでも多くの本に出会えるように、図書室内の掲示物を工夫したり、読み聞かせで季節や学年にあった本を選定したりしていただいている。進んで読書をするなど本に親しむ子どもが増えてきた。
・スクールガード活動では、地域の方が暑い日も寒い日も登下校時も中心に見守っていただいている。子ども達は、見守られていることで安心して生活している。
・学習支援では、学校と学校支援コーディネーターが連携しながら、学習内容に合わせて支援者を探したり支援内容や方法を相談したりして活動を進めている。子ども達は、活動をとおして地域の素晴らしさを発見すると同時に本物にふれるよい機会となっている。



【５年米づくりから見える食環境　田植え】

3【今後の課題】

学校支援地域本部の活動が地域に定着しつつあり、積極的に支援していただける方が増えてきた。

今後も家庭や地域社会との連携をさらに深めそれぞれの教育機能を発揮しながら、教育活動のさらなる活性化が図れるように家庭や地域との関係づくりを進めていきたい。

つなげよう　子どもを育む　地域の力　【彦根市】

【従来型】　**【南中学校区支援地域本部：城陽小学校】**

１【事業の概要、特色】

地域のよさや歴史、文化に精通されている地域の方々や、専門的な技術をもった方々から、御指導していただく機会を積極的に設け、地域の方とのふれあいを深めると共に、本事業による活動を本校の教育活動の特色の一つとして位置づけている。

（ゲストティーチャー）

○地域の歴史や文化についての講話



貴重な写真や資料等を効果的に使って、自分たちの住むふるさとの寺院や神社、各町や川、犬上川、荒神山の歴史について説明していただいた。その後「総合的な学習の時間」の発表の場である、城陽子どもまつりで発表した。

○クラブ活動

クラブ活動の一環として、茶道の指導をしていただいた。

○ひょうたん名人

ひょうたん名人から苗植えや、育て方等、直接御指導いただいた。



（環境サポーター）

○図書ボランティア

図書の貸し出し作業をしていただいたり、図書の整理・修理をしていただいたりしている。また、新刊図書の紹介や季節にあった環境整備に努めていただいている。

（学習アシスタント）

○本の読み聞かせ、お話会

毎週火曜日の朝 8:30～8:40 の１０分間を、各学級で本の読み聞かせをしていただいている。また、春と秋の年２回お話会を開き、子どもたちに読書の楽しさを味わわせている。

○水泳指導

低学年の水慣れや、高学年の正しい泳法を楽しく分かりやすく教えていただくことができた。

○算数教室指導

夏休みに３日間「算数教室」を開き、地域の方々に子どもたちの算数指導をしていただき、基礎・基本の定着を図ることができた。

○校外学習引率補助

生活科の町探検では、地域ごとに引率の補助をしていただき、より安全な学習を進めることができた。



○スキー指導

地域の方々にスキー実技指導をしていただくことで、きめ細かな少人数での指導体制を組むことができた。

〈工夫した点〉

指導していただいた後の学習の成果を発表する場を設けるとともに、発表会に招待して成果を見ていただく機会を設けている。

また、ボランティアに協力していただいた学習や活動については、「学校だより」を通じて、保護者や地域の方へ発信をしている。

〈他校の参考となる点〉

年間教育計画にそれぞれの活動を位置づけて実施する。また、ボランティア名簿を作成し依頼しやすいようにする。

２【事業の成果】

地域の方々が子どもの指導のために何度か学校を訪問していただくことで学校とのつながりを深めることができた。また、その方から新たなボランティアの方を紹介していただくことで人材を発掘することもできた。

３【今後の課題】

できるだけ毎年継続して活動が進められるように、ボランティアの確保に努めたい。また、新たな活動を計画するために、様々な教科や領域の地域ボランティアを発掘していくことも求められる。

心のふるさと「若葉の森」での豊かな体験を　【彦根市】

【従来型】　**【南中学校区支援地域本部：若葉小学校】**

１【事業の概要、特色】

若葉小学校はたくさんの樹木に囲まれ、四季折々の変化を楽しませてくれる「若葉の森」を心のふるさととして教育を推進しています。

新興住宅街の中にある学校であるからこそ、特に自然や異世代の方々と児童の関わりが必要です。

開校以来、若葉の森で自然とふれあい、そこでの地域の人々との交流によって「若葉の文化」が根を張幹を太らせ葉を繁らせいくものだと思います。



《若葉の森での活動》

２【事業の成果】

１　図書ボランティアの活動

今年度は、児童が本の世界に浸りきり心豊かに育つよう、朝の活動時間を読書にした毎週金曜日は「読み聞かせ」としてボランティアや教師が各教室の児童に読み聞かせを行っています。児童は毎週金曜日になると「今日は誰が来てくれるのかな？」と楽しみにしています。



《みんな大好き・読み聞かせの時間》

読み聞かせ以外にも図書室の整備ボランティアとして５名の方が来てくださっています。新しく入った本の紹介、今月のコーナー、本の整頓など、図書室が児童にとって心の安定を図れる場になっています。中休みに図書室で本を借りるとき、ボランティアさんがおられると、子どもたちに気軽に声をかけてくださいます。「かいけつゾロリはどこですか？」「ぞろりが好きなの？これもお勧めよ」ちょっとした会話から子どもたちの読書のジャンルも広がるようです。

２　清掃ボランティアの活動

今年度から、広い若葉の森の清掃をしてあげようと来てくださっています。夏には生い茂る草を刈り取り、秋には風に舞い散る落ち葉を拾い集めて、子どもたちが若葉の森で元気に過ごせるよう活動してくださっています。その活動を６年生の道徳「たすけあって」で取り上げ、子どもたちとのつながりもできました。



３　地域の老人クラブとの交流

<u>生活科や社会科の時間の交流</u>

１年生の生活科の時間には、昔遊び体験をします。地域の高齢者の方々が、独楽回し、お手玉、羽子板、剣玉、竹馬、竹とんぼなどといった遊びを１年生の子どもたちに手ほどきをされます。

３年生の社会科の学習では、昔の生活体験を学習します。洗濯板を使っての洗濯、火鉢に火をおこし、かまどに火をおこす体験、はたきや座敷箒を使って掃除体験など、若葉の森がこの日ばかりは昭和初期に戻ったようです。

３【今後の課題】

今年度は、図書ボランティアや昔体験のボランティアを募集して、活動は継続しつつ組織を広げて取り組んでいます。

心のふるさと「若葉の森」で児童が豊かな自然と地域の人々とゆったりと活動できるよう今後の取組を計画していきたいと思います。

地域人材との交流を通して生まれる豊かな学び　【彦根市】

【従来型】　　**【南中学校区支援地域本部：亀山小学校】**

１【事業の概要、特色】

本校では以前は、学習の都度、直接依頼したゲストティーチャーやボランティアから教育支援を受けてきた。本事業開始後は、学校支援地域コーディネーターを通して、一元的に手配や依頼をしていただいている。さらに学区内に呼びかけていただき、より多くの学校支援者を募り、ボランティアとして登録をしてもらえるよう、地域に働きかけを行ってもらっている。また、南中学区内で交流を進めて、他校でも人材協力ができ、より多彩な人材を活用した学習ができるようつなげていきたい。

〈工夫した点〉

本校では、地域コーディネーターを退職教員にお願いしている。学校の事情に精通し、ニーズもよく理解していただき、地域での幅広い人脈を生かして学習のねらいにそった人材を、紹介していただいている。また、「学校あっての地域」として、本事業をきっかけに地域を活性化するという観点で意欲的に取り組んでいただいている。

〈他校の参考となる点〉

「彦根南サポートオフィス」のブログがあり、各校の活動の様子を書き込むことで、教職員だけでなく保護者等にも周知を図っている。各校の活動状況がわかり、また、自校の活動も発信している。

２【事業の成果】

○５・６年生図画工作科の指導



学校周辺の旧邸宅の門や寺院をモデルに描画に取り組んだ。いずれもモデルとして手応えのあるものだけに、専門家からの的確な指導によって、描画対象の見方や表現が深まり、素晴らしい作品制作につながった。

○３年：昔の亀山学習

地域の老人から、昔の亀山学区の様子についてくわしく話を聞いた。

○畑の整備

“田畑の先生”から畑整備について支援と指導を受けた。

３【今後の課題】

今年度は、前年度の実践をもとにしつつ年間計画にそって、コーディネーターと連絡を取りながら、見通しをもって学習を進めることができた。一方、地域が抱える問題点としては、高齢化による人材不足が懸念されることである。今後ボランティア活動に興味をもち、いかにしてやりがいを見出してもらえるか、そのために学校がどのような発信をし、児童の学習成果を地域にフィードバックしていくかが大切になる。学習発表会や学校通信などを活用しながら、地域とのコミュニケーションを図っていきたい。

「彦根南サポートオフィスの取組」　【彦根市】

【従来型】　**【南中学校区支援地域本部：南中学校】**

１【事業の概要、特色】

○校区内には、１中学校と４小学校があり、各校担当の先生と地域支援コーディネーターが定期的に会議を持ち、情報交換と運営について話し合っている。

○「ボランティア便り」の発行

各小学校・中学校の家庭に配布すると共に、地域に回覧をしている。

○図書ボランティア

活動も３年目を迎え、廃棄図書の整理も一通り終わり、図書室の整備や本の入れ替えを中心に、図書支援員さんと協力しながら、毎週木曜日に熱心に活動していただいている。



○放課後学習支援ボランティア

今年度より県立大学の先生と学生の方々に大きな協力をいただき、現在は、３年生を対象に実施している。

「南中水曜ゼミ」として、毎週水曜日の放課後１時間程、数学や国語の基本プリントを中心に学習活動を支援している。



○環境整備ボランティア

中学生の地域貢献活動と合同で、９月と11月の２回、側溝の土・泥上げを実施。

保護者と地域の方や生徒延べ31名が参加。

２回続けて参加してくださる方が半数を超え、南中クリーンアップ作戦ということで、親しみのあるタイトルをつけて、定期開催につなげていきたいと考えている。



＜工夫した点＞

＊各小学校との連携を深め、タイムリーな情報交換ができるよう、担当の先生方とコーディネーターが直接メールでやりとりし、活動写真等の交換がしやすくなり、タイムリーに情報発信ができた。

＊ボランティア活動を事前に教えていただくことで、小学校に出向き、直接活動の様子を取材することができた。

＊中学校の地域支援ボランティアの協力者を増やすため、ポスターを貼る場所、チラシ配布の方法や活動内容を工夫した。

＜他校の参考となる点＞

＊少しでも活動の情報発信が出来るよう、ブログを開設している。

彦根南サポートオフィス　検索

２【事業の成果】

◇ＰＲチラシの作成・配布





・校区内統一のボランティア登録用紙を合わせて配布

・地域へ回覧

同じ小学校区内は近すぎて行きづらいという方が、校区を越えてボランティア活動に参加してくださった。

また「ボランティア便り」の募集の呼び掛けに応えて、学校へ自ら連絡し参加してくださる方が増えてきた。

◇環境整備の実施と定期開催

今年度から始めた環境整備は、地域貢献活動と合同開催したことで大人と生徒が一緒になって活動することができ、数年できていなかった側溝の泥等を取り去ることで、きれいになったとともに、大雨の時に水がスムーズに流れたと、喜ばれた。小さなことから、続けて参加していただける方の輪を広げ、月１回の開催に向け大きな手応えを感じた。

３【今後の課題】

まだまだ地域への浸透が薄いので、「ボランティア便り」の発行を重ね、回覧の頻度を高める必要がある。

また、組織の充実を図るためにも、大学、地域の自治会や各種団体と連携して活動を検討していく必要がある。

「河瀬小学校の学校支援事業の取組」 【 彦根市 】

【従来型】 **【彦根中学校区支援地域本部：河瀬小学校】**

１【事業の概要、特色】

（１）米作り体験ボランティア

昨年度に引き続き、５年生の総合学習として、『米作り』に取り組んでいる。学習田を利用して、地域の農業委員などの協力を得て、田植えや稲刈りなどの体験活動を実施している。



田植えでは、昔からの田植えの方法を教えていただいて実際に苗を植えた。また、稲刈りでも、各自が鎌で刈り取った稲を千歯こきや足踏み脱穀機で脱穀するといった昔の方法を体験させてもらった。児童にとって、いずれも貴重な体験となった。収穫した米は、精米をして給食の主食として全校児童がいただいた。

（２）味噌作りボランティア

今年も 11 月に「味噌作り名人」に来ていただき、味噌作りに挑戦した。米麹は５年生が収穫した米を使っており、自分たちが関わった材料が使われているだけに、熱の入った作業ぶりであった。特に、味噌団子を味噌樽に詰め込む作業は、子ども達にとって大変楽しい活動であったようである。





今年の「手作り味噌」は、来年度まで給食室に保管し、秋以降給食に活用する。今年の給食には、昨年の５年生が作った手作り味噌を使用しており、全校から「おいしい。」と好評であった。

（３）「仕事」を語るボランティア

６年生の総合学習では、就きたい仕事や自分の目指したい進路について調べ、将来への夢や希望を膨らませている。インターネットで仕事に関する情報は検索できるものの、パソコン画面の文字情報は、なかなか子ども達の心に響かない。そこで、学校支援地域本部事業のコーディネーターをされている方に協力要請し、様々な職種を経験された方々を集めていただいた。

ボランティアの方々は、『鉄道職員』『パイロット』『銀行員』など、その仕事の「やりがいや苦労」だけに留まらず、「人として」大切にしてきたことも話してくださった。６年生の子ども達は、身近に住んでおられる人生の大先輩からの話に、目を輝かせて聞き入った。



〈工夫した点〉〈他校の参考となる点〉

「米作り→味噌作り→給食」の一連の流れは、子ども達の意欲や関心を持続させるものであり、食育や環境学習に大きな効果を上げている。また、「仕事」を語っていただく活動は、その方々の生き様に触れることができ、大きな値打ちがあった。

２【事業の成果】

前述の事業以外にも、「音楽ボランティア」「緑のカーテンボランティア」など、様々な学校の教育活動に支援をしていただいている。どの活動も子どもたちの学習活動を充実させることに役立っている。御協力いただく方々の専門性を活かした活動や、学校職員が時間的な制約があってなかなか取り組めないような活動への支援が多く、学校教育の助けとなっている。

３【今後の課題】

昨年に引き続き、河瀬学区全戸に「各種学校支援ボランティア」の募集をかけたが、安全ボランティア以外、新たな協力がほとんどいただけなかった。まだまだ学校の中の様子が広く学区のみなさんに伝わっていないようで、『敷居の高さ』があるのかもしれない。

そのためには、これまで以上に本校の教育活動を伝える方策と、ボランティアの募集方法について改善をしたいと考えている。

地域ぐるみで子どもを育てる「ホタル観察」「わくわく交流会」 【彦根市】

【従来型】 **【彦根中学校区支援地域本部：高宮小学校】**

１【事業の概要、特色】

○本校周辺では、平成１５年５月に住民有志による「高宮自然環境とホタルを守る会」が結成され、飼育観察会やホタルマップの作成など、地域環境に目を向けた継続的な活動が行われてきた。

本校においても、こうした地域性を活かした学習を「総合的な学習の時間」に位置付け、環境や地域について学ぶため、守る会からアドバイスを受けながら、幼虫を飼育したり、餌となるカワニナを捕りに行ったりする活動をはじめ、幼虫を地元河川「太田川」に放流する活動を積み重ねてきた。

●また、本校を取り巻く地域環境は、都市化の進展にともない、地域における人と人とのつながりが希薄化している。このことは同時に、子育てに関する地域の教育力を低下させる要因ともなっている。

そこで、１０年位前から、地域の高齢者の会「和楽会」の方と昔の遊びなど、様々な遊びを一緒に体験することを通して、子どもたちに豊かな人間関係を培うことや体験を通して創造性や自主性を育むことをねらい、本事業を進めた。

〈工夫した点〉

○児童自らの手でゲンジボタルを卵から育てる活動を通して、「命の大切さ」に気づく学習とした。

ゲンジボタルの幼虫やさなぎが棲息するための自然環境のあり方に目を向けさせ、環境保全や人間社会との共生の精神に触れられる学習とした。

７月の産卵時期から翌年の６月まで、年間を通した飼育・観察活動の折々に、地域の方から適切なアドバイスをいただけるようコーディネートした。

●遊びの内容・子どもの人数などの詳しいことについては、日時を調整した上で役員の方に来校いただき、打合せをした。

遊びの種目については、わくわく委員会の児童の思いを尊重しながら、和楽会の方と話し合いの上で決定した。

交流会の進行や準備、後片付けは子どもたちが行った。会議室から活動場所への案内、お茶を出すことも子どもたちが行った。

〈他校の参考となる点〉

・地域特性を活かした学習とするため地域団体との連携のあり方を模索したこと。特に年間を通した学校支援のあり方を吟味したこと。

２【事業の成果】

○子どもたちにとってホタルは身近な生き物ではあるが、その生態についてはあまり知らない。そうした生き物に対し飼育・観察活動を通して、学びを深めることができた。

産卵後の命の変化や幼虫の成長過程、たった１年の命。こうした姿を目の当たりにする中で、命の尊さに触れる学習とすることができた。

ゲンジボタルの棲息条件を考える中で、環境保全と人間社会との共生の大切さと難しさに触れ、「ホタルは自然環境のバロメーター」であることに気づくことができた。

●和楽会の方とは年２回のわくわく交流会の他に、３年生が「昔の遊びやおやつづくり」を教えていただく機会をもったり、６年生が「三世代交流～餅つき大会～」で交流させていただいたりしている。ふれあいが日常化することにより、子どもたちと和楽会の方との間には、親和な関係が築かれてきている。

□本校の地域連携は多岐に及ぶ。児童の登下校、朝の読書タイムにおける読み聞かせ、高齢者の方とのふれあいの場「わくわく交流会」等。どの活動においても地域の方のあたたかい思いのもと多大な協力を得ている。こうした取組を一層深め発展させるための方策として、両者の得意分野と役割分担、双方の活動にプラスとなる方向性を明らかにすることができた。





３【今後の課題】

○総合的な学習の時間を「探究」型の学習として位置付けるため、学習過程等について一層の吟味をする必要がある。

●交流会に来てくださった人をはじめ地域の方に対する「ありがとうございます」の気持ちが、学校以外の場でも自然と表れ、伝えられるように、活動を継続していく。

□今後は、皆が積極的に意見交換できる場づくりに努め、課題を克服する手立てを共に考える。また、地域の学校として具体的に一つずつ向上させられるよう、事業の定着を図ることが必要である。

学校と地域との連携 【彦根市】

【従来型】 **【彦根中学校区支援地域本部：彦根中学校】**

１【事業の概要、特色】

今年で本事業も３年目を迎え、地域からの支援のみならず学校から積極的に地域活動に参加するなど双方向の交流支援の輪も少しずつ広がってきている。

○本中学校区には２小学校があり、地域性も違うことから、各小学校区から２名の地域コーディネーターを選出し、小学校の窓口及び中学校全体の担当を決め連絡調整にあたっている。

○協議会は各小学校の管理職、地域コーディネーター担当教員、地域コーディネーター、PTA 会長から組織した。

○「地域に貢献する彦中生」のスローガンをもとに積極的に地域活動への参加をすすめ、多くの生徒が気負い無く地域活動に参加している。また地域から参加依頼も多く、地域の一員として、地域の行事中学生ボランティアの参加が必要とされるようになってきている。また学校の行事への地域の方の支援活動も多くなってきている。

○ゲストティーチャーとして招聘し「ラン作り講習会」及び３年生対象とした学生ボランティアによる放課後の学習会を実施し、学習支援を実施している。

〈工夫した点〉

○学校と地域コーディネーターとの連絡調整を図るため、できる限り会合をもつように努めた。

○年度当初の中学生ボランティアが参加できる地域の行事を把握するため、事業コーディネーターによる地域行事の把握と本事業の趣旨の啓発活動を進めた。

○地域ボランティア及びコーディネーターのもつ特性や能力を生かした場の設定を行った。

〈他校の参考となる点〉

○子ども会、青少年指導員、青少年育成協議会をはじめとする地域の社会教育団体と活動計画の把握、情報提供を行うなど連携を図り「地域で子どもを育てる」意識を高めていくことが大切となる。

２【事業の成果】

【環境作り】



【4/30 緑のｶｰﾃﾝ作り】



【8/7 葉刈り作業】



【10/11 長距離遠足支援】



【4/18 ラン栽培講習会】



【放課後学習会】



・体育大会等の行事における救護、記録、交通指導支援
・放課後の３年生を対象とした学生チューターによる学習支援
・環境整備活動支援等

○本年度から３年生を中心に教員志望の学生による放課後の学習支援を実施している。特に進路を控えている３年生にとっては学習意欲向上に繋がってきている。

○地域コーディネーターの方から地域の方への参加の呼びかけとともに参加者のボランティアの登録を蓄積する。

３【今後の課題】

○学校と事業コーディネーターの連絡調整を密にし、今後さらに支援者の拡大に努めていきたい。

○学校として、どのように地域の支援者を活用していくか、その場をどのように設定していくかをさらに検討していく必要がある。

○学習支援活動を充実するための支援者の確保の方法を考えていく必要がある。

「ふるさとに生きる喜びを」地域とつながる体験活動の支援　【彦根市】

【従来型】　　**【鳥居本中学校区支援地域本部：鳥居本小学校】**

１【事業の趣旨】

本校では、教育活動を４つの「喜び」を軸に進めている。その中の一つに「ふるさとに生きる喜びを」がある。地域の人々・産業・歴史遺産・自然に学び、ふるさとを愛する心をもつ児童を育てたいと願っている。

１・２年生の生活科のまち探検、自然や生き物との触れ合い、３年生社会科の地域探検、地場産業、３年生以上の総合的な学習の時間の活動、５年生のたんぼのこ体験事業、６年生社会科の歴史学習、全校縦割り活動で行うウォークラリーなど様々な場面で地域とつながる活動を展開した。

２【事業の概要、特色】

□１・２年生活科　「川遊び」

１・２年児童が仏生寺町の矢倉川に入ってマスやカニなどをつかむ体験を行った。

青少年育成協議会や仏生寺町老壮クラブの方々が、周辺の除草、川へ降りる階段整備など安全な学習の場づくりまで配慮くださった。当日も、児童の活動支援の他、網や児童がつかんだ魚の運搬をしてくださった。



児童は、自分たちの住む町の豊かな自然や地域の人々の温かな思いに触れる体験ができた。後日、お世話になった方々へお礼のお手紙を書き、感謝の気持ちを伝えた。

□４年総合　「矢倉川調査隊」

鳥居本にお住まいの彦根市環境保全員の池田さん、会長の下田さんの協力を得て、学校近くの矢倉川で水生生物による水質調査を行った。



きれいな川に棲む水生生物が多く見つかり、「こんなにきれいな川だったんだ。」と身近な川に対する見方を新たにする児童もいた。学校の理科室では彦根港湾の水と矢倉川の水、水道水の水質をパックテストで確かめ、矢倉川の水質は、水道水に近く、きれいであることが分かり、児童はよりその思いを強くした。

□５年社会科「米づくり」



小野町老壮クラブの支援を得て、５年生は米づくりを行った。保水力が弱い水田であったので、田植えの前に何度も掘り返していただいた。児童も校舎の窓からその姿に気付いていた。本年度は例年以上に収穫することができ、自然の恵みや地域の方々の尽力に感謝する気持ちをもつことができた。

３【事業の成果】

地域の人々の協力や支援を受け、全学年で地域の人・もの・自然に触れる体験活動を実施することができた。活動の中で、児童は地域の人々の温かさ、自然の豊かさに触れ、自分の住む町への親しみや誇りを深めることができた。地域の豊かな教育力を学校教育に生かせるよう、今後も地域の教材開発を行っていきたい。

「鳥居本学校サポートオフィスの取組」 【彦根市】

【従来型】 【鳥居本中学校区支援地域本部：鳥居本中学校】

１ 【事業の概要、特色】

〇学習支援

実施においては、各教科の学習内容でさらに専門的な知識や作業をゲストティーチャーとして来校してもらって授業支援を行った。今年度は、家庭科、美術科、技術科、総合的な学習の時間、道徳、朝読書、夏・冬休みの補充学習の支援で実施した。

☆２年家庭科（郷土料理について）
☆２年技術科（電気の授業）
☆３年理科（天体）
☆３年人権学習（部落問題学習）
☆各学年本の読み聞かせ
☆総合的な学習の時間（３年卒業研究）
☆３年美術（茶道体験）
☆夏・冬休みの補充学習

〇環境支援

☆グランドの芝生の草刈り作業や水やり
☆「鳥居本をゆりの花でいっぱいにする会」



〇その他の支援

地域の行事に生徒が参加し、地域活性化の一翼を担っている。

☆宿場祭り
☆学区の運動会
☆学区の文化祭
・ソーラン発表、吹奏楽の演奏、合唱の発表、卒業研究の発表



〈工夫した点〉

鳥居本地区地域教育協議会を年３回持つことにし、１学期に地域支援の趣旨・目的を小中で共有し、今年度の活動・役割について確認をした。２学期には中間総括を行い、後半の活動に生かすようにしている。また、３学期には年度末総括を行い、次年度につないでいく。

〈他校の参考となる点〉

地域の行事に中学生が参加していく活動があることは、お互いに支え、支えられるという関係づくりにおいて効果があると考えられる。特に、中学生の活動を実際に発信して、地域の方に見てもらうということが、彼らの励みにもなっている。

２ 【事業の成果】

〇学校支援地域本部事業に、鳥居本学区自治連合会や老壮会等が積極的に関わってくださり、地域と中学生を結ぶ活動が多く実践できている。特に、地域の高齢者の方に手紙を書き、体育祭への招待もかねた取組や、３学期には、１年生のお年寄り交流活動を行う予定である。

〇今年度も、校外へ出て、茶道体験をする（１月実施予定）ことが大きな収穫であった。地域の教育力を活用できた点が評価できる。

〇昨年度は冬休みの補充学習に学習支援として地域の方が教えに来てくださったが、今年度は、夏休みにも来ていただくことができたことは大きな収穫と考えている。（冬休みにも予定している）地域の人材を活用できたということ、地域の方と生徒とのつながりができたということ、などの観点からもよかったと考えている。

〇地域行事への中学生の参加が地域の活性化につながっている。

３ 【今後の課題】

〇茶道体験という、地域の人材を活用する機会を得ているが、継続性と他の地域教材についても考えていくことが必要である。

〇補充学習への支援ということで、地域の方を学校に来ていただくことができた。もっと多くの方が来ていただけると、学習という切り口で地域と生徒がつながることができる。そこをどのように切り拓いていくかを考えていく必要がある。

〇地域の人材を発掘する中で、まだまだ潜在的に支援者となっていただける方々が地域の中には多数おられる。そのような方々にもっと気軽に学校へ来ていただき、自身の経験や専門性を生かしながら子どもたちと一緒に活動することで「生涯学習」の実現につながり、学習成果を活用できる有意義な場としていきたい。

〇学校・家庭・地域の交流が深まることにより、相互の信頼関係が強化され地域ぐるみで子育てをし、地域の活性化を目指し、今後の活動にもつながるように改善に努めていきたい。

〇広報活動として、ホームページ「鳥居本サポートオフィス」を設立し情報発信しているが、より効果的な情報発信について考えていくことが必要である。



３年人権学習講話



読み聞かせボランティア

学校と地域を結ぶ取組の発展をめざして　【近江八幡市】

【従来型】　**【近江八幡市学校支援地域本部】**

１【事業の概要、特色】

今年度は、市内小中学校１６校中１５校に、さらには６幼稚園（実施校：八幡小学校、島小学校、沖島小学校、岡山小学校、金田小学校、桐原小学校、桐原東小学校、馬淵小学校、北里小学校、武佐小学校、安土小学校、老蘇小学校、八幡中学校、八幡西中学校、安土中学校、岡山幼稚園、金田幼稚園、桐原幼稚園、北里幼稚園、安土幼稚園、老蘇幼稚園）と一気に取組の輪が広がった。２０名のコーディネーターとこれらを統括するコーディネーターとして本部に１名配置して、事業に取り組んだ。地域住民がボランティアとして学校の教育活動を支援する「学校支援地域本部」を設置して、地域全体で学校教育を支援するシステムを構築し、学校、地域の教育力の向上をめざしています。

（１）近江八幡市「人生伝承塾」

人生の先輩として地域住民のもつ生き方・智恵や技術を伝承していくために、学校・園にゲスト講師を派遣できる「近江八幡人生伝承塾」を組織し活用していった。「人生伝承塾」に登録していただいた講師陣のリストを作成し、小中学校に講師として出向いてもらった。

（２）コーディネーター研修

【第１回５月２日（木）１５：３０～】

今年度初めてコーディネーターが一同に顔を合わせる機会として、委嘱状交付式のあと研修を行った。初めてのコーディネーターが具体的にこれからの取組をイメージできるように、以前から取り組んでいる学校のコーディネーターから、昨年度の取組内容を中心にそれぞれ話題提供をしてもらいながら、交流を行った。

【第２回５月２３日（木）１３：３０～】
または５月３０日（木）



支援ボランティアの募集案内や便りの作成等、コーディネーターが情報発信できる力を身につける事を目的に、市マルチメディアセンターにて、パソコン研修を行った。

【第３回６月２７日（木）１５：３０～】

学校支援メニューフェア in 近江八幡の準備のための打合せとともに意見交流会を行った。みんなが一堂に集まる時間を利用し、これまでの取組や悩んでいることなど、お互いの交流を中心に行った。



【第４回１２月１９日（木）９：３０～】

一年間のまとめとして、各コーディネーターの成果発表会を毎年行っている。その打合せと準備をかねて各校園での掲示物や資料づくり、取組の発表の意見交流を行った。

（３）ボランティア研修会
（兼コーディネーター研修）

【第１回１０月１６日（水）14：30～】
場所　金田コミセン
講師　関川館長＆北谷Ｃ

地域本部とコミセンのよりよい関係づくりやボランティア活用術について学習する予定だったが、台風で中止になった。

《選択研修》

【第２回１０月３０日（水）14：00～】
場所　安土セミナリヨ他
講師　城奈緒美さん
参加者５４名

【第３回１１月１５日（金）14：00～】
場所　旧西川家住宅
講師　池上良慶さん他
参加者５４名

【第４回１２月５日（木）14：00～】
場所　やすらぎホール
講師　菊井さん他
参加者３１名

おうみはちまん市民大学講座として、地域の歴史を授業支援活かすために３回の選択研修会を実施した。参加したボランティア同士の情報交換や意見交流もあり、歴史学習における地域人材の貴重な情報を掘り起こしすることもできた。



（４）学校支援メニューフェア
７月２５日(木)１３：３０～
場所　金田小学校
参加者　１４７名
出展団体　３１
（出展側参加者７０名）

昨年に続いて金田小学校での開催である。今年度は会場である金田小学校の教室を利用し、出展団体および近江八幡市「人生伝承塾」講師による模擬授業を取り入れた。参加者からは好評であった。支援のあり方等について交流した。



〈工夫した点・他校の参考となる点〉

近江八幡市学校支援地域本部は、市内の２０名のコーディネーターを統括する本部として事業を行っている。
・今年は、取組校園が広がったことにより、以前から積み重ねのある学校と今年度初めての学校との間に取組の温度差が広がらないよう、コーディネーターやボランティアの研修に重点を置いて取り組んだ。
・初めてのコーディネーターの不安を解消するためにも、コーディネーター研修では、必ずコーディネーター同士の情報交換、意見交流の場をもつようにした。
・各校での取組計画を月ごとに本部に報告してもらい、それをまとめて各コーディネーターに発信して、常に取組内容の共有ができるようにした。
・コーディネーター研修では、地域や保護者への情報発信が大事と考え、実務に役立つパソコン研修を１学期に実施している。
・学校支援メニューフェアでは、スタッフとして、前日準備、当日の運営に関わってもらい、全員で作り上げるメニューフェアとした。

２【事業の成果】

・近江八幡市『人生伝承塾』講師による専門的な知識や技能をもった地域の方の支援により、子どもたちの学習内容や活動がより豊かなものになり、質が高くわかりやすい授業になった。
・まだまだ課題は多いが地域や保護者の方々がボランティアとして積極的に学校・園にかかわってもらうことにより、地域に根ざした開かれた学校づくりに貢献できた。
・本年度は学校だけでなく６幼稚園にも取組の輪が広がった。結果、幼稚園での支援のモデルづくりが進み、市内の各幼稚園にも本事業の認知が進んだ。
・コーディネーターの人数が２１名に増えたので、本部としては、各校の取組の情報交換、意見交流に重点を置いて取り組んだ。その結果、取組の共有化を進めることができ、ボランティアバンクの推進や地域への情報発信等が進んだ。
・近江八幡市では学校支援本部事業として、メニューフェアを実施している。今年は企業・団体による模擬授業を取り入れたため、授業での活用の仕方がより理解できた。

３【今後の課題】

・地域コーディネーターと学校側とのコミュニケーションがなかなか取りにくい現状がある。コーディネーター任せにならず、スムーズに取組を進めるためには、管理職を含めた窓口の教員との定期的な打ち合わせ等、日常的な時間確保と柔軟で組織的な推進体制をつくる必要がある。
・地域の教育力を有効に活用するため各地区のコミセンとの連携をより一層進めていく必要がある。

「地域の宝を学校教育に」　【近江八幡市】

【従来型】　**【八幡小学校支援地域本部】**

１【事業の概要、特色等】

本校は、近江八幡市の中心に位置し、創立１４０周年を迎えた歴史と伝統のある学校である。校区内には、土蔵の並ぶ八幡堀、朝鮮人街道が通り、市立資料館、近江商人屋敷、八幡伝統的建造物群が立ち並び、観光客が多く訪れる。また、八幡瓦や八幡靴、竹細工、数珠工芸などの伝統工芸品のほか、赤こんにゃくや丁稚羊羹、湖漁など特産物も多い。

このように町並みも含めて歴史を感じるものが多く、文化や産業を受け継いでおられる方が多いことから、今までから人権教育を軸にしながら総合的な学習の時間にゲストティーチャーと称していろいろな形で地域の方を招いて授業を展開してきた。昨年度まで道徳教育推進事業の指定を受けたこともあり、特に人との出会いに重点を置き、地域人材を活用した授業を通して人に出会い、人から学び、自分の生き方を考える機会を設けてきた。

本事業に取り組んで２年目となる今年度は、地域コーディネーターを中心に地域とのつながりを広げ、今までの実践を充実させることをめざして取り組むことにした。

〈工夫した点〉〈他校の参考となる点〉

昨年度の取組をもとに地域コーディネーターが様々な会合の際に声をかけ、昨年度に加え、新しい分野の方々にも協力依頼をする等して、事業を展開した。

学校においては、少しずつ計画的に取り組めるようになり、職員と地域コーディネーターとの打合せがうまくできるようになってきたように感じる。またコーディネーターも必要なときにはいつでも自分に声をかけられるよう、出勤表を明示するなど環境設定の面で工夫をした。教職員を対象にボランティアを活用した学年の授業の様子がわかるように「ボランティア通信」を発行したことも周知につながったと考える。

学校では、月１回発行する学校だよりの裏面を使って、活動の様子を掲載し、保護者や地域への周知を図った。

〈活動事例〉

（1）環境づくりにおいて

①図書ボランティア



昨年度から図書室の掲示物作成等、環境を整えてくださり、子どもにとって親しみやすい図書室になってきている。定期的に来てくださるので計画的に進めていただいている。

②瓢箪名人



４年生の理科で大瓢箪を栽培することになった。かなり頑丈な支柱を作っていただき、見事な瓢箪が実った。プロの技に触れることができた取組であった。

③校庭のリフレッシュ



本校は校庭に樹木が多いため、大変ありがたい。９月から前庭の樹木を中心に剪定していただいた。その方々の御家族や知り合いの方も来てくださり、用務員さんと連携しながら、うまく作業を進めていただいた。

④花いっぱいの花壇



昇降口の近くに花壇があるが、周りの芝が茂っていてあまりきれいではなかった。そこで芝生を整理して、花壇の整備をしたあと、パンジーを植えてくださいました。子どもたちが改めて、「字の形になってたんや。」「きれいやなあ。」などの声が聞こえてきた。

(2)学習活動において

①幻の北之庄菜栽培

３年生が食農事業に関わって、幻の北之庄菜の栽培に取り組んだ。実際に栽培されている方に来ていただき、土づくりから教えていただいたおかげで、立派な北之庄菜が収穫できた。

今後、収穫してボランティアの方と一緒に調理し、スープを作る予定である。

②家庭科サポート

家庭科は子どもにとっては興味のある学習である一方、うまくいかないことも少なくない。そこで、５年生ではボタン付けやなみ縫い、本返し縫いの指導補助に、また６年生ではミシンを使う学習のサポートに入っていただいた。



担任一人で対応するときと比べて大変スムーズに学習が進んだことに驚いた。

③水泳の時間に

４年生では、水泳で泳法を学習するが、息継ぎや足の動かし方、手のかきなどの指導補助をお願いした。

個々への関わりが丁寧なので、子どもにとってわかりやすく、効果的であった。

④八幡堀見学案内



４年生の総合的な学習の時間および社会科の学習で八幡堀を扱った際に、八幡堀の歴史、背割り排水、水質等について説明をしていただいた。子ども10人に１人のボランティアがついてくださり、話も聞きやすく学習が深まった。

⑤外国語活動も一緒に



今年度から始めたボランティアである。ALTやJETも交えながら、子どもたちに関わってもらっている。５人のボランティアの方々が「楽しい！」といってくださることが有り難い。

⑥仲よし体験学習



１学期の終わりに仲よし学級でデイキャンプを行った。たくさんのボランティアの御協力により、時間を有効に活用して、楽しい学びを展開することができた。

⑦野菜ボランティア

生活科の学習で栽培する野菜づくりの指導をお願いした。ちょっとしたコツと手入れでおいしい野菜に育つことを聞き、その後も一生懸命育てる子どもの姿が見られた。

また、仲よし学級の栽培にも何度も来ていただき、一緒に手入れの仕方を教えてもらった。立派な野菜ができて大喜びであった。

⑥読み語りボランティア



昨年度より人数を増やし、朝の読み語りを２年生まで広げてくださり子どもたちはその日を楽しみにするようになった。

行事などと関連させた本を選定していただくなどタイムリーな内容になっている。

（3）クラブ活動において

①茶道に親しむ

日本文化に親しむクラブが茶道体験や華道体験を行い、それぞれ師範の方に来ていただき、作法や決まりごとを教えていただいた。普段の様子とは異なり心地よい緊張感が生まれ貴重な機会となった。



生け花は校長室などに飾っている。

②卓球を知る

昨年度に引き続き、御支援いただいているのが卓球である。みんなが活動しやすいよう、時間を有効に活用し少しでも多く練習できるよう支援していただいている。



（４）その他

①筆耕

賞状の名前を書いていただいている。印刷した文字と異なり、重みのある賞状になっている。

②ピアノ伴奏

担任が歌唱指導や器楽指導にあたるため、ピアノ伴奏をお願いした。教師が集中できる良さがあった。

２【事業の成果】

２年目となり、昨年度よりもスムーズに事業に取り組むことができた。教職員の意識も少しずつ高まり、学習活動の具体的な支援内容を地域コーディネーターに伝えられるようになってきた。昨年度よりも支援内容に広がりが見られ、その分コーディネーターには負担をかけているが、ボランティアに関わっていただくことで進めやすくなったり、子どもたちが様々な方と関わることで、人とつながる良さを実感できるなど、成果があったと考える。この事業を通して、地域の方々が子どもたちのために時間と労力を惜しまずに御支援いただけるありがたさをしみじみと感じている。地域コーディネーターが教育現場におられたことも功を奏し、意図を汲みながら的確な人材を確保していただき、本物の技や空気感を感じることができた。学校だけでは得られない学びができたことに加え、本物に触れる経験の重要性も感じている。次年度もぜひ継続して、子どもたちの学びの深まりを目指したいと考えている。

３【今後の課題】

大規模校における支援ボランティアの活用、支援メニューの運用についてはさらに工夫が必要である。また、施設面においては、空きスペースがないため、ボランティアさんの打ち合わせや休憩スペースが確保できず、心苦しいところである。

「地域との連携を深め学校教育の充実にむけて』　【近江八幡市】

【従来型】　　**【島小学校支援地域本部】**

１【事業の概要、特色等】

活動３年目となる本年度は、今までの活動を継続・発展し、以下の計画のもと取り組んだ。

実施期間		内容	場所
４月～３月		見守り隊・スクールガードによる下校指導	各通学路
月３回火曜日		読書ボランティアによる読み聞かせ	各教室
５月～３月	１年	・昔遊び名人支援	その他
	２年	・生活科「生き物探し」	
	３年	・社会科「まち探検」 ・社会科「私たちの町で作り出される物」（大中トマト農家・愛菜館見学支援） ・社会科「漁業」（西の湖の漁業体験における支援） ・総合的な学習「福祉の学習」（点字・盲導犬に関する支援）	
	４年	・総合的な学習「菜の花プロジェクト」（菜種刈り・種落とし・松明作り体験等の支援） ・馬淵浄水場見学支援 ・警察署見学等支援	
	５年	・「田んぼのこ」活動支援（田植え・稲刈り・魚道の生き物調べ） ・家庭科「ミシン操作」についての支援	
	６年	・社会科歴史学習（島学区の歴史） ・家庭科「ミシン操作」についての支援	
	全校	・「島アドベンチャー」下草刈り等実施支援 ・「５・６年スキー教室」実施に関する支援（ボランティア募集など） ・学校整備に関する支援（花植え・除草・学校林整備）	

〈工夫した点〉

島小学校は、本年度から３年間「しが環境教育リーディング事業」を受け、環境教育の実践、特にエネルギー分野に関する新しいプログラム開発に取り組んでいる。このことを受け、学校を支援するにあたり、地域の自然と人材を活かし、環境教育の推進に寄与できるよう工夫をした。

〈他校の参考となる点〉

上記環境教育の推進に寄与するため、例えば、市主催のメニューフェアを活用しながら人脈を広げることに努めた。

【３年社会科見学まち探検】に関する支援

１　日時：５月１０日金曜日～２８日火曜日（合計５回）

２　内容：まち探検に関する支援

３　概要：

３年社会科「私たちの島学区のようす」の学習として、５回に分けて学区に出向いた。それぞれの地域の自然環境や施設・史跡等の見学、地域の方の話を聞く等の活動をした。町の特徴について学習する際の支援を行った。






【４年菜の花エコプロジェクト】に関する支援

１　日時：松明運び４月１９日金曜日
菜種刈り５月２３日木曜日
菜種落とし６月１１日火曜日

２　内容：総合的な学習の時間で取り組んでいる「島小菜の花エコプロジェクト」の一環として「菜種刈り」「菜種の実落とし」体験などに関する支援

３　概要：

地域で「ほんがら松明」の保存に力を注いでおられる前田太一様に協力いただき、「菜種刈り体験」や「菜種落とし」体験に関する支援を行った。






【５年田んぼのこ】に関する支援

１　日時：田植え５月９日木曜日
　　魚道観察６月１０日月曜日
　　稲刈り１０月１日火曜日
２　内容：総合的な学習の時間「お米プロジェクト」の一環として「田植え」「魚道観察」「稲刈り」等の支援
３　概要：
　学校水田を貸していただいている関目様の指導、協力のもと行う田植えや稲刈り体験に関する支援をした。ぼてじゃこトラスト武田様をはじめ関係者の方々の協力を得て行った水田への稚魚の放流、魚道観察等関する支援をした。






【６年歴史学習】に関する支援

１　日時：５月１日水曜日
２　内容：「島学区の歴史」に関する支
３　概要：
　奥津島神社宮司の深井武臣様を招き、学区内にある古墳やむべに関することを中心にお話いただき、歴史学習に関する支援を行った。




【学校整備（花植え）】に関する支援

１　期日：６月２３日日曜日
２　内容：花植えの支援
３　概要：
　島小サポート隊や学区まちづくり協議会の有志の皆様により、花をプランターに植えてくださり、新校舎の玄関を飾ることができた。




【学校整備（アドベンチャーコース・学校林・学校周辺）】に関する支援

１　期日：除草６月９日土曜日他
　　学校林９月２９日日曜日他
２　内容：学校周辺（運動場周辺、土手）、学校林、島小アドベンチャーコースの下草刈り等の支援
３　概要：
　島小サポート隊や学区まちづくり協議会の有志の皆様により、学校敷地周りの除草､また、島小アドベンチャーコース、学校林の下草刈り等整備に取り組んでいただいている。



３【事業の成果】と【今後の課題】

　本年度は、事業３年目ということもあり、今までの活動を踏まえ「学校教育の充実」により寄与できるよう心がけた。例えば、「島アドベンチャー」や「スキー教室」での安全管理を含む支援をはじめとして、島学区まちづくり協議会との連携のもと、ボランティアの組織化に取り組んだ。その結果、今年度「島小サポート隊」を立ち上げることができた。
　今後も、既存のボランティア団体の組織化を含め、善意ある個人の皆様の心をつなぎ、地域の教育力を高めていきたい。



地域の自然や人と共存した教育の充実をめざす【近江八幡市】

【従来型】　　【沖島小学校支援地域本部】

１【事業の概要、特色】

本年度より、学校支援地域本部事業の委託を受け、事業を始めている。

本校では、湖と山に囲まれた島の学校という教育環境を生かし、地域の自然や人とのつながりを大事にした教育の充実を進めてきている。（沖島太鼓、ふるさと学習、遠泳会、地域との合同運動会、地域の祭り、デイサービスセンター老喜の里との交流、沖島文化祭への参加等）長年、取り組まれてきた特色ある教育を継承するとともに、本事業の委託を契機として、より充実した取組にしていきたいと考える。

〈工夫した点〉

本年度より委託を受け、行ってきた学校支援地域本部事業であるが、学校・家庭・地域が密接に連携し、新たな取組を推進するよう努めた。

本校児童を取り巻く地域の状況は、少子・高齢化、漁業従事者の減少傾向が続いている。そのような状況を踏まえ、未来を担う子どもたちを育む必要がある。

そこで、長年取り組まれてきた特色ある教育を継承しながらも、地域コーディネーターを軸に新しい教材の開発に取り組んだ。（「琴の演奏を通した高齢者の方々との交流」「盲導犬にふれる体験」）

また、本年度は学校に地域の人材を招き、指導を仰ぐだけでなく、その成果を地域に情報発信し、地域との交流活動に役立てることも試みた。今後も、学校から地域に積極的に関わりをもつことを大切にしていきたい。

〈他校の参考となる点〉

地域と連携を図る場合、その事前段階として、地域コーディネーター及び教職員（主に学級担任）が直接、連携先である地域または団体にできる限り足を運ぶことが大切である。学校側の要望や意向をお伝えし、また連携先の特色や要望もお聞きし、双方向の情報伝達を心がけた。両者の意向のすり合わせを行うことにより、具体的な体験活動を工夫することができた。

２【事業の成果】

① 琴の演奏を通して高齢者の方々と交流（複式学級５・６学年）

総合的な学習の時間の領域として連携及び活動をさせていただいた。はじめに岡山文化琴サークルの方々にお越し頂き、日本古来より伝わる琴の演奏について指導を仰いだ。子どもたちは主に教科書教材の「さくら」についての演奏指導を受け、その練習の成果を沖島小学校に隣接するデイサービスセンター「老喜の里」で披露した。そのことを通じて高齢者の方々と交流する時間を持った。





② 福祉体験（複式第３・４学年）

中学年の総合的な学習の時間の領域として実践された。長年にわたり盲導犬とともに生活しておられる方に直接、話をお聞きすることをとおして、体験的な学びを行うことができた。障がいを抱えておられる方のお話を聞き、共感的な理解を深めながら、盲導犬や障がいに関する知識を得た。さらに、アイマスクや車いすを体験する機会ももった。

中学年だけでなく、その他の学年についても昼休みや給食の時間等に交流を行い、学校全体で体験的に福祉についての理解を深めることができた実践であった。





３【今後の課題】

地域コーディネーターの方には積極的に提言していただき、教職員ともども計画・立案し、実践を行ってきた。今後は連携先と一時的な交流を行うにとどまらず、継続的に交流を行い、地域に成果を還元し続けていくことが肝要であると考えられる。そうすることにより、現状よりさらに地域との連携・信頼を深めていくことにつながっていくと考える。

したがって、一つの連携事業を単発で行うだけでなく、今後も連携先と交流を深めることによって、相互に共通意識を構築していくことが、今後の本校の教育活動を充実したものにしていく上で不可欠である。

地域とともに　学びの充実をめざして　【近江八幡市】

【従来型】　**【岡山小学校支援地域本部】**

１【事業の概要、特色】

岡山小学校のめざす子ども像は、おーおもいやりのある子　かーかんがえる子　やーやる気のある子　まーまなびあう子である。

これらの目指す子ども像の実現に向けて、教職員と地域、学校支援ボランティアの方が、連携し一緒に活動することは、学校と家庭・地域の信頼関係を深めることにも繋がる。本校では、地域が学校に対し協力的で、この事業が始まる前から学校支援ボランティアが関わる内容が多く展開されてきたり、地域コーディネーターの人脈もあり、ボランティアの協力が比較的容易であることを生かし、学校と地域がより連携して子どもを育てる取組を進める。

＜工夫したこと＞

・地域コーディネーターの人脈を生かし、地域の方や講師の協力依頼や連絡調整に動いていただいた。ただ地域コーディネーターに任せっきりになるのでなく、教師も昨年度までの取組等を活かし、主体的に計画していくことも重要である。そのため、学校と地域コーディネーターのそれぞれのよさを活かせるようある程度分けている。地域コディネーターは、主に地域のボランティアとのコーディネートをしていただいている。

・「田んぼの学校」では、地主さんや農業委員さんの協力の下、２年と５年の合同で田植え、稲刈りを行い、例年収穫祭として、お世話になった方を招いてとれたお米でおにぎりをつくったりしている。今年度の収穫祭は、「田んぼの学校」でお世話になった方だけでなく、野菜づくりでお世話になった方もいっしょに、収穫祭を実施し、たくさんの地域の方と交流できるようにした。

＜他校の参考となる点＞

・「田んぼの学校」は、異年齢交流と地域の方との交流・連携を図っていく一つの手段としても効果的である。

・お世話になる地域の方の支援を継続的に計画することで、子どもと地域の人との交流がより深まった。

◇事例

「田んぼの学校」
田植え

２年生と５年生が一緒に田植え。５年生は、２年生を気にかけながらの作業。



田植え

「野菜づくり名人」

２年生がどうしたら野菜が上手に育つか、わかりやすいお話を聞いた後、土づくりから始める。

学級園を耕し、畝をつくりいろいろな種類の苗を植えていく。



土づくり



野菜の苗植え

苗を植えた後、生長を気にかけ、何度も学校へ来ていただいた。



収穫祭　五平餅づくり



稲刈り

今年度は「田んぼの学校」や「野菜づくり」でお世話になった１０名以上の方をいっしょに招いて収穫祭を実施。とれたお米で五平餅づくりに挑戦。

２【事業の成果】

・「田んぼの学校」や「野菜づくり」などの体験活動や地域のいろいろなボランティアの方々、ゲストティーチャーさんとの出会い、交流することは、子どもたちの学びの充実につながっていくとともに、豊かな心の育成につながっていくものである。顔見知りになったことで、朝出会った時にあいさつをしたりする児童もいる。そうした子どもとの交流が深まったり、広がったりすることが、ボランティアさんたちの喜びや充実感の達成にもつながっている。

３【今後の課題】

・地域が協力的なことは、たいへんありがたい。しかしこの事業を長期的に見ていくと、やはりコーディネーターを中心としたボランティアの運営組織を整備していく必要があるのではないか。

地域の力で教育活動の活性化　【近江八幡市】

【従来型】　【金田小学校支援地域本部】

１【事業の概要、特色】

本校の学校支援地域本部事業は、校区の方を委員として「金田学区地域教育協議会」を組織するとともに、学校支援コーディネーターを配置して本年度からスタートした。

本校では、以前から教育活動に地域の方々の力を得て、教育の充実に努めてきたが、今年度はコーディネーターが「金田学区まちづくり協議会」や「金田コミュニティセンター」とのパイプ役、関係機関との調整役を担うこととなった。

本年度は、本事業の中でもとりわけ、学校・家庭・地域が連携協力し、地域住民の参画により、授業等の学習補助や教員の業務補助などの学校支援を行うことを中心活動として展開をした。

＜学習支援活動事例＞

①　３年社会科「校区探検・昔の暮らし」

浅小井町「曳山とい草の館」に出かけ、地域の方に「湧水」「い草」「曳山」に関する町づくりの話を聞く。実際に使用されている道具を見ながら話を聞き、その取組を身近に感じることができた。



②　３年総合学習「金田学区のいいところ」

金田学区のよさ、すばらしさ、金田特有の自慢できるところを話していただく５人のゲストティーチャーを迎えて、話を聞いた。

・長田の蛍の話
・金田学区のスクールガードの話
・田んぼの話
・トマトづくりの話
・若葉町のいいところの話

子どもたちは５つのテーマから好きな一つのテーマを選び話を聞く。その後クラスで、聞いたことを新聞に表し、電子黒板を使って互いに発表しあった。





＜子どもたちの感想＞

・知らなかった若葉町のおやじサークルのことがわかり、もっと知りたくなりました。

・スクールガードさんは毎日わたしたちのために、がんばってみまもってくれて、わたしたちのために、くふうしてくださってるんだと思いました。

・お米のことがいろいろ分かってうれしいです。・・・わたしのおうちのお米はなんというお米なのかなあと思いました。またお母さんに聞いてみようと思いました。

子どもたちにとっては、自分の住む地域に興味・関心を持つきっかけとなり、２学期「近江八幡すてき発見」学習につなげることができた。

③ ４年社会科「地域を守る消防団」

金剛寺町防災会の方の案内により、消火設備の見学をし、地域の防災活動の様子を聞いた。

実際に農業機械を改造してつくられた小型消防ポンプで、池の水を吸い上げ放水してくださった。自分たちの地域は自分たちの手で守ろうという地域の方の気持ちや使命感を肌で感じることができた。





④ ４年社会科「蛇砂川の話と現地見学」

蛇砂川の自然災害を防ぐために、取り組まれた数々の事例、苦労話と現状について話を聞いた。その後現地（長田町）に出かけ、見学をした。実際に話を聞いた後の見学であったため、印象深くこの取組をとらえることができた。

⑤ ４年環境学習「紙すき体験」

総合学習として、紙やビンなどリサイクルについて調べ学習をし、発表し合った。その後「リサイクルを実際に体験してみよう」と、はがきづくりに取り組んだ。

牛乳パックを細かくちぎりミキサーに入れ、パルプにしてはがきをつくる作業をした。地域の方に、作り方の指導・支援をいただいた。



〈工夫した点〉

本校では学校支援コーディネーターを配置した初年度であったため、年度当初に、事業の内容、各学年の計画についてコーディネーターと学年主任が確認、調整しあう場を設定した。その後も連絡調整を図りながら、コーディネーターは計画的に、講師依頼と派遣を行うことができた。

〈他校の参考となる点〉

学校支援地域本部事業初年度の本校において、地域コーディネーターを配置して取り組んだことは、地域との連携協力がより強化されることとなった。地域の方にコーディネーターを務めていただくことによって、学校の授業内容や意図等を講師の方々にスムーズに伝えることができ、より良好な関係で地域の協力を得られた。

２【事業の成果】

コーディネーターが学習支援にかかわる講師との連絡・調整、ボランティアの募集・連絡の仕事をすることで、教員の負担軽減ができた。またコーディネーターが学校と講師の仲立ちとなって、授業での学習目標と講師の伝えたい思いや伝えたいことを調整することができ、充実した学習内容となった。

子どもたちが、地域の「ヒト・モノ・コト」に、より興味関心を高め、地域に愛着を持つことができた。なかには講師の方の話に強い関心をもった子どもが、直接家を訪ねて、より学習を深めたという事例もある。

３【今後の課題】

今年度、水泳授業時に教師支援・子ども支援のために、ボランティアを探したが、結局見つからないままとなった。今後ボランティア募集の時期や方法を検討する必要がある。

今年度実施した学習支援活動をより充実し、年間通して計画的に行っていきたい。また、人材リストの整備や、さらなる地域との連携・協力を図るため、地域関係機関や保護者へ成果の発信と協力の呼びかけをしていく必要がある。

度重なる出会い　【近江八幡市】

【従来型】　【桐原東小学校支援地域本部】

１【事業の概要、特色】

学校支援地域本部事業２年目を迎え、昨年度の実績をもとに一層の充実を図り、子どもの学びを深めてきた。

地域の教育力を活かし、伸ばすべく、学習支援のみならず、環境整備、安心・安全のための支援など様々な分野でボランティアの方が子どもたちに関わってくださった。

活動例

１年生では、７月に「七夕のつどい」を行った。１４名の方にボランティアとして来ていただいた。

まずは、自己紹介をしていただき、七夕のお話を見た後、飾り作りを教わって一緒に飾り付けをした。

ボランティアの方がたくさんの見本を作ってきてくださったので、子どもたちは、「あれも作りたい」「これも作りたい」と意欲満々だった。できあがると満足げな表情で自分で挑戦するまでになった。



できあがった飾りは、桐原コミュニティーセンターの方が用意してくださった立派な笹に飾り付けた。



〈工夫した点〉

７月に来てくださったボランティアの方々には、１１月の「秋ランド」、１月の「昔遊びの会」にもご指導を願っている。そのことで、何度も同じ地域の方々とふれあうことができるようになる。単に、技術や知識を教えていただくだけでなく、落ち着いた雰囲気の中で親しみのあるかかわり方にふれる機会となる。

しかも、１年生の時にこのような出会いを繰り返すことで、以後の学年における人との出会いに期待を持つことができ、直接いろいろな人に接することを楽しみにすることになる。

〈他校の参考となる点〉

１年生の学習支援に来てくださった皆さんの中には、スクールガードの方もおられた。子どもたちは、登下校で出会うときに、挨拶するだけでなく、教えていただいたことのお礼や感想を言ったり、何気ない会話をかわすようになった。まさに、子どもたちが地域の一員を実感することとなった。

２【事業の成果】

地域コーディネーターが、担任・学校と地域との橋渡し役としてボランティア活動の詳細を打ち合わせることで様々な活動がスムーズにできた。

また、本事業も２年目を迎え、担任が支援してもらう活動の種類を広げることで、子どもたちの活動が豊かになった。休み時間にも、学年の枠を超えた、「手作りおもちゃ広場」でふれあいの場を設けていただくなど、ボランティア活動が徐々に根付いてきた。

３【今後の課題】

学習支援をしていただく際、子どもの事前の学びが十分でないと、受け身の学習となることがある。今後は、子どもがボランティアの方に積極的に質問できるくらいに単元全体において、子どもが主体的に学ぶ道筋をつくっていきたい。また、ボランティアを招いた授業においては、教員がコーディネーター、プロデューサーとなり、子どもの学びが深まるようにタイムリーに助言・指導を行うことを心がけたい。

地域とともに育てる馬淵っ子　【近江八幡市】

【従来型】　**【馬淵小学校支援地域本部事業】**

1【事業の概要、特色】

本校では、**ま**ごころのある子、**ふ**かく考える子、**ち**からいっぱいがんばる子を育てたい児童像として、地域の方と協働で取り組んで２年目となる。

昨年度は、地域全体で学校を支援する体制を構築することを目指したが、今年度は、昨年度の継続に加えて、地域とより密着した取組や、年間を通して関連した単元の支援を設定した。

例えば、田んぼの学習では米の収穫以外に藁を使用したしめ縄づくりに取り組んだり、茶道体験の後茶器を作ったり、地域の文化祭でお点前を披露したり、和菓子づくりをしたりと、幅広く繋げて展開している。

学んだことを披露したり、人に教えたりすることは、子どもの生きる力を育てることに繋がっている。

〈工夫した点〉〈他校の参考となる点〉

＜ボランティア活動事例＞

① 茶道学習・茶器作り・和菓子作り・茶道接待

6 年生に茶道の作法とおもてなしの心を指導して頂いた。



お茶のいただき方を指導

その後、茶器を作り、ボランティアさん手づくりの台座と名前プレートを添えて市展に出品した。



手作りの台と
プレートとお茶碗

さらに、育てたサツマイモを使って和菓子づくりを支援していただいて、作った茶器とお菓子で保護者と下級生を接待した。

② 田植え・稲刈り・しめ縄作り

2･5 年生の田んぼの学習で地域の田んぼを借りて米づくりの支援をしていただいた。

その後、５年生は藁を使ったしめ縄づくりに挑戦して伝統文化を学んだ。



しめ縄作りをていねいに指導

後日､｢馬っ子フェスタ」で下級生や保護者にしめ縄づくりを教えることができた。

③ トイレ掃除に学ぶ掃除学習

6 年生の掃除学習では、出前講座「掃除に学ぶ会」から 60 名の方の支援をいただいて一人一つの便器掃除に取り組み学校中のトイレをきれいにした。



一生懸命に便器をみがく子どもたち

汚くて嫌がっていた子どもたちが、どんどんきれいになっていくトイレに「楽しくなってきた｡もっとしたい｡家のトイレもしたい。」と、とても前向きになった。

後日、地域のボランティアさんが掃除の仕方を話してくださり、ハタキづくりを教えてくださった。

④ 年間をとおしての支援

・図書室支援

図書委員の子どもたちとも協力し、月２回の読み聞かせと図書室の工作支援をしていただいた。

毎回４０名余りの子どもたちが参加した。

・クラブ活動支援

碁や昔の遊び、料理やちぎり絵など学校では取り組みにくい内容を支援していただいた。

⑤ 専門家から学ぶ授業支援

獣医師会・ウサギから学ぶ命の学習

２年生に、ウサギと触れ合い心音を聴く取組から命の大切さを指導いただいた。

獣医さんから学ぶ骨と筋肉の話

４年生に、ヤギに触れながら手づくりの骨の模型と実物のカモシカの骨を使って骨と筋肉について指導いただいた。



触って分かりやすいヤギで説明

京セラ・ソーラー学習

４年生に実験を通してソーラー電池の仕組みを指導いただいた。

視覚障がい者理解の学習

障がい者自ら盲導犬を連れて、その生活について話していただいた。

⑥ その他の支援

・家庭科
・ゴーヤ栽培
・水泳支援
・白鳥川の清掃



家庭科・ミシンの支援

・預かり保育
・コスモス畑探検
・大だこづくり　・堤防決壊災害の話
・ビニールハウス見学　・スキー
・ハザードマップ作成　・昔の遊び
・健康ジャンボ紙芝居の上演

⑦ 地域との連携

今年度初めて、ボランティアさんの協力を得て、学区の文化祭で６年生が茶道体験学習を生かしたお点前を披露した。

「丁寧にお茶を出してもらってうれしかった。来年もしてほしい」と喜ばれる取組となった。



文化祭で来賓の方にもお点前披露

また、学期ごとの活動をコミュニティセンターの全戸配布回覧を通じて広報活動に努めた。

さらに、ボランティア交流会を実施して情報交換や新規ボランティアの発掘に努めた。

２【事業の成果】

トイレ掃除に６０名、しめ縄づくりに９名とたくさんの方が参加してくださったので、子どもたちは丁寧な支援に集中して取り組むことができた。

一方、ボランティアさんには、「子育て中に自分の子どもにできなかったことができて、嬉しい」とやりがいを感じてもらうことができた。さらに、自ら知人に声をかけ仲間を集めてくださることも増え、地域の皆で学校を支援しようとする姿が増えた。

また、教師はボランティアさんの助言に「勉強になります。」と自身で学ぶことの大切さを再認識する機会となった。

３【今後の課題】

今年度は、空き教室の都合でボランティアルームがなくなり、打合わせや活動後の交流の場が持ちにくかった。

年度によって継続されない内容もあり教師と十分連携を取り、ボランティアの方々にはそのことを理解していただく必要がある。

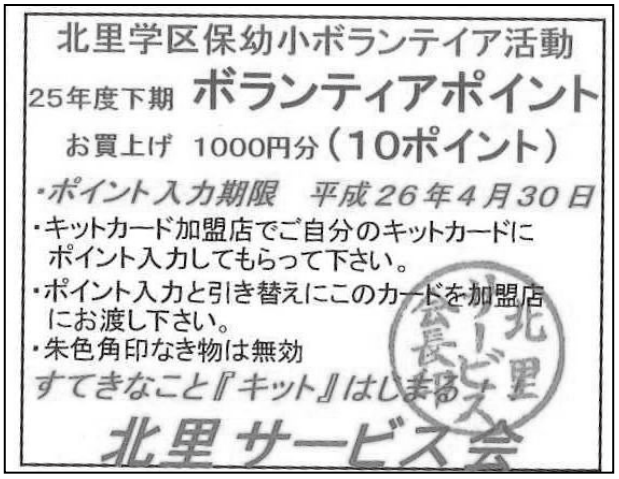
地域ぐるみの学校支援 【近江八幡市】

【従来型】 **【北里小学校支援地域本部】**

1【事業の概要、特色】

（１）地域ごとのボランティア活動

地域を挙げて、実にたくさんの方がボランティアとして支援いただいているので、これまで同様、本年度も北里商業協同組合の御協力を得て、小学校・保育園・幼稚園などへボランティアに来てくださった方々に、北里商店街の買い物補助券をお渡ししている。学校へ来ていただいた方へのお礼と共に地域商店街の活性化につながる取組としてかなり定着してきたように感じている。



（平成 25 年度下期分ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱﾎﾟｲﾝﾄｶｰﾄﾞ）

（２）ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｸﾞﾙｰﾌﾟ［ほんわか］による読み語り

２年前から、落ち着いた朝のスタートと学力向上を目指して、全校で毎朝１０分間読書に取り組んでいる。また、木曜日には読書ボランティアグループ[ほんわか]さんによる「読み語り」を継続している。



12 月の人権週間には学校からの要望で、人権に関する内容の読み語りを、学年に応じた本の選定も含めて実施していただいた。読書ボランティアは在校生の保護者が中心となって活動してもらっているが、読み語り終了後、図書室の整備をしてくださる方もおられる。また、地域には現役時代図書館に勤務されていた専門家もおられ、多いときには週 3 回図書室の整備をしてくださっている。



新刊本の登録作業や、データの定期的なバックアップも担当してくださり、図書館主任と連携しながら、子どもたちを暖かく支えてくださっている。

（３）ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰを核として広がるﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの輪

北里小学校区を基盤としながら、本年度は１１月現在で１０３事業、のべ３１４名の方にお世話になった。

本校児童の一部が自転車通学をしており、地域の自転車屋さんを中心に無料点検を実施してくださったり、昼休みに手づくりおもちゃを運び込んでのおもちゃランドを毎週開いたりして子どもたちのために活動してくださっている。



また、地域探険では、故郷の歴史や史跡の説明など、たくさんの方にガイドしていただいている。

教科の学習支援としても、家庭科のミシン補助や調理実習補助、福祉体験教育のための講師など、これもまた多くの方に来校いただいている。



〈工夫した点〉

○地域の方で、学校に子どもや孫がおられない方にも、広くこの事業を知っていただき、より多くの方にボランティアになっていただけるよう、今年度は、【北里グランドジェネレーション】というグループにたくさんの方にお入りいただくよう、校区の地域全体に声かけをした。略して〈K.G.G.プロジェクト〉を進めている。

学校からのお願い

学校では子どもたちに関わっていただく方を下記の内容で広く地域から求めています。協力してやろうと思われる方は、学校までご連絡ください。

◎連絡先：36-8046　北里小学校　教頭・地域ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ今井まで

＊毎週活動していただいています「読み語り」をしてくださる方

＊昔の遊びを教えたり、昔の暮らしを話したりして学習を支援して下さる方。※

→※北里のグランドジェネレーション（おじいちゃんおばあちゃん世代）としてKGGと名付けます。

〈他校の参考となる点〉

○地域商店街（商業協同組合）との連携をはかるなかで、ボランティアポイントカードを発行し、地域商店街の活性化に繋がる事業展開を実施していること。

○地域を基盤とした豊富で多方面にわたる人材を確保することができたこと。

○実績記録は確実に残すが、人材バンク的なものにとらわれず、適宜必要なボランティアさんに依頼していること。

○保護者のみならず、学区全体に情報発信していること。

２【事業の成果】

（１）地域との連携

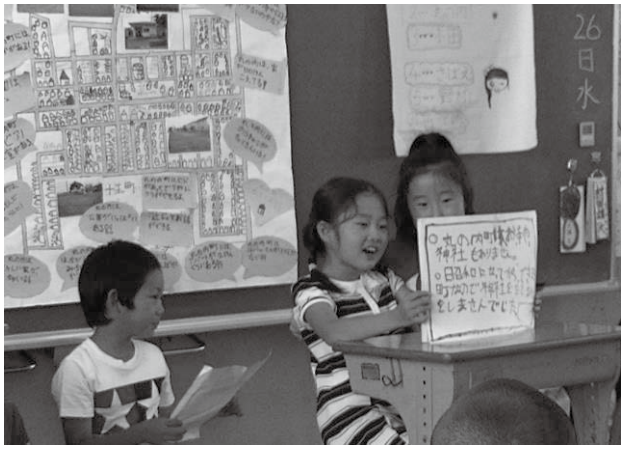
教育活動に協力いただいた方々に、お礼の手紙や成果物、ボランティアポイントを渡した。中には学校にお招きして感謝状や試食会を催した学年もあった。

ボランティアポイントは現保護者は対象外とし、それ以外のボランティアの方々に渡した。このポイントは北里商店街のみに有効ではあるが、大変好評であった。地域の活性化にも貢献している。

（２）地域→学校→地域の循環型学習

本年度も校内研究と繋ぎ合わせて実践している。単に話を聞いたり教えを請うといった受身の学習ではなく、子ども自らが課題を持って地域に出て行き課題を解決する学習活動を行っている。例を挙げると、３年生の子どもたちが校区のことを調べるため、校区の各地域に出かける際、マップづくりに取り組んだ。それぞれの地域で、ボランティアさんに貴重なお話を聞き、地域のすてきな所をそのマップに書き込んでいく。子どもたちの活動が進んでいく中で、「ここはなぜこうなっているのかな？」、「このことがもっと詳しく知りたいな！」などの思いが湧いてくる。そのことをまとめて地域の方にもう一度聞いたり、お手紙で出したりしたのである。

地域の方は、質問されたことに答えてくださったり、便せんに質問の答をぎっしり書いてくださったり、老人会を招集して、みなさんから聞き取っていただいたことをまとめて送っていただいたりと、何度も双方向のやりとりがあった上で、学習の深まりへと繋がっていった。



最終的には、子どもたちがまとめ上げた地域のマップが、校区のお店に展示してもらえることとなった。



３【今後の課題】

本年度で５年を経過した本事業であるが、教師一人ひとりがこの事業の意義を深く理解し、自らがコーディネートできる力を持つことも必要であろう。そのためには、教師が地域に愛着を持ち、進んで地域に出かけ、情報を収集・教材化して、地域と共に子どもを育てるというさらに高い意識が重要であると思われる。

また、本事業をPTA活動の活性化や、地域のまちづくり協議会等の組織との連携にもつなげていきたいと考える。

学校支援の取組の深まりをめざして 【近江八幡市】

【従来型】 **【武佐小学校支援地域本部】**

1【事業の概要、特色】

本校では、平成 21 年度の 3 学期から本事業を展開している。地域ぐるみで子どもを育てる体制づくりをめざし、スタート時ボランティア登録者 20 名から始まり、現在 84 名に至っている(スクールガード約 120 名は別に)。また、平成 23 年度から、登録者の中からまとめ役として各町の代表と活動内容ごとの代表を決めボランティア活動の推進に関わっていただいており、学校支援の取組が定着してきている。今年度も本事業の一層の深まりをめざして、学校と地域の方々との連携を進めている。

◇ 町代表…８名
◇ 活動代表…５名（家庭科・図書・水泳・田畑・昔遊び）

〈工夫した点〉

・コーディネーターが地域のコミュニティセンターや自治会の行事に積極的に参加し、ボランティアの継続と新たな人材発掘に努めた。
・担任にボランティアを活用した取組例を紹介し、授業に取り入れやすいようにした。

〈他校の参考となる点〉

登録していただいているボランティアさんとのつながりを深めるために
・来校者用とは別に ８４名全員の名札を玄関に常備し活動の際に利用してもらっている。また、全員宛の封筒を用意し月１回「学校だより」とともに「ボランティア通信」を配布して情報の共有化を図っている。
・ボランティア室には湯茶を用意し活動の事前打ち合わせや事後の反省を行うほか、教育や生活について語り合ったりする憩いの場となっている。また、図書ボランティア用に読み聞かせ絵本や紙芝居を用意し、図書についての話し合いに役立っている。(絵本は季節に応じて入れ替えている。)
・お礼の手紙やパーティへの招待のほかに、運動会の招待状や年賀状を子どもたちが手書きで全員に送っている。また、音楽会や卒業式などの学校行事にもボランティア席を設けて全員に参加を呼びかけている。

〈活動事例〉

◆図書ボランティア



毎週水曜日の始業前に 13 名のボランティアさんが教職員とローテーションを組みながら本の読み聞かせを行っている。ボランティア室に置いてある本以外に、自ら用意して積極的に活動していただいている。発足当時は、おばあちゃん世代のボランティアさんの読み聞かせが多かったが、年ごとに若いお母さんの参加が増えてきた。「若い人にしてもらって。」と遠慮されるボランティアさんも出てきたが、子どもたちにとって色々な世代の方に読んでもらうことが大切とボランティアさん全員に声をかけている。今年度は、年配の女性ボランティアさんに手づくりの大型紙芝居（1 年…『はしの上のオオカミ』、3 年…『稲むらの火』)を読んでいただいたが、大きな画面と上手な語りが好評であった。また、昨年度から参加された年配の男性ボランティアさんからも「よい機会を与えてもらって喜んでいる。」との声をいただいた。夏休みの図書室整備には 13 名以外の図書ボランティアさんにも参加をいただいている。



◆家庭科ボランティア



本校は、家庭科ボランティア支援が充実している。５・６年生のミシン・裁縫の実習には、発足当時から常時８～１０人のボランティアさんが来てく

だきって色々な技術指導を支えてくださっている。玉結び・玉どめ・なみぬい・本返しぬい・ボタンつけなどの基礎縫いの学習、アイロンがけ、ミシン操作、ナップザックの開き口の始末など、何回も学校に足を運んでいただき、細やかでていねいな個別指導のおかげで、子どもたちの技術も向上し家庭科好きの子が増えている。また、低学年のぜんざいパーティや３年生のもちつき大会にも参加をいただき、積極的に活動していただいている。

◆田んぼ・畑・環境ボランティア



本校には、２０年前から田んぼ・畑のボランティアとして協力いただいている地域の方がおられる。その方の田んぼをお借りして、農業委員の方を加え３名のボランティアさんと一緒に、毎年２年生と５年生が田植え・稲刈りを体験している。今年の春は苗の生育がおもわしくなく田植えが心配されたが､秋には｢今年は豊作です｡｣と言っていただき､子どもたちも大満足の様子だった。また、前述のボランティアさんには毎年学校園の整備もお世話になっていて、子どもたちがサツマイモやカボチャを植えて学習に役立てている。





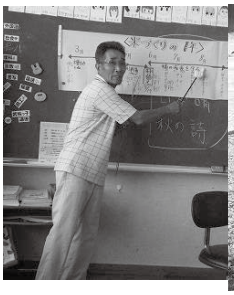
花壇づくりや校舎周辺の草取り・掃き掃除には、毎年１０名以上の環境ボランティアさんに協力いただいている。



◆地域学習〈ゲストティチャー〉

社会科やむさっ子学習(総合的な学習)で地域のさまざまなボランティアさんと出会い、豊かな学びを展開している。

１・６年…「たけのこ掘り」
３年…「町探検」各町の様子・野菜づくり
豆腐店・近江牛の飼育
ムシャリンドウ展
４年…「くらしを守る」消防団・警察官
「蛇砂川の改修工事」
５年…「地域の産業」近江牛・米作り
「どろ料理」など









◆その他のボランティア

障がい者理解・外国の文化・昔のくらしや遊び・クラブ・水泳・運動会等学校行事時の駐車誘導など、幅広い活動に支援をいただいている。

２【事業の成果】

本事業の展開５年目で支援活動が定着してきた。ボランティアさんは小学生だけでなく中学生とも顔見知りになり、声をかけ合ったりして、子どもと地域の大人がつながる関係が整ってきた｡｢あの人は○○でがんばっているし、私は○○でがんばるんや｡｣｢なんぼでも協力するし言ってや｡｣と､ボランティアさんも生き甲斐を持って取り組んでおられる。本事業が継続されてきた成果と言えるだろう。

３【今後の課題】

昨年は実施されたが今年できなかった活動がいくつかある。マンネリにならずに、教職員のさらなる理解の必要を感じる。協力いただける地域の方はたくさんおられるので、やる気のあるボランティアさんがもっと活躍できるよう、コーディネーター自身も努力をしていきたい。

八幡西中学校　学校支援の取組　【近江八幡市】

【従来型】　【八幡西中学校支援地域本部】

１【事業の概要、特色】

(１)平成２５年度八幡西中学校教育協議会の設置(４月)および、役員の一部改選と協議会の開催(４月・８月・１月)

◎支援活動実施計画の策定と実施要綱の広報活動および、ボランティアの募集活動を行う。

(２)学習支援活動の実施(５月～３月)

◎不登校傾向を示す生徒および、保健室登校の生徒の学習支援を行う。学習できる部屋の確保と学習教材の調達および、学習支援ボランティアの人材の確保をする。

◎読書活動の一環として図書館の利用を活発化させるため、図書の整理と拡充および、図書の管理（製本・修理・登録・廃棄など）を行う。

(３)部活動支援活動の実施(４～３月)

◎前年度から指導にあたっていただいている部については、引き続き指導をお願いし、今年度から新たに指導を願う部については、広報活動を行い、地域人材を活用して指導していただく。

(４)各種学校行事への支援

◎ＰＴＡとの協力の下、行事内容に詳しい卒業生の保護者(ＰＴＡのＯＢ・ＯＧ)や八幡西中学校に興味関心のある地域の人たちに参加を依頼する。今年は体育大会や文化祭でのボランティアをお願いした。

(５)補導活動および、登下校時のパトロール

◎少年補導員の指導の下、主に長期休業中の街頭補導活動(昼間・夜間)や不審者に対する予防策として登下校時の安全パトロールを実施する。

(６)環境整備活動への協力支援

◎県下一斉で行われる環境活動（年間３回）に取り組む。また、ＰＴＡ本部やＰＴＡ環境整備部と協力し、校舎の美化活動や花植えなどを行う。

(７)地域コミュニティーセンターとの共同事業への参画

◎桐原学区コミュニティーセンターの事業である「地域花いっぱい運動」の拠点となり、季節の花の育成と栽培および、地域施設への頒布を行う。

(８)事業成果報告会の実施

◎本年度の学校支援事業の実施状況や活動成果および、次年度に向けた取組について報告する。

２【事業の成果】

(１)部活動支援活動の実施



部活動については､毎年、大きな支援をいただいている。２５年度、支援いただいた部活動は、軟式野球部・ソフトボール部・男女軟式テニス部で、ほぼ、１年をとおしてお世話になっている。

これらの部活動の支援員さんは練習試合、公式試合にも時間が許せばベンチに入り、指導をしていただいている。また、技術指導だけでなく、マナーや試合に臨む心構えなど、学校教育方針に沿って指導していただいている。今年度、野球部が県大会、近畿大会に優勝し、全国大会に出場できたのも支援員さんによる指導もかなり大きなウエイト占めている。

生徒数の減少に伴う教員数の減少により、部活動の指導や維持が難しくなってきている中で、支援員さんによる部活動支援は、生徒の部活動を保障するとともに、学校の活性化にもつながっている。

今後も、これらの部活動については、指導・支援を継続してお願いする予定である。

(２)の各種学校行事の支援



今年度も、記録用として、入学式をはじめとした各種行事のビデオ撮影や写真撮影を支援員さんにお願いしている。ホームページの更新作業も、支援員さんにより定期的にお願いしている。

行事等があった場合は時間をおかずその日のうちに情報を提供していただいている。



今年は、修学旅行での情報提供をホームページ上に構築し、保護者が利用しやすく変更していただいた。

(３)環境整備支援

支援員さんとＰＴＡによる環境整備事業と位置づけ年間をとおして計画的に取り組んでいただいた。



大きくは、夏休みの一斉除草作業と、記念式典２週間前に行ったビオラとパンジーのプランターへの花植え活動をＰＴＡ本部・環境整備部と支援員さんとの合同で取り組み、除草や水やりといった日常の世話を支援員さんにしていただいた。

支援員は時には､友人や地域の方をも誘われ、夏の暑い日にも熱心に水やりや草取りの世話をしていただいた。そのおかげでいっさい枯れることもなく花を育てていただいた。

中庭の花壇には、ミニひまわり、アリッサム、マリーゴールドが植えられ、黄や白、ピンク、オレンジと色とりどりの花を植えていただきプランターのビオラやパンジーとともに、校舎を美しく彩ってくれている。

正面玄関の植え込みも、１年をとおして計画的に実施し、５月から途切れることなく、美しい花の数々が本校を訪れる方々の目を楽しませてくれた。



３月の卒業式、４月の入学式の頃には、さらにチューリップが花を咲かせ、ストック、桜草とともに、ピンクのグラデーションで華やかに彩る予定である。



また、中庭の校長室に面した花壇にも同じようにチューリップ、ストック、桜草が植えられ、卒業式や入学式を含め、校長室を訪れたお客様の目にも届くようにと、いつも細やかな心配りをしていただいている。

３【今後の課題】

学校支援地域本部事業を立ち上げ５年目になるが、地域の人が、中学生や中学校を支援していただくことの難しさを痛感する。今年も支援員募集の案内を行っているが、予想以上に中学校の敷居は高いようで、思ったように人を集められない現実がある。「学校の考えるニーズと地域の支援者の一致」が事業発足当時からうまく進展しないという点にあると思われる。また、支援員さんの高齢化が進み、今年度限りの支援員さんもおられ新たな人材の確保が急務である。

・別室登校の生徒や怠学傾向の生徒の数が増加しているが、学習の補助をお願いするこの分野の人材の発掘ができていない。教職経験者や本校卒業の大学生や保護者の協力、さらには、候補者の新規掘り起こしなどを行いたいと考えている。

・１２月１０日現在、支援者登録数は、合計２０名である。昨年度に比べ半減した。しかし、年度が終わろうとする現在まで、支援者を十分に活用できていない。今後は年間計画の中にしっかりと位置づけ、教科や総合、学活での活用を促進したい。

・今年は西中だけのコーディネーターがいないため、教頭・教務を中心に、登録の支援者情報や状況を全教職員に周知徹底し、その都度、活用計画を立て実施する。また、次年度は本校の実情に見合ったコーディネータの発掘を進めていきたい。

・事業全体にマンネリ化が見られ、発展的に拡大していかない。この壁を何とか打破していきたい。

老蘇小学校の取組　【近江八幡市】

【従来型】　【老蘇小学校支援地域本部】

.

【事業の概要、特色】

本校は豊かな自然に恵まれた田園の広がる農村地帯である。学校支援地域本部事業も今年で３年目となるが、水田学習や作物の生育に係る作業などで、地域の方に支援をいただいている。また、毎年 11 月に保護者や地域の方に支援をいただき、学校、家庭、地域、が一堂に会しての交流活動を行なっている。

〈工夫した点〉

ボランティアの方に地域学習や家庭科実習等、いろいろな場面で支援をいただいている取組の情報発信として『ボランティア通信』を発行し、活動の様子を紹介している。

〈他校の参考となる点〉

支援をいただいた活動については、同行したり授業風景を撮影記録したりして子どもたちといっしょに参加し、記録しておくと、次年度に担任が替わっても資料として参考にしていただける。

〈支援活動の紹介〉

１年生

・さつまいも苗の植え付け



２年生

・たけのこほり



３年生・フレンドマート見学



・養鶏場見学





・養豚場見学

・蓮根栽培見学







４年生

・ハチミツ搾取体験



・いちご狩り



・菜の花の刈り取りと脱穀



・菜種油工場見学



・ゴミの学習



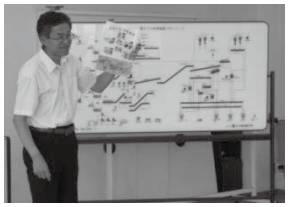
・調理実習



・西の湖学習



・クリーンセンター見学



５年生

・アイヌ文化体験学習



・シーサー制作



水田学習

・もみまき



・田植え



・びわこ揚水場見学



・仔魚の養流と観察会



・稚魚の放流



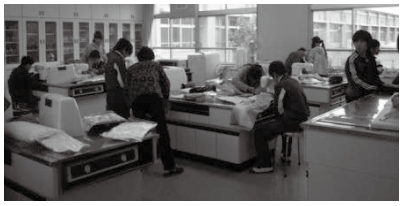
・稲刈りと脱穀



・お魚学習会



6年生　・家庭科ミシン実習



・茶道体験



・茶碗制作



・メガソーラー発電



5年生・6年生　携帯安全教室



全学年　・運動場芝生化作業



・全校縦割り遠足随行支援

・読書ボランティア“くすくす”さん

・オープンスクール支援

おにぎりつくり



おもちつき



しめ縄作り



2【事業の成果】

3年目になる本事業であるが、職員数も少ない本校において、地域のみなさんのご支援が子どもたちの学習や活動に有意義なものとなっている。特に水田学習や菜種学習、地域学習においては、自分達の住む地域について詳しく知り、関わってくださる方々とも交流をもつなかで、地域に対する関心や愛着を深めることができた。

3【今後の課題】

ボランティアの登録人数が少なく、依頼する人も限られている。ボランティア登録募集もなかなか成果が出ない状況である。老蘇地区にまちづくり協議会の拠点がつくられるのを機に、地域の方と共に子ども支援として連携をしていけるようにしていきたい。

地域の力を学校に！！学校支援ボランティア 【近江八幡市】

【従来型】 **【安土中学校支援地域本部】**

１【事業の概要、特色】

本校は学校教育目標として「自律・鍛錬」を掲げ、その実現のための１つとして「家庭・地域と共生し信頼と連携が図れる学校」づくりを進めている。

以前から本校では、「安土の子は安土で」をスローガンに、さまざまな教育活動の中で地域の方々の協力をお願いしてきた。

この事業３年目となる今年度は、昨年度展開していた事業の継続とそれぞれの事業の充実を図ることに重点を置くこととした。今年度も地域の人材の中から多くの方々にボランティアをお願いしている。今年度は以下の活動を行うことができた。

①環境整備活動

本校には中庭に和風庭園があり、その一角に茶室「天正庵」が建てられている。

ツツジや松、モミジ、桜などの豊かな植栽が見られるが、その手入れが大きな課題となっている。また、同時に校舎周辺や敷地内に植えられている１０００株以上の紫陽花の手入れも大変である。

今年度も地域の方々やＰＴＡの中からボランティアを募り、環境整備活動を実施していった。

○５月２８日（火）

中庭の植栽の剪定と除草活動を中心にボランティア７名・ＰＴＡ１０名の参加のもとで活動した。その後も、個人的に剪定作業に来てくださる熱心なボランティアさんもおられ、すごく助かった。



ボランティアとＰＴＡによる剪定・除草作業

○７月１１日（木）

紫陽花の剪定

ボランティア１３名・ＰＴＡ３名参加

○３月上旬（予定）

中庭の植栽の剪定と除草

②読書活動

本校１、２年生は朝の「こつこつタイム」で朝読書に取り組んでいる。そんな中、月に一回、読書ボランティアさんに読み聞かせをお願いしている。今年度も１６名のボランティアの方々に参加していただき、実施した。

○読み聞かせ活動

毎月第１火曜日に実施

毎回、ローテションを組んで、２学年で実施

○７月２６日（金）

読み聞かせボランティアのための勉強会



読み聞かせ

③茶道活動

本校では地域学習を兼ねた特色ある教育活動の１つとして、茶道体験学習を行っている。

毎年１年生は全員が和室と天正庵を活用し茶道体験学習を行い、お茶の作法を地域のボランティアより学び、２人１組で実際にお茶を点てていただくという体験まで行っている。さらに、昨年度から茶道体験クラブを立ち上げ、部活動のない水曜日に年５回程度、希望者を対象に茶道体験を行っている。

また、本校の文化祭である「天正祭」において、恒例となった保護者向けの茶会を開催した。当日は、事前予約の方を含め多くの参加者を得、大変好評であった。

○５月１５日（水）

茶道体験クラブ（第１回）生徒２０名

○９月２５日（水）

茶道体験クラブ（第２回）生徒１９名

○１０月５日（土）

本校文化祭「天正祭」での保護者向けの茶会

･･･ＰＴＡとの連携

保護者や地域の方２１名が参加

○１１月１１日（月）

１年生（１１５名）茶道体験教室を各クラス単位で実施する。

ボランティアの方…８名

○２月５日（水）

茶道体験クラブ（第３回）（予定）


１年茶道体験教室

④その他

一昨年度から家庭科の授業で地域学習に取り組んでおり、地域の人材を活用し、西の湖の環境保全活動を行う傍ら、西の湖のヨシを食材として活用する取組を進めておられる方や地産地消を推進されている方を招いて授業を行った。

○６月２６日（水）

地元安土町で西の湖の自然環境を守りつつ、西の湖のヨシを粉にして色々な食品を考案されている安土町商工会西の湖プロジェクト「よしきりの会」のみなさんに来校いただき、活動の様子について学んだ。ヨシを使ってヨシちまき・ヨシサブレ・ヨシせんべい・ヨシ玄米茶・ヨシみどりうどんなどを商品化し、地域の特産品として地域おこしに頑張っておられる話を聞いた。

地域ボランティア２名が参加

○１１月５日（火）６日（水）

今回は、地元でスィーツ専門店を経営しておられる方に来ていただき、地元食材を使ったこめこのパンケーキづくりにチャレンジした。蜂蜜も安土でとれた蜂蜜を使うなど、ほぼ１００％の食材が安土原産である。

地域ボランティア２名が参加


２年調理実習

また、夏休み中の３年生の補充学習会に今年度から大学生のボランティアが参加し、教員の手伝いを行った。

〈工夫した点〉

①環境整備活動のボランティアもボランティア自身のネットワークを使い、輪を広げていった。

②これらの取組は、ほぼボランティアの方だけで準備から後始末までお願いするようにしている。

〈他校の参考となる点〉

①一つひとつの取組を大切にし、決してより大きな取組に拡大することなく、同じスタイルで継続させるようにしている。

②ボランティアの方に全面的にお願いしているので、支援可能な範囲の取組に限定している。そのため、学校が対応する負担はそう大きなものではない。

２【事業の成果】

各事業も年を重ねるごとに軌道に乗り、スムーズに運営できるようになった。ボランティアの方の参加も定着し、更なるボランティアの輪の広がりを見せている。地域のボランティアの方々の学校を支える力の大きさには今さらながら驚かされる。

生徒も地域の方々と触れ合い、地域について色々なことを学ぶことによって、地域に対する愛着が芽生えている。日頃の教科等の学習では、なかなかできないことを体験することは、生徒にとって将来何かの役に立つことであろう。

今後も今ある取組を安土中学校の特色ある学校づくりの一環として位置づけ、より一層充実した取組として継続させていくことが必要である。

３【今後の課題】

今ある取組を続けて行くには、ボランティアの方々の存在は欠かせないものである。しかし、同じボランティアの方々にいつまでもお世話になれるわけでもない。取組を続けて行くためには、新規のボランティアの方の発掘が必要である。

また、現在、環境整備活動はボランティアの方だけで行っている。しかし、今後は、生徒と一緒になって環境整備活動ができれば生徒たちはボランティアの方々からボランティアの素晴らしさやその精神の大切さを学ぶところが多くあると思う。

この事業は、学校支援コーディネーターの方の運営力に負うところがとても大きい。今後、全教職員に学校支援コーディネーターの方の動きが今まで以上に見えるものとし、連携を図っていく必要がある。

まだまだ地域には、素晴らしい力が埋もれていると思う。新たな分野のボランティアの方を発掘することで新たな取組がもう１つぐらい展開できればと考える。

岡山幼稚園の取組　【近江八幡市】

【従来型】　**【岡山幼稚園支援地域本部】**

１【事業の概要・特色】

・本年度よりこの事業に取り組むことになり、地域コーディネーターが配置された。「地域の子どもは地域みんなで育てる」という岡山学区民の思いを大事にしながら、幼稚園・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる体制づくりに努めた。本年度は活動１年目なので幼児教育の充実のために地域の人の力が発揮できるような活動を中心に計画を立て取り組んだ。

活動への参加者は、地域の方々や民生委員、前保護者などである。ボランティアの方々は、本年度は登録制にしないで各種団体に声をかけたり、自主的に「支援に行きます。」と言う方々にお願いした。

＊支援事業は、主に次のような内容で取り組んだ。

①保育支援・・・毎日の遊びや生活の支援・給食時の見守り

②環境整備・・・プランターの花植え、植え方の指導支援・除草・樹木の剪定

③託児支援・・・保育参観や保護者が参加する園の行事の時の託児

〈工夫した点〉〈他校の参考となる点〉

「じょうずにかけられたね。」

・今年度３歳児は１クラスが３０名を超えていた。一人ひとりの細やかな支援が必要な３歳児である。毎日の生活において大切にしなければならない基本的な習慣をそっと見守りながら優しく声をかけてくださっていた。子どもたちは認められたりほめてもらえたりすることで、安心して幼稚園生活を過ごし、自信にもつながった。



「ねんど遊びって楽しいね。」

・幼稚園は遊びが生活である。遊びの中からたくさんのことを学んでいく。また、いろいろな人とのかかわりからも学ぶことが多くある。地域の方々と一緒に遊んだり遊び方を教えてもらったりすることで、ひとつの遊びが楽しくなったり新しい発見が生まれたりした。また、優しい声かけによりほっこりした気持ちになって心が安定し、「楽しいな。」「もっとやってみたいな。」という気持ちになり、やる気にもつながった。





「子どもたちが心豊かに安心して遊べる環境に・・・。」（花植え・樹木の剪定）

・子どもたちの身近に四季折々の花を・・・と、環境部のお母さん達と一緒に花を植えた。お母さん達は土づくりから教えていただき「なるほど。」と、手際よくされる姿に感心し、「次はこうして植えよう。」と次につながる作業になった。また、「あの木を切ったらもっと明るくなるのに。」と、樹木の剪定もしていただいた。見通しが良くなり安全対策にもつながり、幼稚園の園庭や玄関に光が差し込み、風も通り見違えるように明るくなった。



「一緒に待っていようね」（託児支援）

・幼い子どもを連れて参観をする保護者が年々増加している。保護者がゆっくりと参観をしたり講演会に参加したりできるように託児支援を行った。「我が子の様子をゆっくりとした気持ちで見ることができた。」と言う喜びの声が多く、お母さん支援につながった。



２【事業の成果】

・地域コーディネーターと共に、幼稚園教育の充実に必要な活動を考えたり地域の人材を探したりしてこの事業を進めてきた。声をかけ日程があうと「その日行きますよ。」と気軽に返事をいただき、地域の方々の協力や子どもを育てることへの思いの熱さを感じた。

・地域の方々に幼稚園に来ていただくことで、まず幼稚園のことや子どもの姿、保護者の思いなどを知っていただくことができ子育て支援のあり方につながっていった。

・子どもにとって、先生以外の地域の人たちにかかわることによって、一緒に遊んだり優しい声かけをしてもらったりして安心して幼稚園生活を過ごすことができた。

３【今後の課題】

・今年度は、３歳児を中心に子育て支援の取組を行った。そのため３歳児の職員との連携はとれていた。しかし、特に子育て支援では、他の学年の職員との連携が十分でなかったので４・５歳児との交流や支援の充実をめざしたい。

・来年度は、職員全員との話し合いを進めながら、保育内容と地域の人材がつながっていくように、地域コーディネーターの役割を深めていきたい。

子どもたちに豊かな体験を・・・ 【近江八幡市】

【従来型】 【桐原幼稚園支援地域本部】

１【事業の概要、特色】

今年度より学校支援地域本部事業に取り組むことになったため、まず保護者や地域の方々にこの事業を知ってもらうことから始めた。ボランティアを募集するお便りを作成し、園で配布するだけでなくコミュニティセンターなどにも置いてもらった。

（１）畑を整備しよう

日時　平成２５年６月１０日
　　７月１１日
対象　地域ボランティア・保護者
内容　秋に園で行われるやきいもパーティの為にさつまいも苗を植える下準備をした。畑を耕し、肥料を混ぜ畝を作る作業をした。夏休み前に畑とその周りの除草をした。

日時　平成２５年１０月３１日
　　１１月５日
対象　保護者
内容　さつまいもを収穫した後の畑の整備とスナップエンドウを育てる為の下準備をした。

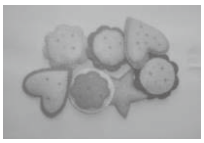


＜畑の除草作業＞

（２）子どもたちに布おもちゃを届けよう

日時　平成２５年９月３０日より
　　大体隔週１回ずつ
対象　地域ボランティア・保護者
内容　寒くなり室内での遊びが多くなる子どもたちに、ごっこ遊びがより楽しくなるようにフェルトでクッキーやドーナツなど布おもちゃを作った。

＜フェルトで作るクッキー＞



〈工夫した点〉

・保護者のボランティアが子どもたちを送った後から参加できるように時間をはっきり決めず参加しやすいようにした。
・その日の活動を園内に掲示し、参加したことのない保護者にも興味を持ってもらえるようにした。
・園庭で子どもたちが遊ぶ姿を見ながら作業することで普段の様子も知ることができた。
・ボランティアの活動状況を地域コーディネーターがお便りで知らせ、興味のあるものから参加してもらえるようにした。



＜耕うん機での畑の土づくり＞

〈他校の参考となる点〉

作業の時間を園児の送迎の時間に合わせたことが良かった。保護者の中には参加するつもりはなかったが、作業を見て参加してみたら面白かったという方もおられた。

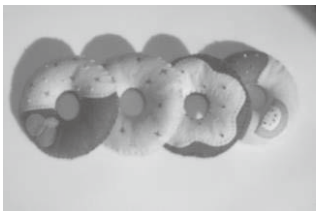
ボランティアに参加したいけど仕事の都合と合わないとの声もあったので作業曜日を毎回変えるようにし、いろんな人が参加できるようにした。

２【事業の成果】

（１）地域ボランティアの中には農業をやっておられる方が多く、肥料の量や種類、土づくりの仕方など勉強になった。おかげで例年よりも大きいさつまいも

が収穫でき子どもたちも喜んでいた。
１学期は手作業だったが、２学期は小さな耕うん機を持っているボランティアの方が来てくださったので土が硬くて草も抜けなかった畑の隅までふかふかにしてくださった。園児の中には耕うん機を初めて見る子どももいて作業の様子を興味津々で見つめ「それ何？」「何してんの？」と話しかけるなど良い経験になったのではないかと思う。
参加してくれた保護者のボランティアの方たちも、「疲れたが子どもたちの『ありがとう！』の言葉が嬉しかった」、「したことのない農作業が面白かった」と言ってもらえた。
(２)手芸ボランティアでは、園児・クラスが多いのでもめ事にならないように布おもちゃも個数を作らなければならず大変だったが、「子どもたちが楽しく遊ぶ様子を思いながらの作業が楽しかった」と言ってもらえた。未就園の子どものいるボランティアの方も、邪魔になるのではないかと遠慮していたようだが、コーディネーターの声掛けによって参加してみると、「子どもと二人きりでいるよりも、いろんな人の中で子どもを見てもらったり、話しながらの作業で息抜きができた」と言ってもらえた。

＜フェルトで
ドーナツ＞



作った布おもちゃを園児に届けたボランティアの方たちは「園児たちももちろん目をキラキラさせて喜んでくれたが、先生方にも喜んでもらえて嬉しかった」、「（年少に届けたので）３歳の時の幼い感じを思い出して、自分の子どもの成長を感じた」など様々な感想を話してくれ、今度は年長・年中の子どもたちにも早く届けられるように頑張ると言ってもらえた。



＜布おもちゃを園児に届ける＞

１学期は初年度でもありあまり活動できなかったが、園だけでなくボランティアの方々にも喜んでもらえることがたくさんあり励みになった。
ボランティアの成果を発信することで事業のことが広がってきて、保護者ボランティアも口コミで少しずつ増えてきている。



＜手芸ボランティア＞

３【今後の課題】

・支援ボランティアを保護者も含めどうやって増やしていくか。より地域、コミュニティセンターと密着して支援ボランティアを増やしていければと思う。
・事業によってはＰＴＡのクラブ活動と似通っているものもあるので連携を視野に入れて活動していきたい。
・今年度の成果を保護者だけでなく地域の方たちにも知ってもらいボランティアへの参加を望みたい。
・保護者と地域ボランティアとの交流がよりできればと思う。

金田幼稚園の取組 【近江八幡市】

【従来型】 【金田幼稚園支援地域本部】

１【事業の概要、特色】

昨年度から事業が始まったので、今年度はその事業を継続し充実してきた。

「絵本の読み聞かせ」「手芸」「栽培」「地域の人や自然にふれる」「木工（大工仕事）」の５つが主な内容である。それぞれの事業でボランティアの方も定着し、仕事の段取りや準備なども自分達で相談し、進めてくださっている。

今年度はボランティアさんののべ人数の増加や参加者の拡大を願ってきた。小さな一歩ではあったが、学区内でこの事業のことが知られてきているようで、地域の方が自らボランティアへの参加を申し出てくださるようになってきている。また、コーディネイターさんから依頼してもらうと、快く引き受けてくださるようにもなってきている。

子どもたちと直接かかわる内容が多いので、ボランティアの方の人柄がそのまま伝わってくるようである。

〈工夫した点〉

ボランティアの皆さんが頑張ってくださったことが子ども達に伝わるような取組をしたいと思っている。しかし、今年度は子ども達との交流会（昨年はおでんパーティーに招待）ができなかったので、音楽会や発表会に招いたり、子ども達が作ったプレゼントを渡したりして、子ども達からの感謝の気持ちが伝わるような取組をした。年末おたのしみ会のなかで、ピアノカバーの贈呈式をして、お礼として子どもたちからもプレゼントを手渡した。 ボランティアの方からも「子どもたちの気持ち」に感謝の言葉が届いた。



〈他校の参考となる点〉

ボランティアの方同士がつながってくださって、自分達で段取りをして、幼稚園の行事等と連携して、見通しをもって取り組んでくださった。

２【事業の成果】

事業も２年目を迎え、コーディネーターさんを中心に定着しつつある。「絵本の読み聞かせ」などは、『この日に行ったらいい』というのが子どもにも分かってきて、楽しみにしている姿がある。クラスに出向く「出前読み聞かせもしましょうか」と、進化した取組も提案いただいている。野菜の栽培活動では、お手伝いいただくことで、収穫の量や質に大きな違いがあり、家庭にも「おみやげ」などとして持ち帰り、家族の会話として広がってきている。また、『栗拾い』や『コスモス畑』などは、園としても行事として位置付けることができた。地域へ出かけてお話を聞く機会ももった。その後、「花火」や「ほたる」のことが家庭でも話題になり、家族で地域に出かけるきっかけとなってくれることを願いたい。

主に、幼児の活動にかかわっての支援が多かった。その成果は子どもたちが、「すごいな」「うれしかった」などのお世話になったことに対して実感として捉えられたことである。



３【今後の課題】

ボランティアをしていただける方が固定化してきている。できれば参加者を増やし、「こういうことならお手伝いできますよ」という方の名簿のようなものを作っていきたい。そうすることでもっと地域の人との交流ができ、人材活用が活発にできるように思う。

また、環境整備や託児などの分野にもボランティアの方々が参加していただけるようにしていきたい。

北里幼稚園の取組　【近江八幡市】

【従来型】　【北里幼稚園支援地域本部】

1【事業の概要、特色等】

(1)ボランティアポイントの取組

・地域の子ども達を育てる上で、多くのボランティアの方々に支えていただいている。北里商業協同組合の御協力をいただき、保育園・幼稚園・小学校にボランティアの提供をいただいた方に買い物補助券を渡し、お礼の１つとしている。

(2)地域・ボランティアとのパイプ役

・初めての実施事業でもあり、まずは、“どのような内容についてボランティアに御協力いただくのか”幼稚園の今までからの地域とのかかわりや特色を活かしながら、年間を通じての計画・立案・依頼等について検討した。ボランティアを申し出ていただいた方や身近な人への連携や橋渡し等を行い、園と地域・ボランティアとのパイプ役として積極的に取組を推進した。

(3)絵本・紙芝居ボランティア

・今までは不定期に依頼していたが、毎月１回年間計画に位置付け実施した。行事の中に組み入れたり、季節に合わせた内容にしていただいたりしている。
また、事前に打ち合わせ、年齢や発達に応じた絵本選び、読み方等についても各自で工夫していただくことができた。



(4)その他の主な事業

・環境整備、お茶会の手伝い、エプロン等の縫製、昔遊びへの参加等があり、年間を通しての見通しを持ち、その都度詳細について検討し、事業展開に努めた。

(5)情報の収集と発信

・近江八幡市主催の学校支援メニューフェアに参加したことは、今後に内容を活かすために効果的だった。
年度当初に学区全戸に事業についてのボランティア募集のチラシを配布したことで関心を持っていただくことができた。
また、幼稚園から発行している情報誌に記事を掲載し月１回発信した。
事業終了毎に、掲示物を作成し、玄関に掲示することで、より多くの方々に内容を理解していただくこととなり、より協力的に参加していただける様子が伺えた。

〈工夫した点〉

(1)地域商店街との連携

・「地域の子どもを地域の住民も協力して育てる」という商業協同組合の思いから、ボランティアしていただいた方々へ「ボランティアポイント」券を発行し、その心遣いが商店街への活性化にも役立ち、共に地域に根ざす取組となっている。

(2) 掲示物を作成展示

・事業終了毎に、掲示物を作成し、園の玄関前に掲示した。多くの方々に活動を理解していただけるきっかけとなった。目に触れて、知らせることで、協力的に参加していただける様子も伺えた。また、身近なところに掲示することで、子どもも保護者も関心をもって見ることができた。

(3)募集チラシの配布

・学区全戸に事業実施をお知らせするとともにボランティア募集のチラシを配布し、活動内容に合わせて人材募集をした。

(4)実施記録作成

・活動毎に、実施内容や参加者、感想、反省、課題等を記録に残し、次回の活動展開につなげた。

(5)ボランティアとの連携の仕方

・活動内容について理解を得る為、電話連絡のみならず、直接お家へ伺ったり、活動毎の文書を配布したりしている。また、コミュニティセンターや各町内の各種団体と連携を図りながら、ボランティアを募り、活動を展開している。



〈他校の参考となる点〉

・地域商店街との連携
・地域をあげての子育て支援
・豊かな人材、提供協力

2【事業の成果】

(1)園児とのコミュニケーション

・カレー・フルーチェづくり、ごっこ遊び用のエプロンやスカート作り、託児ボランティア、お茶会サポート、おだんごづくり、昔遊び、花や球根植えのサポート等のかかわりに加えて、月１回の紙芝居や絵本の読み聞かせのボランティアに来ていただくことができた。

一緒にクッキングをしたり、紙芝居や絵本を読んだりしていただくことで、子ども達は、自然に親しみをもち、笑顔でかかわることができた。来てくださったボランティアの方々も大変喜んでくださり、「また来てね！」「いつでも来るよ！また、言ってね。」と気軽に言ってくださる光景も多く見ることができた。

・子ども達が、栽培・収穫した野菜を使って、お世話になった方々を招いて、「ありがとうの会」（おでんパーティー）を開催した。子ども達の感謝の気持ちでおもてなしができ、楽しい会となった。

・今まであまり幼稚園に来たことがなかった地域の方々も、ボランティアとして幼稚園に来るようになったことで、幼稚園の子どもの様子や活動を知っていただくきっかけとなった。

・コーディネーターとボランティア間で交流する中で、新しい事業を展開できる内容についても情報提供していただくことができた。そのことで、新しい活動展開にもつながった。



(2)ボランティアの声

・月１回の紙芝居が定着してきた。紙芝居が終わるや否や、子ども達からアンコールの声！ボランティアさんは、とても感銘を受けられ、嬉しかったと言う声を幼稚園に届けてくださった。「この紙芝居だったら、子ども達が喜んでくれるかな？」「今回は、反応が良かった！」など回を重ねる中で、次回へのまた、それ以降の訪問への意欲につながり、園としても、この上ない喜びとなった。

つながりを通して、日々への活力や楽しみを持っていただき、「子ども達に、もっと～してあげたい！」等生きがいになったことは嬉しいことである。

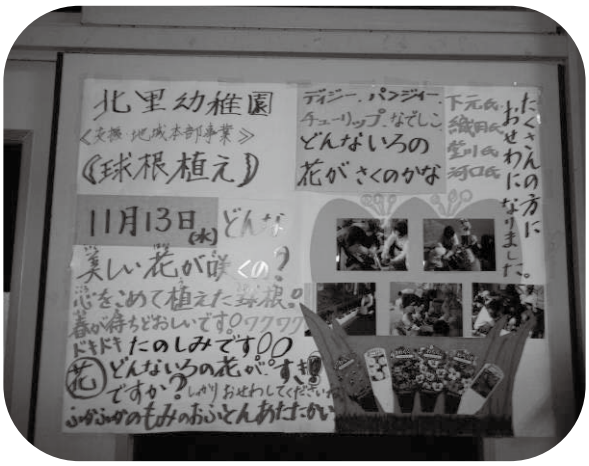


3【今後の課題】

・今年度初めての本事業であるが、１人の声が次から次へと参加を呼び、ありがたいことに参加者が増加しつつある。１年間を見通し、事前に大まかな計画を立て、年間を通じて、楽しくボランティアとして来ていただくように、かかわっていきたい。

また、ボランティアとの交流を深める中で、「こんなこともできるよ！」というボランティアさんの声も聞きながら、園の行事や活動内容と合わせ持って、園児が喜ぶ活動へと発展していければと考える。

・地域で子どもを育てることに力が注がれ、より健やかな子どもの育成につながるよう地域の人材を生かしていきたい。



地域の方と共につながる園教育を！　【近江八幡市】

【従来型】　**【老蘇幼稚園支援地域本部】**

1【事業の概要、特色】

今年度初めて学校地域支援本部事業に取り組むことになり、①子どもたちが気持ちよく過ごせる環境づくり（栽培活動・除草作業・木々の剪定作業・ペンキ塗り・キウイ収穫など）②絵本の読み聞かせ（週２回定期的に）③託児支援（参観など園行事の間）を中心に教育活動を支援する。まずは、この事業を保護者や地域の方に知ってもらい、支援ボランティアを募集し、できる方が、できる時に活動に参加してくださるよう、コーディネーターの調整のもと事業を進める。



＜絵本の読み聞かせ＞

〈工夫した点〉

・今年度の支援内容がわかるように３つに絞り、保護者や地域の方に事業を知ってもらえるよう手紙を配布し、ボランティアを募った。

・絵本の読み聞かせでは、継続的にメンバーが集まり、毎月の計画を立て交流を図るようにした。

〈他校の参考となる点〉

・地域のことをよく知り、幼稚園教諭経験のある方にコーディネーターを依頼したので、園教育をよく理解してくださり、園の要望に応じた活動を進めることができた。



＜門のペンキ塗り＞



＜おいもパーティーに招待＞

2【事業の成果】

・栽培活動では、土壌づくりから苗植えや収穫まで一緒に行い指導いただいた。収穫できたさつまいもを使っておいもパーティに、お世話いただいた方を招待した。子どもたちからの感謝の気持ちを伝えることができ、全園児で楽しく過ごすことができた。

・園庭の除草作業を手伝っていただいたことで、子どもたちは気持ちよく活動し、運動会も安全に楽しく行うことができた。

・絵本の読み聞かせは、給食後の時間を利用し、4･5歳児は水曜日、3歳児は木曜日と定期的に実施することで、子どもたちに定着し、楽しみに待つようになった。

・支援ボランティアの方も「一緒に遊んで楽しかった。」「パワーをもらった。」と子どもたちとのかかわりを楽しみ、喜んで参加してくださる姿が見られた。

・保育参観や学級懇談会などに、託児をしていただいた。保護者は安心して我が子の様子を見たりかかわったりすることができた。

・事業内容を理解し、園の活動に進んで支援をしたり、協力したりする姿が見られる。

3【今後の課題】

・地域の方とかかわる中で、豊かな人材を発掘し、園の保育活動に参加してもらえるよう、更に努めていく。

・より多くの方に地域ボランティアとして参加していただき、園教育の理解をしてもらいながら、園と地域がともに子どもたちを育てていく体制づくりを進めていく。

安土幼稚園の取組 【近江八幡市】

【従来型】 【安土幼稚園支援地域本部】

1【事業の概要、特色】

1．図書ボランティアの取組

楽しい絵本の世界へ！
園児と保護者とともに




日時：平成２５年度　６月から２月まで、毎月第１木曜日を読み聞かせの日と設定して実施。

３歳児：（１学期）11：00～11：10
（２・３学期）13：30～13：45
４，５歳児　13：15～13：25

対象：保護者、読み聞かせボランティア「ニョキニョキ」

内容：保護者と読み聞かせボランティアが各クラスに入り、降園前のひと時に絵本の読み聞かせを行う。

＜工夫した点＞

・昨年度から行っている絵本の修理や整理は、保護者ボランティアの活動として定着してきたので、今年度は保護者が園児に読み聞かせをしてはどうかと声をかけた。

・安土学区で活動しているお話ボランティア「ニョキニョキ」の協力で、読み聞かせのコツや絵本の選び方などの助言を得ることができた。ペアでクラスに入ることで、安心感がもてた。

・クラス担任は、読み聞かせをとおして子どもたちとゆったりと絵本に親しむことができた。また、保護者のよさに気づくことができた。

・保護者の読み聞かせが定着できるように、毎回の実施後の担任からの感想アンケートを実施して、保護者が自信を持ち、楽しんで活動できるように投げかけていく。

2．環境ボランティアの取組

子ども達が安全に遊べるように！
園庭遊具の修理

日時：平成２５年４月２９日
9：00～11：30

対象：地域及び保護者ボランティア

内容：３歳児棟園庭にある木製遊具の床が腐食していたので、板の張り替え修理をする。

＜工夫した点＞

・入園当初の早い時期に修理ができるように地域の方に協力依頼して、実施できた。

・修繕後、幼稚園の職員で防腐剤を塗り、地域・保護者・教職員がともに環境整備した。



3．今後の課題

・環境、託児、図書のボランティア３本柱を、今後もしっかりとした計画を立て、年間のボランティア活動内容を考えて実施していきたい。

・ボランティアを募った保護者に協力依頼するだけでなく、時には保護者全員に呼びかけて、都合のつく時間に実施できる内容を考えていきたい。

地域の目を学校教育活動へ『栗中サポーター』　【栗東市】

【従来型】　【栗東中学校支援地域本部】

1【事業の概要、特色】

生徒指導を基本に据えた本校の学校支援地域本部「栗中サポーター」活動も６年目に入った。現在３６名の方々に「栗中サポーター」として組織に携わっていただいている。活動当初から携わっていただいている地域の方、元保護者の方、そして現在の保護者の方と、それぞれの立場から、それぞれの“地域の目を学校教育活動に”というスタイル原点に、日々様々な形で学校支援をいただいている。授業時間中に校舎内を巡回し学守日常の授業の様子を参観したり、通見日々姿な路でのり立番指導で登下校のっては、生徒たちにとっては自然なことのがあることが、今の学校生活の中に栗中サポーターのっている。



危険箇所での通学状況の見守り



美化活動を兼ねた授業の見守り



図書室の蔵書登録作業の実施



三者懇談会期間の駐輪場パトロール

また近年は、栗中サポーターと生徒との協働活動を取り入れ、地域に活動範囲を広げた取組も行っている。今年度は、生徒会や部活動との協働活動としての地域清掃活動や、栗中サポーターと生徒との協働菜園「栗中コミュニティガーデン」で収穫された野菜の地域向け販売などを実施した。このような取組を地域に発信することは、生徒たちの活動する姿や、その活動を支援していただいている栗中サポーターの取組を、地域の多くの方々に知っていただくきっかけとなっている。地域と学校が「地域で育ち学ぶ子どもたちを共に育てていこう。」とする共通の目的をもち活動しているということを、広く地域に認知してもらう機会となっている。







栗中サポーターと生徒が栗中産の野菜を育て、２年生勤労体験学習「起業体験」店舗で地域に販売





玉ねぎを収穫し、ＪＡ栗東市直売所で地域に販売







「みんなの生活向上隊」として、栗中サポーターと生徒が地域清掃を実施

2【事業の成果】

地域の方々が「栗中サポーター」として様々な側面から学校教育に関わっていただくことで、生徒たちが頑張る様子を直接見て、地域では見られない生徒の良い一面を知っていただける機会となっている。また、生徒たちは地域の方々が、自分たちの学校を大切に想い行動していただいている姿を通して、地域への愛着を深めているようにも感じられる。

3【今後の課題】

「栗中サポーター活動」を、安定した取組として定着させるためには、同じ活動内容を長く継続させることも大切ではあるが、活動形態をマンネリ化させないように新しい取組に挑戦していくことも大切である。これまでの取組を大切にしつつ、それらを基盤としてさらに発展的な活動も交えながら、息の長い支援活動としていきたい。そのためにも、地域からの声や学校の願いを広く聞きとり、活動に反映させていくようなコーディネートが求められている。

スクールサポートネット なすびぃずの取組
～しもしょう サマースクール 2013～ 【湖南市】

【従来型】 【下田小学校支援地域本部】

1【事業の概要、特色】

下田小「なすびぃず」では、今年度も引き続き子どもたちに近い活動を進めてきました。そんな中、保護者の中から「夏休みに**宿題会**みたいなものをしてほしい」という声が上がり、下田地域のボランティアさん、本校出身の中学生や日枝中地域コーディネーターさんの協力を得て「**しもしょう サマースクール 2013**」を実施しました。

〈事業の目的〉
- 夏休みの宿題・学習を少しでも進められるようにする。
- 夏休み中、なかなか会えない友達との交流。
- 地域の中学生と下田小学校の児童との交流。
- 地域のボランティアとの交流。

〈事業の内容〉

開催日時と場所
- ８月４日(日)下田小学校
  Ａ日程　９：30～11：45
  Ｂ日程　14：00～16：15
- ８月５日(月)下田まちづくりセンター
  Ｃ日程　９：30～11：45

参加費　Ａ・Ｂ・Ｃ日程ごとに１５０円（学習後のおたのしみ材料費等）

対　象　下小１年生～６年生の児童

参加人数　Ａ日程/２２名
Ｂ日程/２１名
Ｃ日程/３０名　のべ７３名
実質　４０名の参加

参加ボランティア
- 地域のボランティア　１０名
- 日枝中学校生徒ボランティア　１５名
- 他中学校生徒ボランティア　２名
合計　２７名

８月４日（Ａ）		８月４日（Ｂ）		８月５日（Ｃ）	
9:15	集合	13:45	集合	9:15	集合
9:30～10:10	学習	14:00～14:40	学習	9:30～10:10	学習
～	休憩	～	休憩	～	休憩
10:20～11:00	学習	14:50～15:30	学習	10:20～11:00	学習
～	帰りの準備移動	～	帰りの準備移動	～	帰りの準備移動
11:15～11:45	おたのしみ	15:45～16:15	おたのしみ	11:15～11:45	おたのしみ

《当日スケジュール》

活　動　風　景〈1日目〉

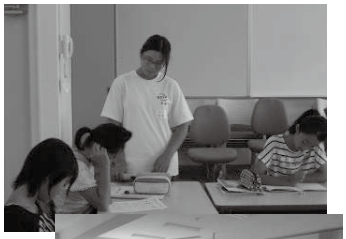


←朝のあいさつ





勉　強　風　景　①





勉　強　風　景②





みんなでお昼→



《おたのしみ》
クリームソーダ作り





←みんなでポーズ♪
おいしいよ！！

活 動 風 景〈2日目〉



←朝のあいさつ





勉 強 風 景





集 合 写 真↑

〈工夫した点〉

① 準備の段階から、地域の中学生との交流を図っていきたいという思いから、中学校に「生徒に先生役として参加してもらいたい」と伝えたところ快く引き受けてくださり、本校出身の生徒への募集チラシの配布や、参加者への事前説明会の実施に御協力いただいた。

② 小学生が学習をするということで、小学校を会場に利用させていただくのはもちろん、地域との関わりも大事であるという思いから、まちづくりセンターも会場として利用させていただいた。

③ 参加児童、参加ボランティアの名前をわかりやすくするためにそれぞれ、児童用とボランティア用の名札をつけるようにした。

④ 集中して学習をできるようにと考え、低学年と高学年で学習する部屋を分けて活動をすすめた。

⑤ 学習だけの会では子どもたちも楽しく参加できないのではないかと考え、おたのしみの時間を設けた。おたのしみでは中学生が中心となって小学生の子どもたちとクリームソーダをつくり、みんなで一緒に楽しい時間を過ごした。



2【事業の成果】

〈小学生〉

① 低学年は図書室(下田小)、小会議室(まちづくりセンター)、高学年は会議室(下田小)、1階和室(まちづくりセンター)と学習室を分けたことにより、集中して学習できた。

② 学習プリント(実力テスト)を各学年分用意、解答も用意、自由に選べるように設置したことで自主学習が進んだ。

③ 卒業生である地域の中・高・大学生が学習を指導してくれたことで子どもたちの意欲が高まった。

④ 夏休み中ということもあり、時間に余裕もあり、友達との交流の場としても参加したいという子どもたちもいた。

⑤ 学習後の「クリームソーダ作り」はとても盛り上がって喜んでもらえた。

〈中学生〉

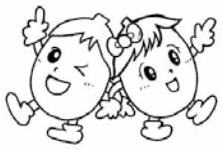
① 事前説明の時から「遊びではなく学習」という主旨を理解してくれていて集合時間に遅れることもなく、自転車も整理して停めていた。

② 私語も少なく、自分の担当として決められた小学生を責任もって指導していた。

③ 最初は戸惑っていた中学生も時間を追うごとに自信がついた顔つきに変わり、心の変化を見て取れた。

〈中学生の感想〉

・ なかなかできない貴重な体験ができた。
・ 人に教えるということはとても大変だと知った。
・ 教えた子が理解してくれた時はとても嬉しかった。



3【今後の課題】

・ 低学年の学習プリントがすぐになくなってしまった。そういうときに、100マス計算のプリントなどがあれば対応しやすかったように思う。
・ 高学年は自主学習で何をするか決めていない子もいて、それを考えている時間がもったいなく感じた。
・ 夏休みの課題以外の問題集をしている子どもの対応に困ったので、次回からは「夏休みの課題」だけに統一したほうがよいのではないか。
・ ボランティアさんの配置や担当、全体の流れを事前にもう少し打ち合わせできていれば、スムーズに進めることができたのではないか。

「東っ子応援団」の取組 【湖南市】

【従来型】 **【三雲東小学校支援地域本部】**

1 【事業の概要、特色】

学校と家庭そして地域が、子どもの課題を共有し、課題解決に向け、一体となって連携の方向を探るとともに地域の大人との様々なふれあい活動をとおして、子どもの安全と学習活動の充実を図る。そのために大きく次の３点を中心に取組を進めている。

○ 学習活動を支援する。
○ 安心・安全を確保する。
○ 学習環境を整備する。

また、昨年度まで取り組んでいた事業に加え、本年度は、甲西中学校、三雲小学校と合同で甲西中学校区３校合同事業にも取り組んだ。

〈工夫した点〉

○ 収穫感謝の会を、児童の自治的な活動に位置付け、運営や接待を児童自身が行うことによって、農園ボランティアさんとの交流をより深めるようにした。



○ やがて中学校に入学する２小学校児童と中学生が交流を通して、円滑な小中連携に資するためである。

〈他校の参考となる点〉

○ 農園ボランティア・スクールガード以外のボランティア活動は、ボランティア登録制を採らず、常時オープンな形の募集を行っている。

具体的には、２・３年生のまち探検のゲストティーチャーや引率ボランティア、５年生の手縫い・ミシン補助ボランティア等の募集は、

・ 保護者へのお便りによる募集
・ 地域への回覧による募集
・ 校内行事時に校内にポスター掲示をして募集

といった方法をとっている。

自らの喜びとしてボランティアに参加くださる地域の人材発掘ができたことや、保護者がボランティア参加することにより、子どもの様子や活動のニーズを理解して継続的に参加する方が増えたことが利点である。

（１）従来からの事業

○ 農園ボランティア





○ 図書館支援ボランティア
○ 読み聞かせボランティア
○ 学習支援ボランティア
○ 登下校見守りボランティア



（２）本年度新規事業

○ 中学校区３校合同交流会

中学校区の学校支援本部事業運営委員会の席上、両小学校の児童が中学校に入学するまで、あまり交流活動を持てておらず、また、中学校のことを知る機会も少ないことが、中学校進学への不安につながっているのではないかという意見が見られた。そこで、小小連携・小中連携を意識した事業の立ち上げを検討し、本事業の実施へとつながった。





期　日　平成 25 年 11 月 30 日（土）
場　所　湖南市総合体育館
参加者　児童生徒総数 30 名
内　容　軽スポーツを通した交流
・　大縄跳び
・　スポーツ皿回し
・　ドッヂビー
・　スポーツ吹き矢
・　ダーツ
・　カローリング
・　パラバルーン







2　【事業の成果】

○　野菜の苗の植え方などを直接教わりながら活動し、収穫の喜びを味わうことができた。



○　図書室の環境が良くなり、子どもたちが気持ちよく図書室を利用し、すすんで読書活動ができた。
○　登下校時の子どもたちの事故もなく、日々の通学における安全が確保されていた。
○　呼びかけにより、保護者の自発的な見守り活動も、見られるようになった。
○　家庭科・生活科・総合的な学習の時間などを豊かなものにすることができた。



○　３校合同交流会はグループ単位の軽スポーツ活動を取り入れたことにより、うち解けるまでが比較的早かった。こうした交流を通じて、他校や進学先に顔見知りができることの効果は大きい。
○　平素から大型紙芝居の朗読でお世話になっているボランティアグループに、本校３０周年記念式典の場で、地域の歴史を伝える紙芝居を披露いただいた。



○　３校合同事業の実施は、副次的に各校地域コーディネーター同士の情報交換や相談の機会を増やし、今後の各校の取組の方向性を考える機会にもなった。

3　【今後の課題】

○　ボランティアの人数や事業の回数を増やすことだけではなく、現在実施している事業の中身について、より効果的な交流のあり方を考えるという観点で検討することも大切である。
○　開かれた学校づくりのため、あるいは地域の災害時避難場所としての学校をより知ってもらうために、子どもや孫がいない地域の方にも学校へ気軽に来て頂けるような活動を平素から仕組んでいく必要がある。
○　合同事業の開催にあたっては、社会教育諸団体との連携の下、日程調整や参加協力依頼を検討することで、参加者を増やすことができるのではないか。

みくもっ子支援委員会　この一年　【湖南市】

【従来型】　【三雲小学校支援地域本部】

１【事業の概要、特色】

本事業が始まって、今年で３年目を迎えています。地域の方へまず学校へ足を向けてもらおうと始めたボランティア活動（掃除・環境・通学・図書室見守り、学習では「水泳・陸上・クラブ・昔あそび・ミシン」）と大きな事はせず子どもたちに寄り添うということで細く長くを、スローガンに活動をしてきました。徐々にですが定着しつつあります。

今年度より「家庭教育支援事業」が本校でも始まり、家庭教育支援チームとも連携をとり進めています。

子どもたちが、お客様ではなく、自分たちから“やろう”という姿があちこちで育つよう見守りながらボランティア活動を進めています。



スクールガード講習会



おはなし会



掃除ボランティア

＜工夫した点＞

今年は、この事業をもっと知ってもらうために学校、家庭、地域に発信できるよう、学校からの広報「みくも」に「みくもっ子支援委員会」のコーナーを作っていただき、活動等知らせています。それにより、保護者、区、各種団体の方々がコーディネーターの存在も知っていただけるようになり、声をかけてくださる方もあります。

＜他校の参考となる点＞

一人ひとりのつながりでボランティアさんとして学校へ入ってもらい、子どもたちと関わりを持ってもらい。何かできる事が他にもあるかなという思いを持って頂ける方、ボランティアさんから声をかけてもらい広げてもらっています。

どんどんボランティアさんを増やすのではなく、地域の方から声かけなどで関わってもらっています。

２【事業の成果】

☆今年度は子どもたちの情緒の安定を主におき、環境ボランティアさんを中心に活動しました。

三雲小学校のシンボルである「心の鑑」の花壇や、玄関前の花壇などに地域の方が家で育てて下さった花の苗を植え、生き物係の子どもたちが当番制で水やりをするなど、授業の学びとして入れてもらっていました。

暑かったこの夏、先生の手やボランティアさんの手をかり夏休みも水を絶やすことなく花は枯れることがありませんでした。

ボランティアさんによる草刈り剪定のおかげで前庭にある“びわこ池”にはハスの花が咲き、“心の鑑”にもきれいな花が写っていました。



環境ボランティア



シンボル「心の鑑」



びわこ池のハスの花

☆地域では、更生保護女性会の皆さんが校門前での挨拶運動で、子どもたちと関わって頂きました。

☆毎年、地区で行っておられる“ゆめまつり”には、先生も関わって頂いて全校の子どもたちの「夢」を大きなうちわに書き、御輿とともに練り歩きました。この御輿も環境ボランティアの方が作り直してくださいました。





地域の行事へ

☆先生方も登下校を見守って頂いています。



先生方の相棒

☆秋から冬への花の植え替え
子どもたちからお手伝を申し出る声が



前庭の花壇の花の植え替え

☆三校コラボ事業

今年、初めての試みとして甲西中学校、三雲東小、三雲小の３０人が集まり、色んなスポーツに挑戦しました。

子どもたちは時間とともに全員笑顔になり、みんな、和気あいあいで楽しむことができました。



コラボ参加者集合写真

大きな布を使って



準備はいいかな



中では和気あいあい

３【今後の課題】

・先生とボランティアさんとの関わりをもっとスムーズに伝わるよう思いや意見を聞く。
・現在関わっていただいているボランティアさんをいかに細く長くお願いできるか。
・地域保護者の方々へのこの事業の定着化。
・今後、子どもたちが、自分の力で行動できるように見守っていこうと思っています。
・今までと同じく欲張らず、三雲小のペースでやっていこうと思っています。

地域と共に子どもを育てる 【湖南市】

【従来型】 **【日枝中学校支援地域本部】**

【事業の特色】
「地域の方は学校へ、子どもは地域へ」を合言葉に学校応援団と共に様々な活動を展開。子どもを決してお客さんにするのではなく、持てる力を十分に引出しながら近くで見守る事を意識している。

【概要、工夫、成果】
○三年生キャリア教育



４名の方に来校頂き、現在の職業に対する思い、努力、経緯を思いのままに語って頂いた。
【工夫】生徒の感想を届けると共に後々も生徒達と交流して頂く事を依頼し、手紙や応援メッセージなどを頂き教室に張り出した。
【成果】講師の方が帰られる際に「楽しい時間を有難う、また手伝わせてや」とおっしゃって頂き一年生の仕事インタビューの先にも御協力頂く事ができた。
　自分の未来が定まらない子ども達が「挨拶、礼儀、努力」など、今頑張らなければならないあたり前のことを親に言われるのではなく、現在、第一線で活躍されておられる第三者の方から聞く事で素直に受け止めることができた。

○夏休み学習会



部活の始まる前に宿題に取り組む時間を組み込み、地域の方に学習指導に入って頂いた。
【工夫】敢えて幅広い年齢層の方に講師を依頼した。
【成果】高校生は、自分たちが普段から急かされることをしんどいと感じている分、子ども達に十分に待つ時間を与えようとするし、６０歳の方には孫の年代にあたるため温かく接して頂け、普段の学習とはひと味違う雰囲気の中で学習を進めることができた。

○サマースクール（小中連携）



小学校からの夏休みの宿題を中学生に見てもらえないかという依頼に応えた。
【工夫】指導員になりたい子どもを立候補で集めた。また、事前に説明会を設け自分たちの任務を確認したことで当日、非常にしっかりとした仕事をする事ができた。
【成果】運動や芸術ではなかなか成果を発揮できなかった子どもが「理科、社会は僕に任せてください」と胸をはって挨拶をすることができた。どの子も２日目には「私は、この子を見ます」と言ってくれたりプリントの仕分けをするなど自ら大人の手伝いをする姿もみられた。
　小学生の保護者の方や地域の方にも中学生の素晴らしい力を感じて頂ける事となり、冬休みの「書初め」の宿題を一緒にする第二弾の取組にも発展することができた。

○図書室大改造、昼休み開館支援



「地域連携による学校図書館活性化ワークショップ事業」に申込みをしたことにより急遽、人手が必要となったことが功を奏し、夏休みにたくさんの地域の方が図書室に足を運んで頂くきっかけづくりができた。また、その中から昼休みの開館のお手伝いの応援をしてくださる方も募ることができ現在日替りで図書の整理、飾り付け、催事のお手伝いを担って頂いている。

【工夫】応援団室を利用し休憩しながら応援団同士が顔を合わす機会を意識的に設け、日頃の不安、悩みを話し合う時間を定期的につくるようにしている。

応援団個人のバーコードを作り学校図書の貸し出しを可能にした。公共図書館から遠い地域なので喜んで頂けた。

【成果】地域の方の『目』があることにより図書室でのマナーが格段に良くなった。図書支援員の方と協力し合い、地域の産業を紹介するコーナーや、歳時の取組も充実することができた。

地域の方と自分達で作りあげた図書室はやはり愛着があるのか、本の整理もスムーズである。大きくリニューアルしたことで驚きは大きかった。マンパワーの偉大さを知る取組であった。

○調理実習補助



家庭科の調理実習に地域のお料理が得意な方にお願いし補助に入って頂いた。

【工夫】実習台にお一人ずつ入って頂くことで細かいポイントまで聞くことができるようにした。

生徒自らにやらせ、近くで見守る、困った時だけ助けると言う事を事前にお願いした。

【成果】生徒からは「今日の調理実習、ほんまに楽しっかった」の声を聞くことができた。地域の方からは「子どもが通っている間は調理室に来た事がなかったのに思いがけなく入らせて頂けて良かった」「自分の得意なことでお役に立ててうれしかった。声をかけてもらってありがとう」と言って頂け今まで、中学校は敷居が高いと思われていた主婦層に突破口が開けた事となった。

○お弁当教室

土曜日に参加者を募り、お弁当教室を開催した。



【工夫】学区内の健康推進員、管理栄養士に応援を依頼した。

レンジ、冷凍野菜なども使い自分で作れる簡単なメニューにしながらも野菜をしっかり摂れる献立にした。

仕事で「出し巻」を焼いておられる保護者の方に講師として来て頂いた。

【成果】地域の健康推進員の方の存在をあまり知る事がない子どもが自分達が健やかに育っていくために実に沢山の大人の方がボランティアで活躍してくださっている事を知る事ができた。

参加者だけではあるが、お弁当づくりが大変ではなく楽しいことを知ることができ、高校生になり給食が無くなっても不安になる事なく進学できる子ができた。

〈他校の参考となる点〉

地域の方に学校にきてくださいとどれだけ声をかけても用事もないのに来ることはまず有り得ない。行事を開催する事により一度、来て頂けた方は学校のファンになって頂ける。まず、やってみるしかないのではないかとも感じる。

先生方の手は煩わさないことは基本にしているが、校長先生、教頭先生には顔を出して頂くことをお願いしている。

来校された方が、来て良かったんだ、歓迎されているんだと安心をされていることが伺える。

【今後の課題】

配布物を渡す子、タウンメールの活用も半数位、地域の回覧板も目に止まらない様で広報に悩まされている。

また、授業時間の確保のため、通常の授業の中で特別な行事は組込めない。休日も部活動、学習塾に通うなど時間に余裕のない子が多いため、行事に参加してくれることが非常に難しい。保護者も仕事に出られる方が多く、一部の方にあれもこれもお願いしている現状は否めない。

しかし、参加者からは来て良かった次もお願いしたいと言って頂ける。いろんな取組が恒例となり予定をあけて待ってくださる取組になるまで時間をかけて広めていきたいと思う。

蒲生地区　学校支援地域本部の取組　【東近江市】

【従来型】　【蒲生地区学校支援地域本部】

1【事業の概要、特色】

「蒲生の子は蒲生で守り育てよう」というスローガンのもと、当本部は蒲生地区内の３小学校と１中学校で構成されている。各学校と地域の特性を生かした取組を行うとともに、児童・生徒も地域の構成員であるとの考えから、子ども達が地域の大きな行事にはできるだけ参加出来るように調整をしながら支援してきた。特に５年前より実施している小人数を複数自治会で受け入れてもらう「あかね通学合宿」（該当児童の約５０%が参加し７会場で実施）は、今年度からまちづくり協議会と連携して取り組む事ができた。

〈工夫した点〉



各学校の地域とのつながりを大切にし、学校の伝統的な取組にしていくように提案をしながら支援をした。

蒲生西小学校の４年生は環境学習で近くを流れる日野川に出かけ、魚や植物の観察から川の大切さや怖さをボランティアから学び、学習のまとめに保護者と共にゴミ拾いをした。このことは蒲生地区まちづくり協議会が「蒲生野の日」を定め、川の整備に地区全体が取り組んでいることと結びつき、地域の大きな動きに同調できた。

蒲生東小学校では福祉学習のまとめに地域に出かけ、高齢者サロンの企画運営を計画している。この取組は前年から続いていて、高齢者サロンからリクエストが来るまでに育った。

蒲生北小学校、蒲生東小学校では、老人クラブの方やＪＡ、農業委員、ボランティアと一緒に学び、収穫した米で餅つきをするまでの学習を計画した。

また、今年度は蒲生地区の一大イベントである「あかね夏祭り」「あかねいきいきフェア」に地域のよさこいチームと一緒に運動会の演技を発表する機会を得ることができた。児童の参加によって祭りは大いに盛り上り、日頃の学校での指導を地域の皆さんにみて頂ける機会になるよう支援した。また、中学生のイベント参加を予定していたが、天候の都合で中止になり次の機会に期待したい。

〈他校の参考となる点〉

ボランティアを依頼する時は、必ずお目にかかってお願いしている。また、コーディネーターの人脈をフル活用しながら学校の要望に添ったボランティアを探してきている。

2　【事業の成果】

学校に地域からボランティアをお願いするだけでなく、児童、生徒が地域の行事に参加してくれることでこの事業が地域に浸透してきた。

通学合宿においては、積極的に受け入れていただける自治会が増え、地域と子どもの繋がりが深まった。

地域では児童生徒の現状を見て頂く機会が多くなった。

３小学校を担当することで、学校内の設備や環境の違いが見え、小さな環境美化に取り組むことができた。

複数年関わっていると児童・生徒に顔見知りが増え、ボランティアとの人間関係もでき、お互いに声をかけやすくなったと聞く。



3【今後の課題】

○児童・生徒が主体的に活動する支援を地域と一緒に考えていくこと。
○押しつけるボランティアではなく、子どもの課題・要求に添った支援をすること。
○子ども達と地域の人々双方が学び合える事業にする。
○「できることを・できる人が・できるときに」ボランティアが日常的になるようにする。
○学校が組織体として機能しないことから、事業の趣旨や内容に理解が得られないことがある。

湖東第一小学校　学校支援地域本部の取組　【東近江市】

【従来型】

１【事業の概要、特色】

本校の教育目標にある子ども像の一つに「ふるさとに学ぶ子ども」がある。その具現化に向けて、学校支援ボランティアの方と協力しながら、実践を進めてきた。

本年度は、初めてということもあり、手探り状態で進めてきたが、実践をするなかで、地域には多くの「人・もの・こと」があることを実感できた。特に、保護者・地域の人と人との繋がりやまちづくり協議会、地域で活動しておられるボランティアなどの情報から多くの方の協力を得ることができた。

〈工夫した点〉

本校ボランティアは自分から積極的に出てこられることは少ないが、情報を得てお願いに行くと快く引き受けてくださる。「おらが学校」という意識は強く、様々な児童に対しても粘り強く丁寧に支援をしてくださる。

地域コーディネーターは、まず先生との学習内容の打ち合わせをしっかり行い、そのことをもとに下調べやお願い、打ち合わせなどを行うようにした。学習したい内容をしっかり伝えておくことや質問内容なども連絡をとり、伝えておくように心掛けた。それでも、子どもたちから予想外の質問が出たりしたが、「このことを学びたい」がはっきりしていたため、うまく対応していただいたことが多かった。

〈他校の参考となる点〉

初めての取組であり、試行錯誤が続いているのが現状である。地域に相談できる人材がいてくださると、いろいろな情報を得ることができ、心強い。学校の中に地域の方が入って一緒に活動してくださることが、情報発信の一つになったり、子どもたちの活動の活性化につながったりしているように感じるので、これから定着できるように実践を積み重ねていきたい。

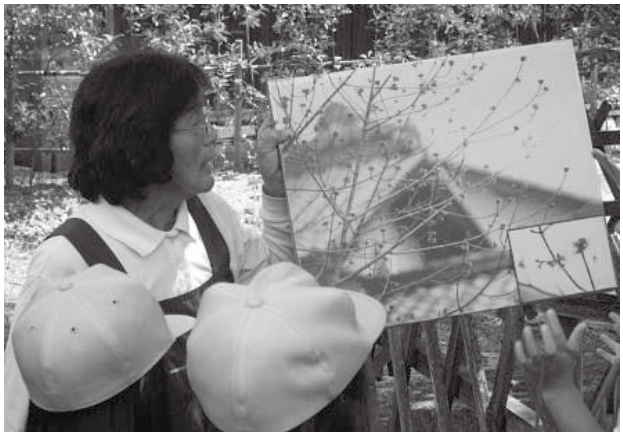
２【事業の成果】

年間：読書ボランティア
１年：昔遊び（３学期）
２年：ＪＡ・郵便局の見学・下里町探検
　　パソコン研究所の見学
　　図工の支援
３年：地域探検
　　（化け灯籠・ハナノキの見学）
　　福祉体験（アイマスク体験）
　　地域出身の目の見えない方の話
４年：福祉体験（車いす体験）

【湖東第一小学校支援地域本部】

５年：家庭科（ミシン実習支援・収穫祭調理実習支援）
６年：音楽科（音楽会の練習支援）
　　総合的な学習の時間
　　（パナソニック見学）
　　菊水園の見学（３学期）
３年・４年・５年：たんぼのこ
全校：芸術鑑賞の紹介と打合わせ
　　除草作業・絵本の広場
クラブ活動：探検クラブの探検場所の選定・下調べ

○３年地域探検：ハナノキの話を聞く　北花沢のハナノキを見学し、地域の方の話を聞く。



○絵本の広場：「お話ポッケ」や読書ボランティアの方の協力を得て、３日間開催（12月９日～11日）



３【今後の課題】

どの学習にどのような人材が必要か、どこに行けばよいのかなど、先生方と情報を共有していくことが大切であると感じる。

また、今年度実践してきたことをもとに来年度へどのようにつなげていくのかを、先生方と考えていきたい。

湖東第二小学校　学校支援地域本部の取組　【東近江市】

【従来型】

１【事業の概要、特色等】

当事業の取組を始めた２３年度は、まず保護者に声をかけ、無理な場合に地域にお願いするという手順をとった。その結果、保護者に学校支援ボランティアとして応援しようという意識が高まり、実際に多くの保護者の協力を得られるまでになった。

２４年度は地域の方に少しでも多く支援してもらえるよう心がけた。まち協（KoSVo＝湖東スクールボランティア）への協力要請はもちろんのこと、校区にお住まいの方々からの支援がいただけるように努めてきた。

そして、２５年度は、２４年度を引継ぎ、保護者・地域の方の支援の定着を図った。

〈工夫した点〉

例えば高齢者の方の体験談が聞きたい場合、まず、在籍している子どもたちの祖父母に依頼する。次に、校区内自治会の自治会長に直接伺って、支援していただきたい学習の趣旨をていねいに説明し、各組回覧用のチラシ配布についての理解を得るようにした。

また、チラシの中には、支援をお願いする内容だけでなく、この事業の趣旨も加えた。こうすることで、学校が今何を求め、何をしようとしているか、地域の学校への理解につながったと考える。

〈他校の参考となる点〉

数年間の取組から、概ね学校支援の年間見通しと支援実績ができた。そのため、早い段階から支援要請と支援依頼の仕方が定着した。また、「今年はないのですか？」と地域の方から問い合わせがくることもあり、学校支援が地域に根付いてきたと感じている。

２【事業の成果】

年間…読み聞かせボランティア



【湖東第二小学校支援地域本部】

１学期…図書室ディスプレイ制作・まち探検・花苗ポット移し替え

○まち探検

本校は、ふるさと学習を推進していることもあり、地域にある史跡等の説明を地域の方にお願いしている。子どもたちに分かるように説明することが難しいというボランティアの悩みも聞くが、学習に大いに役立っている。



まち探検…神ノ池

２学期…ミシン実習支援・裁縫実習支援

○野菜生産農家の見学・むかしの遊び支援・むかしのくらし体験



野菜（トマト）生産農家の見学

３学期…むかしのくらしのお話

３【今後の課題】

◇保護者ボランティア同様、年度始めより地域向けのボランティア登録の発信ができるとよいが、その場合、具体的に学校ではどんなことを地域の方に求めているのかの詳しい説明が必要となる。

◇ボランティア活動をＰＴＡ事業に組み込むことで保険にかかる経費の解消につなげたい。（低コスト運営＝長期継続）

湖東第三小学校　学校支援地域本部の取組　【東近江市】

【従来型】　【湖東第三小学校地域本部】

1【事業の概要、特色】

この校区は従来田園型の地域であったが、近年は旧来の「町」周辺にドーナツ型に新興住宅が立ち並び、新たな自治組織のニュータウン（108/992戸）が急増した。さらに旧来の地区にも周辺に核家族世帯が立ち並んでいる。それらの住民は近くの町出身の者が多いので、ある程度昔ながらの感覚を残しながらも、都会型の環境で育つ児童が本校在籍児童の半分を越えているのが現状である。だから、当然家庭での地域伝承も途絶えがちである。

そこで、本年度開始する本事業では、「地域学習」の原点に立ち返り、職員のフィールドワークを足がかりにして、本地域の歴史やくらしに重点を置いた学習からスタートした。





フィールドワーク（7月30日）
左：鯰江地先取水口付近
右：「愛知井」天明大改修記念碑



1年竹水鉄砲遊び

具体的な事業

□ゲストティーチャー
1年：水鉄砲遊び
3年：農園体験・スーパーマーケット
　　伝統地場産業（鋳物工場）見学
5年：車椅子体験・田んぼの学校
6年：平和祈念館での平和学習

□学習支援
5･6年：家庭科ミシン

□施設整備
学校ボランティアによる図書整備（大規模改修に伴う図書の移動・整理）

□教育環境
＊学校行事時の託児（授業参観・講演会・懇談会）
＊下校指導（学校安全の日）

□職員研修（上記写真）
地域学習として『愛知井（ゆ）をたどる』（注＝湖東地域を流れる愛知川が天井川で、愛東地区の鯰江地区の伏流水を水源とする人工河川）

〈工夫した点〉

この地域の住民意識を形成してきた「愛知井」のことを教職員が深く知ることで、地域学習の根本的な視点を形成しようとした。さらに校区内には、小林吟右衛門（近江鉄道の敷設に尽力した郷土の偉人）邸が現在（財）『近江商人郷土館』として、開館している。ここもフィールドワークに組み入れた。

〈他校の参考となる点〉

1．4年生で「愛知井」を中心に据えた総合的な学習を組み立てて実施した。
2．現在この地区で広域下水道工事の本管設置工事が行われている。その現場の様子を地元小学生に見せるという事業が行われた。4・5・6年児童が見学したことで、この地域の「地層」の様子を見ることができ、総合的な学習に幅（農村下水道と広域下水道の違いも含めて）が生まれた。
3．1年生の生活科では、昔遊びとして労務員と地域コーディネーターが竹製の水鉄砲を作り、協力実施した。

2【事業の成果】

1．地元在住者が地域コーディネーターとして就いたことで、校外地域学習に広がりが生まれた。
2．一昨年度から実施している他校のスタイルに倣って、学校ボランティアを募り、本校の校舎大規模改修に伴う図書移動や、家庭科学習等に協力が得られた。
3．地域学習の事前学習として、「東近江の『豊椋』地区を知ろう」と題した小冊子を作成し、活用したことでフィールドワークが充実した。
4．湖東地区「まちづくり協議会」のKoSVo（湖東スクールボランティア）との連携を得て、互いに「小学校と地域連携」に関する理解が深まった。

3【今後の課題】

1．どのような形であれ、この地域への愛着を形成することが大切であるが、「地域」とは詰まるところ「湖東地区の『豊椋』」を強調することになる。旧来の「家」が加速度的に独居世帯になり、ドーナツ状に住む現在の生活形態（いわゆる空洞化）を見つめ、児童が現在の地域の問題に気づく学習も必要である。
2．学年ごとの取組が次年度に発展的に継承されることが大切である。そのために、「取組一覧表」を作成し、「成果と課題」を盛り込みながら次年度に引き継ぐ形を模索中である。

箕作小学校 学校支援地域本部の取組 【東近江市】

【従来型】 【箕作小学校支援地域本部】

１【事業の概要、特色】

箕作小学校が開校して、早くも４年目を迎えた。本校の目指す学校像の柱の一つに、「地域とともに歩む学校」を掲げているが、新設校ということもあり、地域との連携は始まったばかりである。

その第一歩として、「箕作小学校応援団」を立ち上げ、開校初年度から進めてきた。「箕作小学校応援団」は、ボランティアとして学校における学習活動や安全・安心の確保、環境整備などについて協力・支援をいただける保護者や地域の皆様による組織である。

年間を通して花壇や学習園、田んぼなどの整備をこの応援団が中心となって行っていただいている。また、読み語り・学校図書館ボランティアやスクールガードの方々と連携し、学習と安全確保の支援もしていただいている。

〈工夫した点〉

・ボランティアをいつでも受け入れられる体制づくり。
・申込みの期限はあえて設定しないでボランティアを募集。



★稲刈りボランティア

☆学習支援ボランティア

家庭科の調理実習・裁縫学習の支援、社会科の郷土史・昔のくらし･遊び、戦争体験などの語り部、理科の実験・観察の支援、工作などの実習支援、農業（田植え・稲刈りなど）環境学習支援、外国の生活や文化の語り部、英語活動のゲスト、読み語り・図書の整理・読書支援・学校図書館の環境整備、クラブ活動の支援、（料理・コンピュータ・手芸工作・陸上等）、校外学習の支援、町たんけん、スキー教室、遠足・登山など



★読み語りボランティア

☆環境整備ボランティア

花壇・プランター整備、校庭の除草・整備、植栽の整備支援、校舎内の清掃・整備支援、ビオトープの整備など

☆安全・安心ボランティア

登下校の安全見守り、放課後や休日の安全見守り地域パトロールなど

２【事業の成果】

箕作小学校応援団の取組も４年目を迎えて、各学年で実施するプログラムも定着してきた。また、回を重ねることで交流も深まった。その上、学校支援地域本部事業として、地域コーディネーターを配置したので綿密な打ち合わせができ、内容も充実した。

３【今後の課題】

次年度、鳥取方式でグラウンドの芝生化を計画している。環境整備ボランティアの方々との更なる連携強化を図っていく必要がある。

市原小学校支援地域本部の取組　【東近江市】

【従来型】　【市原小学校支援地域本部】

１【事業の概要、特色】

学校で学ぶ子ども達は、地域の生活の中で大きく育つと考える。健全な身体と健やかな精神を育むのは、地域の教育力が最も影響を与えているのではないか。子ども達の教育環境をより豊かに、また安全にしていくため、本校でも学校支援地域本部の取組を開始し、今年度は、４つの事業を進めた。

1. いつも身近に本を置こうプロジェクト
2. 花いっぱいの校区にしようプロジェクト
3. 特技を子どもに活かそうプロジェクト
4. 地域の文化遺産を紹介しようプロジェクト

＜事業その１＞
いつも身近に本を置こうプロジェクト

これは、子ども達がいつも身近に本と親しめるように、また本をとおして地域のつながりを深めることを目的としている。具体的な取組内容としては、まず各家庭で眠っている本や辞典、参考書などを募集した。

そして地域の方の協力を得て、子どもたちとミニ図書館を作成し、それを自治会館など地域に設置していただいた。

そのミニ図書館が子どもやお年寄りなど地域の人々が集まる場になるよう考えている。



このプロジェクトには古くなった本をいただくという点で、永源寺図書館にも協力していただいた。

＜事業その２＞
花いっぱいの校区にしようプロジェクト

環境委員会の子どもたちが育てた苗を各地域の花壇できれいに咲かせて市原小学校区を花のある環境づくりをしたいという思いから始めた。

まず、環境委員会でマリーゴールドなどの花の種の植え付けをした。苗がある程度育ったところで地域へ配布した。

事前に校長が各自治会へも声をかけておられたので、各自治会からも花の苗を取りに来ていただくことができた。

また、２学期の後期委員会では地域の方をお招きし、花の種まきを御指導いただいた。今回はデイジーとパンジーを育てる予定をしている。

種まきをしてから１ヶ月がたち、苗が成長してきたところで、地域の方にポットに植えかえていただいた。

もう少し成長したらさらに大きなポットに植えかえて、地域へ配布したり、学校の中に飾ったりする計画である。





〈工夫した点〉

事業の内容を地域に伝えるために地域通信「風の広場」を発行している。

この通信は全校配布の他、各自治会へ配布し組で回覧していただいている。

また、古本を募集したり花の苗を配布したりするときに伝える役割をしている。なお、永源寺図書館や自治会、子ども会などとも連携して取り組むようにした。

２【今後の課題】

今年度から初めて取り組んだ事業であるが、これからもこの事業を継承していくには、学校がこの事業の意義を理解し、積極的に地域と学校の交流を図ろうとする強い意志を持つことが大切である。また、特定の方に継続して支援してもらう仕組みとともに、地区のまちづくり協議会や老人会等の団体や有能な知識や技能をお持ちの個人に働きかけながら新しい人材を発掘していくことが不可欠である。

ただ、理解していただくのには、まだ時間がかかるというのが現状である。

地域通信等で学校支援の輪が広がることを期待している。

五個荘小学校支援地域本部の取組 【東近江市】

【従来型】 【五個荘小学校支援地域本部】

１【事業の概要、特色】

社会の急激な変化とともに、子どもたちを取り巻く環境が複雑多様化し、先行き不透明な今日、学校教育へ大きな期待が寄せられている。しかし、学校だけで子どもを育てていくのには限界があり、教育の基盤である家庭や地域での教育と手を取り合っていく必要がある。

このような状況の中で、今まで以上に学校と家庭、地域が手を取り、子どものよりよい成長を願い、「地域の子どもたちは地域で育てる」という視点に立って連携を深めていく必要がある。こうしたことから、地域の方々の力をお借りして、子どもたちに質の高い教育が提供できることを願い、本事業に取り組んでいる。

（１）日常の学校生活での支援

□クラブ活動での支援

「てんびんクラブ」と称し、和太鼓・生け花・茶道といったクラブを子どもたちが希望し設立した。しかし、和太鼓・生け花・茶道を習ったり、指導をしたりした経験を持つ教師が少なく、十分な教育的効果をあげていくことは難しい。そこで、地域のサークル活動で取り組まれている方々を講師としてお招きしてクラブの指導にあたっていただいている。クラブの時間を通じて子どもと地域の方々との交流の場となっている。



□各学年への読み聞かせ支援

地域の読み聞かせサークルの方に、学年ごとに割り当てを決めて各教室へ出向いて読み聞かせをしていただいている。

子どもたちは、話にひたりながら静かに聞いている。

（２）学校行事での支援活動

□スキー教室での支援

毎年５年生を対象にスキー教室を行っている。初めてスキーをする子どもは、靴やスキー板を装着するのに苦労する。そこで地域の方に声をかけて少人数できめ細やかな指導が行えるように支援をしていただいている。

〈工夫した点〉

□学校だより等で取組を地域へ発信

３【事業の成果】

（１）専門的な知識と技能をもった方が直接、そして具体的に教えていただけるので、子どもたちにとって満足のいく活動となった。

（２）子ども一人ひとりに寄り添いながら、細やかな支援ができるようになった。

（３）子どもが地域の方々と顔見知りになり、地域の方々と親密になることができた。

（４）地域の方が、学校の様子を知ることができるよい機会となり、学校理解につながった。

４【今後の課題】

地域には、「地域の学校のために何か自分に役立てることはないか。」と感じている方がたくさんおられる。こうした学校をサポートしてくださる方々を、今後も発掘し、支援や協力を求めていきたい。





玉緒小学校　学校支援地域本部の取組　【東近江市】

【従来型】　【玉緒小学校支援地域本部】

１【事業の概要、特色等】

この事業は、子どもと地域の方々、学校と地域とのつながりを深めるいわば「地域につくられた学校・子どもの応援団」といえる。玉緒小学校ではこれまでも登下校の見守りや朝の読み聞かせを行ってきたが、昨年度からさらに社会科の地域学習や家庭科の実技指導など、教科学習の支援を行った。児童の学習活動の場面に、地域のボランティアが積極的に関わることにより安全・安心で、快適な学校づくりをめざし今年度も本事業に取り組んだ。

＜工夫した点＞

今年度で２年目を迎えることから昨年度の経験をふまえ早くから事業に取りかかった。昨年の活動を参考にして一年間の予定を早くお知らせしたことで、地域のボランティアの方々にすぐに周知され、引き続き活動していただける方が多かった。そのため、子ども達へもスムーズに関わっていただけたように考えている。

学習支援の例

○１年生活科「あそびのひろば」

数人のボランティアの方に来ていただき、楽しい遊びの広場にするためのお店づくりや、遊び方、景品づくり、看板等のアイデアを教えていただいて一緒に考えながら進めていくことができた。また「秋まつり」当日には、来ていただいたボランティアの方を招待し、子どもたちと一緒に楽しんでいただいた。



３学期には、地域の高齢の方に来ていただき、伝統的な遊びを教えていただいた。

○３年社会科「東近江市の産業を調べよう」

バラや胡蝶蘭を作っておられる方に話を聞きに行き、子どもたちの質問に答えていただき、それを、学習に活かすことができた。

「校区探検」

校区にある、自動車整備工場にお願いして、工場の見学をし、子ども達の質問などにも丁寧に答えていただいた。また、地域にあってもなかなか子ども達と交流ができなかった工場の方もとても喜んでおられたように感じている。



○４年総合学習「二分の一成人式」

「家の人に感謝をしよう」とのねらいで、餅つきを一緒にし、自分たちの成長をともに喜び、祝う取組を支援した。

○５年総合学習「お米を使って」

田植えから稲刈り、収穫祭と、一年を通じて地域の農業委員の皆様にかかわっていただいた。収穫祭では、地域に伝わる「ばら寿司」作りを教えていただき、子どもたちと楽しく交流する場を設けることができた。



○５年家庭科「ミシンを使って」

延べ９名のボランティアの方の協力を得て、ミシンを使った個性的なエプロンが仕上がった。

○その他の活動

・読書ボランティア
・スクールガード
・キャリア教育など

２【事業の成果】

ボランティアの方に継続的な活動をお願いできた。学校との連携も深まり学校の行事や活動に関心を持ってもらえた。また、何度か学校に出向いてもらうことで、子ども達とのふれあいの場が増えたことをとても喜んでもらえた。

３【今後の課題】

地域には、まだまだ潜在的に多くの支援者の方がおられるので、環境支援や学習支援などで自身の経験や専門性を生かした活動の場を設けられたと考えている。

これからも広報活動や啓発活動を進めて行くことで地域と学校のつながりを深めていきたい。

八日市南小学校　学校支援地域本部の取組【東近江市】

【従来型】　　【八日市南小学校学校支援地域本部】

１【事業の概要、特色】

本校は昨年度より学校支援地域本部事業がスタートし、保護者、地域の方にボランティア登録を呼びかけることから始めた。

登録者の支援メニュー

●ゲストティーチャー
…理解を深めるために、直接学習指導します。
●学習アシスタント
…学習活動を効率よく進めるために、教師の指導を手助けします。
●施設メンテナー
…施設や設備の維持管理を支援します。
●環境サポーター
…安全で快適な学習環境を整えます。

〈工夫した点〉

ボランティア登録のお願いを各自治会に回覧板でまわしてもらい、地域の方に広く知ってもらうようにした。

また、南部地区まちづくり協議会や南部コミュニティセンターに協力をお願いし、ボランティア募集のお知らせを掲示していただくとともに地域の窓口になってもらえるようにお願いした。

〈他校の参考となる点〉

・南部地区まちづくり協議会や南部コミュニティセンターとの連携。
・事業が始まる前から活動していた読み語りやスクールガード、見守り隊などとの連携。

２【事業の成果】

『６年生家庭科調理実習補助』

５月に保護者ボランティアの方にお手伝いいただいた。



『特別支援学級のさつまいも植え』

ボランティアと一緒に畑にさつまいも植えをした。

さつまいもの他に、落花生、きゅうり、トマトなども植えた。



『校外学習の引率補助』

校外学習（八日市文化芸術会館、南部コミュニティセンター、大凧会館）の引率補助。



『家庭科の授業補助』

５年生、６年生のミシンを使った授業の補助としてボランティアに入っていただいた。

５年生はエプロン、６年生はナップサックを作った。

保護者、地域ボランティア、のべ 73 名の方々の参加があった。





『図書室の壁面飾り』

保護者ボランティアを学期ごとに募り、季節や本などに合わせて飾りつけをしていただいた。

将来的にはグループとして活動していただけるようにしていきたいと考えている。





『東近江市陸上記録会事前指導』

滋賀学園高等学校の陸上部の先生と陸上部員のみなさんが３日間６年生全員に陸上指導をしていただいた。

高校の先生からは高校生の勉強にもなりますと言っていただいた。





『クラブ活動支援』

手芸クラブに外部から講師をお願いし、エコクラフトテープでかご作りをした。

『はちまき作り』

運動会用のはちまきが年々減ってきていたので、ミシンの授業が始まる前の５月にボランティアにお願いし、直していただいた。

その時に授業で正常に動作するのかミシンの調子も確認していただいた。





『２年生と干し柿作り』

地域の方のご協力により渋柿をいただいたことをきっかけに地域ボランティアに教えていただきながら子どもたちと干し柿作りをした。

子どもたちは、ピーラーを上手に使いうまく皮をむくことができ、うれしそうであった。



『今後の予定』

○５年生：藁でリース作り

○１年生：むかし遊び

○３年生:むかしの暮らし(おじいさん、おばあさんから学ぼう)

○４年生：地域の歴史を知り、未来の自分を考えよう

○５年生、６年生：スキー教室補助

３【今後の課題】

★学校支援地域本部事業に取り組んで今年で２年目になるが、地域の方には、まだまだこの活動が十分に周知されていない。今後、学校支援地域本部事業を地域に広めていく手立てを工夫する。

★ボランティアが活動に喜びを感じ、主体的に参加できるような環境作りが必要である。



船岡中学校区 学校支援地域本部の取組 【東近江市】

【従来型】 **【船岡中学校区学校支援地域本部】**

１【事業の趣旨】

社会が複雑多様化し、子どもを取り巻く環境も大きく変化する中で、学校が様々な課題を抱えているとともに、家庭や地域の教育力が低下し、学校に大きな役割が求められている。周囲を船岡山・雪野山などの低い丘陵や広々とした田園地帯に囲まれ、農業を営む家庭も多くある本校区においても、このことは同様の課題となってきている。

このような状況のなかで、これまで以上に学校・家庭・地域の連携協力のもとで、子育てを進めて行くことが不可欠となっている。

そこで、「地域コーディネーター」が小・中学校を兼務することで、子どもの育ちを小学校だけで見ていくのではなく、中学校との小中連携のあり方も模索しながら本事業を進めてきた。ボランティアにとっても小・中学校を通じて関わることができ、地域の子どもや学校の取組に対する理解にもつながると期待している。

(1) 地域の子どもは地域で守る

＊下校時の子どもたちの安全確保のために、１０地区で「子ども見守り隊」を結成していただき、登下校の付き添いや交通量の多い危険な交差点などで立哨いただいている。

子ども見守り隊の取組は、中学生にヘルメット着用や挨拶の声かけの場にもなっている。



子どもたちからも、子ども見守り隊の方々をお招きして交流・感謝の集いを開催したり、第63回東近江市社会を明るくする運動作文コンテスト(小学校最優秀賞)「あいさつが持つ力」で登下校の様子が発表されたり、交流は深まっている。交流・感謝の集いの後も１０地区の取組事例報告や情報交換等を行っている。

（２）教育活動への支援

(ア)学校行事

□ふるさと文化祭(ゲストティーチャー・ボランティア)

＊昔のおやつ・おもちゃ作り＊縄ない体験
＊よもぎ餅作り・餅つき＊戦争体験談

□小・中学校マラソン大会

＊マラソンコース交通立番
＊応援垂れ幕作成

(イ) 日常の教育活動

□１・２年生活科校外学習

＊見学地までの引率（安全指導）・活動支援

□５年家庭科実習

＊裁縫、ミシンの実習支援

□６年総合的な学習の時間

＊身近な地域の歴史を学ぶ

□中学校クラブ活動

□読書（読み語り）

＊月１回・学年学級への読み語り

(3) 教育環境への支援

□校庭樹木剪定

〈工夫した点〉

□学校だより等で取組を地域へ発信
□地域の各種団体との連携を深める
□人材データをファイリング



２【事業の成果】

(1)専門的な知識や技能をもった方の支援により、学習内容や活動がより豊かになった。
内容も質が高く、わかりやすい。

(2)教員は多くの支援者がいることで、人員的にもゆとりが生まれ、一人ひとりの子どもとより関わることができた。

(3)地域や保護者の方々が積極的に教育活動に関われることにより、地域に根ざした開かれた学校づくりに繋げることができた。

(4)子どもたちは地域の方々と交わることを楽しみにして、保護者の方にも好評であった。

３【今後の課題】

子どもたちの学習や生活の充実（現場のニーズ）のため、地域の方々の多方面にわたる知恵や技術、地域の教育力等を有効に活用できるよう、教職員と地域コーディネーターとが連携を密にとり効果的な支援を図りたい。

また、教職員はもとより、ボランティアの方々の交流により、校区の子どもを育てる小中連携を深めていく手立てを探り工夫したい。

平成25年度「読書活動推進事業」　【米原市】

【従来型】　【米原市学校支援地域本部】

1【事業の趣旨】

米原市では、“みんなで本を読もう”をキャッチフレーズに平成20年度から読書に特化した形で学校支援地域本部事業の取組を始めた。その後、平成23年度からの「読書で支援絆事業」に続いて、今年度は「読書活動推進事業」として学校・地域と連携・協力をしながら子どもたちの読書活動を支援している。

2【事業の概要、特色】

○巡回文庫の実施

巡回文庫は子どもたちの手の届くところに本を置き、本に親しむ機会を増やすことを目的に、子どもたちの一番身近である教室に本とおはなしを届ける事業である。

巡回文庫の箱に40冊の本を入れ、その箱を1か月毎に各学校を巡回させることで、子どもたちが常に新しい本に触れられるようにしている。平成20年7月から市内全域の小学校1年生を対象にして開始し、段階的に学年を拡大して、平成24年4月からは特別支援学級に、9月からは5.6年生にも拡げ、現在、市内の全小学校（9校）の全クラスに実施している。



文庫の本は市内公共図書館の本を利用し、修理や紛失処理は図書館が行っている。本の選書も図書館が行い、各学年に合った様々な分野の本がバランスよく入るように工夫している。



学校間の文庫移動はボランティアに依頼し、併せて読み聞かせや本の紹介をしていただくことで、子どもたちが本を手に取るきっかけ作りをしていただいている。

○学校図書館の整備

「モデル校」を設定し、コーディネーターが学校・地域と連携・調整しながら、子どもたちの読書活動を支援している。

「モデル校」は、市内の各地域の4小学校（息長小学校・河南小学校・山東小学校・伊吹小学校）である。



「モデル校」では、読み聞かせボランティア、図書室ボランティアが活発に活動をされている。読み聞かせは、毎月または毎週、定期的に朝読書の時間や昼休みに行われており、子どもたちの本への興味・関心が深まり、読書の幅が広がるとともに地域の方とのふれあいの時間になっている。

図書室ボランティアは、新刊図書の装備、書架整理、本の修理、配架など学校図書室の環境整備に力を入れていただいており、子どもたちが楽しい雰囲気の中で本を選べる環境となってきている。また、壁面制作など図書委員の子どもたちと一緒に活動もされている。



今年度、息郷小学校と醒井小学校が統合して新たにできた河南小学校では、滋賀文教短期大学の平井むつみ教授にアドバイスをしていただき、増加した蔵書を公共図書館と同様の秩序立てたレイアウトに変更し、小学生から図書館利用について学べる環境を整えた。

○おはなしの講習会

「おはなしの講習会」は、学校支援地域本部事業が始まった平成20年度から毎年開催しており、今年で6年目になる。今年度は、受講者の利便性を考慮し、ルッチプ

ラザ　スタジオ 310 や米原市立近江図書館かたりべホールに講師を招き、2 時間程度でテーマに合わせて講習・実演をしていただいた。参加費は無料で誰でも参加可能なため、米原市の読書ボランティアや学校図書主任だけでなく、広く子どもの読書に関心を持つ地域の方々に参加していただけた。

第 1 回は、「言葉と心をつなぐツール」のテーマで、滋賀県立虎姫高等学校非常勤講師　白谷仁子先生による発声と 50 音の発音練習の後、腹式呼吸を意識しながら昔話の『ききみみずきん』や金子みすゞの詩『数字』を題材に朗読を教わった。（ルッチプラザ　スタジオ 310：7/14　参加者 36 人）



第 2 回は、「紙芝居の演じ方」のテーマで、「ファミリー劇団　座・くれよん」の髙橋いさみさんを講師に紙芝居の歴史、準備、心得、紙芝居劇場の組立などのお話をしていただいた。また、実演後、これまでのおはなし会で経験された子どもたちの様子についても伺うことができた。おはなしの講習会は、ボランティアさん同士の交流の場ともなっており、有意義な時間となった。（米原市立近江図書館かたりべホール：9/8　参加者 23 人）



○成果報告会

平成 26 年 1 月 25 日（土）にルッチプラザ　ベルホール 310 にて、平成 25 年度米原市学校支援地域本部事業成果報告会を行う。内容は、開会挨拶の後、地域コーディネーターによる今年度の事業報告、続いて小学生とボランティアの活動について、春照小学校の児童による読み聞かせボランティア体験の発表、息長小学校の図書委員とボランティアの協同活動の様子を報告をしていただく。そして、山東小学校図書ボランティアによるパネルシアター『アレクサンダとぜんまいねずみ』を実演していただき、日頃体験することの少ない読み聞かせ手法で、おはなしの世界を楽しんでいただく予定である。

次に、米原市内の全小学校の児童が取り組んだ「わたしの好きなこの 1 冊」の中から選ばれた 30 人とボランティア 3 人の方にお気に入りの 1 冊を紹介していただく。そして、それらの本を冊子にまとめ、来場者にプレゼントすることにより、親子や友だち同士で本に親しむきっかけを作っていただくとともに、関係本を展示し貸出も行う。

最後は、3 人の読書感想文の発表があり、学校図書館部会の理事に講評とまとめをしていただく予定である。

3【事業の成果】

事業 6 年目を迎え、巡回文庫が年度当初からボランティアの支援により、米原市内の全小学校の全クラス（特別支援学級を含む。）に届けることができるようになった。

また、どの学校にもボランティアが読み聞かせに入っていただくことができ、学校やボランティアへのアンケート結果からも巡回文庫は好評で、子どもたちの読書への興味・関心を誘い、読書の幅を広げるなど、十分な効果があったとの評価を得ている。

学校図書室の整備においては、今年度、新しく 2 校でボランティアグループが立ち上がった。これにより米原市内の全小学校で図書室ボランティアが活動されるようになった。殺風景だった図書室に季節感のある壁面飾りをされ、書架も整備されて図書室を訪れる子どもたちが増えた。

また、おはなしの講習会では、読み聞かせのテクニックだけでなく、要望のあった発声の講習会を行ったところ、市内外から多くの受講者があり、ボランティア活動に興味を持っていただくとともに情報交換の場ともなった。

4【今後の課題】

今後も巡回文庫の維持継続が望ましい。さらに学校支援（巡回文庫、読み聞かせ、図書室整備など）を継続していくには、ボランティアの確保と、地域、学校、図書館および学校教育課が連携し、協働で子どもの読書活動を推進していくことが重要である。

さらに、巡回文庫で教室の手の届くところに本がある環境が整ったため、次の段階として、子どもにとって一番身近である学校の図書室に本の専門家を配置し、魅力ある蔵書の構築を行い、読書活動だけでなく、学習支援も行いながら子どもと本をつないでいくことが課題である。

また、“みんなで本を読もう”のとおり、家庭での読書を通じて家族のコミュニケーションを図ろうとする試み「家読（うちどく）」を進めることで、さらなる読書活動の推進を図り、みんなで心の豊かさを育んでいけるようにしていきたい。

竜王町学校支援地域本部の取組　【竜王町】

【従来型】　【竜王町学校支援地域本部】

１【事業の概要、特色等】

竜王町学校支援地域本部（通称名：学校応援団）は、竜王幼稚園、竜王西幼稚園、竜王小学校、竜王西小学校、竜王中学校の５校（園）を支援の対象としています。４名のコーディネーター（非常勤）と１名の統括マネージャー（常勤）で竜王町公民館を拠点として活動をしています。２５年４月～１２月までの学校園からの依頼支援回数は、竜王幼稚園５５回、竜王西幼稚園１１回、竜王小学校６５回、竜王西小学校４２回、竜王中学校２回の合計１７５回でした。

また、地域と学校の連携を図る環境づくりとして、学校応援団からの働きかけによる花壇づくりは、春花壇、秋花壇の種まき、苗植え、草刈り、夏場の水やりを含めて、３９回でした。

以上の事業に協力頂いたボランティアの参加総人数は、３４６人、延べ人数は７０７人でした。

以下に実践事例の一部を紹介します。

（１）竜王幼稚園で“おやつ作り”の支援

６月に、竜王幼稚園「預かり保育」で、応援団４名が子どもたちと一緒におやつ作りを行い、ホットプレートで作る“餃子の皮の簡単ピザ”を作りました。園児たちは、「パリパリしておいしいね！」と大満足でした。

食事の終りに園児たちから、「ありがとう」と言われ、応援団の皆さんも嬉しそうでした。



（２）竜王西幼稚園で“野菜の苗植え”の支援

５月に、学校応援団４名が野菜の苗植えの支援を行いました。

３歳児の園児たちと土を耕した後、きゅうりやトマト等の夏野菜の苗をポットから植替え、「大きく、おいしく育ってね」と祈りながらたっぷり水をあげていました。



（３）竜王小学校、竜王西小学校で“家庭科ミシン”の支援

２学期に入り、１５回、１７名の応援団で竜王小学校５年生の家庭科ミシンの支援を行いました。

５年生にとっては初めてのミシンでしたが、応援団の皆さんの指導補助によって、納得いくカバンが仕上がり、満足していました。

竜王西小学校でも応援団１４名が５年生、６年生の家庭科ミシンの支援を行いました。

子どもたちは真剣に取り組んでいました。



（４）竜王中学校で“ごみゼロ運動”の支援

５月に、中学生と応援団と一緒に“ごみゼロ運動”に取り組みました。

「ごみを捨てない」、「ごみの分別方法」等を理解しながら取組を行い、清々しい達成感に包まれていました。

いつもきれいなまちづくりと、気持ちのよい環境の中で過ごす心地良さを生徒たちと改めて分かち合えた、有意義な時間でした。



（５）各校園で“花壇づくり”の支援

学校応援団では、春花壇、秋花壇づりの支援を行ってきました。学校支援地域本部発足当初、学校と応援団の皆さんとの垣根をなくし、学校へ支援しやすい雰囲気づくりのために支援本部からの働きかけで行ってきた支援です。

学校支援地域本部は発足してから今年で４年目を迎え、今では学校と応援団の皆さんとの垣根もなくなり、当初の目的は達成されたので支援本部からの働きかけでの“花壇づくり”は今年度で終了とさせていただきました。



〈工夫した点〉

総括マネージャーとコーディネーターとが定期的に打合せの場を設けることにより、支援依頼があった内容について正確且つ的確に伝えることができました。

また、年間総支援回数が２００回を超えており、連絡間違いや忘れを防止するため、学校園宛には、参加ボランティア名を、各個人宛には、内容や日時を記した案内通知を行いました。

加えて、支援時にはコーディネーターおよびマネージャーが学校園へ行き、応援団と話し合いをしながら今後に繋がる情報交換話をする工夫もしています。

２【事業の成果】

家庭では、なかなかできない体験や一人では難しいことでも、応援団の皆さんに丁寧でわかりやすく支援いただくことにより、子どもたちは達成したことが自信へと繋がったり、興味がなかったことでも興味を持ったり、今まで思いもよらなかった新しいことを発見したり等、子どもたちによって様々ですが、すべての学校支援活動について、今後こどもたちが大きく成長していくための“きっかけ”になっていると思います。

３【今後の課題】

＊子ども達にとってお兄ちゃん、お姉ちゃん的な存在のボランティアが地域ボランティアとして登録できれば、今まで以上に幅の広い支援が可能となると思われます。

＊当町のシステムとして、学校応援団統括マネージャーからコーディネーターへ、そしてコーディネーターから応援団の皆さんへ支援要請の伝達や取りまとめを行っていますが、支援が色んな分野（内容）となることから、今後、学校園の支援科目ごとにリーダーを２人程度置ききめ細やかな連携を図っていきたいと考えています。

＊幼稚園や小学校の保護者ボランティアさんが、子どもの卒園、卒業と同時に終了しているため、今後継続して続けてもらうために対策を取っていきたいと思っています。

「愛荘町における学校支援の取組」　【愛荘町】

【従来型】　**【愛荘町学校支援地域本部】**

１．はじめに

愛荘町内のすべての学校(小学校４校･中学校２校)で ①「教員が子どもと向き合う時間の拡充」②「社会教育で学んだ成果を生かす場に」 ③「地域の教育力の活性化」という３つのねらいを掲げて、愛荘町学校支援地域本部に取り組み、早６年目を迎えている。それぞれの学校の状況を把握し、要望に応える支援を実施していくためには、地域コーディネーター一人が事業を進めようとしてもそこには限界がある。

本町では、事業を進めるうえで「学校支援部会」を組織し、各学校の教員(学校と地域を結ぶコーディネーター)や学校を支援するボランティアの代表者、図書館長や交番所長、教頭会代表といったメンバーが実働部隊として活動している。

さらに、事業の進捗状況の把握や評価を行い、事業推進のための指導的な役割を果たすことを目的に、各学校長、教育委員長、社会教育委員長、老人クラブ代表、町 PTA 連絡協議会代表等の有識者による「学校支援実行委員会」を組織し、学校支援システムの土台を力強く支えている。

学校支援に協力をお願いしているボランティアの方は、年を重ねるにつれ増えてきており、今年度は 78 人の方の登録を済ませている。

今後も、組織的な取組の進化･発展を図りつつ、各学校が自主運営へと移行していく体制づくりを視野に事業を進めていき、本町でのボランティアに関する基盤をより強固にしていきたい。

以下、具体的な事例として、秦荘東小学校の取組を紹介する。

２．秦荘東小学校の実践

（１）事業の趣旨

秦荘東小学校区は湖東平野の東にあり、秋にはビワマスが遡上してくる岩倉川や清冷な湧き水の見られる軽野湿生林、湖東地方で一番広大なシイ林をもつ堅井之大宮など自然環境に恵まれている。また､堅井之大宮では毎年春祭りが盛大に行われ、子どもたちの地域行事への参加率も非常に高く、学校と地域との結びつきも強い。そこで、本校では学校支援地域本部事業の取組を通じ、

○地域の良さにふれ、地域の人たちとの交流をとおして先人の知恵や考え方を理解する。
○子どもたちの学びの質を高める。
○地域と自分自身との結びつきを深める。
○学校と地域、保護者、関係機関との結びつきを深め、開かれた学校を目指す。
○地域の人たちの学校への関心を高める。

ということを目指していきたい。

（２）事業の概要・特色

本校では、地域と学校を結ぶコーディネーターが本事業の窓口となり、愛荘町学校支援部会や本事業事務局（生涯学習課)、しが学校支援センターなどと連絡を取りながら学校支援地域本部事業を進めている。

４年間実施してきた事業と、今年度新たに実施予定の事業は以下の通りである。

○登下校の安全指導
○自転車大会の指導支援
○田植え・除草・稲刈りなど田んぼの学習指導支援
○しめ飾り作り指導支援
○昔の遊び体験指導支援
○ミシンを使った家庭科学習の指導支援
○学級園での体験学習指導支援
○交通安全教室指導支援
○手話学習指導支援
○車椅子体験学習指導支援
○点字学習指導支援
○認知症への理解指導支援
○平和学習指導支援
○スキー学習指導支援
○トイレ掃除指導支援

①交通安全教室指導支援



しが学校支援センターの協力のもと、ヤマト運輸の方たちに来ていただいて実施した。

あいにくの天候ではあったが上学年と下学年とに分かれて、運転席からの死角を体験し、自動車が停止するまでの距離、横断歩道の安全な渡り方などを丁寧に教えていただいた。

民間企業の支援を受けた取組は本校としてはこれが初めてである。

②しめ飾り作り指導支援



５年生の田んぼの学習の延長線上にある取組で、毎年老人クラブ連合会の方たちの支援を得て実施している。稲わらが実際にどのようなことに利用されてきたのかを体験し、しめ飾りが家族の無病息災を祈念して正月に飾られることなど先人の考え方にもふれることができた。

③平和学習指導支援

滋賀平和祈念館の方に出前授業をしていただいた。防空頭巾や召集令状、千人針、焼夷弾（しょういだん）など戦争当時の実物、写真、体験談（VTR）などをもとにお話しいただいたことで、教科書ではわからない当時の滋賀県の様子についての理解が深まり、戦時中の人々の思いを考えるよい機会となった。



（３）秦荘東小学校の事業の成果

これまでの本校における事業は、登下校の安全指導や田んぼの学習指導支援をはじめとして、地域の人たちや地元関係者の協力を得て実施してきたものがほとんどである。しかし、今回はしが学校支援センターの協力を得てヤマト運輸（交通安全教室）やダイハツ販売株式会社（トイレ掃除：予定）など、はじめて民間会社の支援を受けることができた。今後も、しが学校支援センターや“におねっと”を活用しながら活動の幅を広げていきたい。

（４）秦荘東小学校の今後の課題

年度当初に先生方に本事業の趣旨や主な内容を知らせてはいるが、十分理解されているとは言えない。「これはおもしろそうだな。」「やってみたいな。」と思える事業を地域と学校を結ぶコーディネーターが学年に応じてピックアップし、年度当初に紹介していく必要があるのではないかと感じている。

３．愛荘町における実践の成果

（１）ボランティアの確保に進展

過去５年間の取組で、データの蓄積と人的ネットワークの広がりによりボランティアの確保がスムーズにできるようになってきた。

また、愛知川小学校では学校独自の人材バンク化も進んでいる。

（２）ボランティアの派遣

愛荘町社会福祉協議会と連携して、ボランティアに派遣を依頼する流れが確立された。具体的には、学校支援地域本部事業事務局（町教委事務局生涯学習課）が中心に行い、派遣したいボランティアが見つからない場合は社会福祉協議会が協力する形で学校の要請にできるだけ答えられるように連携を図る。互いの人材データバンクを共有し、ボランティア保険の重複を避けると同時に、必要なボランティア確保のための募集を行えるようになってきている。

（３）部活指導ボランティアの増加

懸案であった中学校の部活の指導にも、柔道、サッカー等において定期的にボランティアが指導・支援していただけるようになり、安全面で非常に助かっている。中学校側からの協力も大きい。

（４）町全体で取組む子どもの安全・安心

学校支援ボランティアの登下校の安全指導に合わせ、小学校の通学路に防犯ブザー「愛ぼうくん」を 50 ヶ所、「子ども 110 番のおうち」を 254 箇所設置して子どもの安全・安心の確保に全町あげて取り組んでいる。

４．今後の課題

（１）ボランティアの高齢化

ボランティアの主力は時間的にも余裕のあるお年寄りである。今後もその傾向は変わらないが、人材の補充を図ると共にＰＴＡや大学生の若い人材の確保が必要である。

（２）国・県の財政的支援を

今後、国や県の財政支援がなくなればこの事業を続けることが難しくなってくる。本町としては、まだまだ事業の継続が必要である。

（３）教職員の意識の向上を

各校にボランティアの核となってもらっている方がおられる一方で、担当学年の教員によりボランティアの導入や活用に差が見られる。今後も継続して校内の推進体制の整備と教職員の意識の向上を図っていく必要がある。

多賀町における学校支援地域本部の取組　【多賀町】

【従来型】　【多賀町学校支援地域本部】

1【事業の概要、特色】

多賀町では、多賀中学校、多賀小学校、大滝小学校、多賀幼稚園、大滝幼稚園、多賀ささゆり保育園、たきのみや保育園の３校４園を支援の対象としています。

地域住民の方には、培ってきた知識や経験を発揮する場となるとともに、生きがいづくりや人と人との繋がりを築いていく生涯学習の機会になるように、また子どもたちには、地域の異世代の方との交流により、多様な価値観に触れ、社会性やコミュニケーション能力を育むことにつながるように、学校・家庭・地域が連携・協働して多賀町の未来を担う子どもたちの健全育成を図っていきたいと思います。

◎活動内容

○学校への説明

年度初めに、各小中学校の職員会議で時間を取っていただき、説明会を行いました。前年度の学校ごとの利用内容と人数を報告し、新しく来られた先生にもわかるように、学校支援ボランティアの意味、利用方法、ボランティアの方に配慮していただく点などを説明しました。

○主な活動

草刈りや花植え等の環境整備、本の読み聞かせ、プールの監視、校外活動の引率補助、ウォークラリーやマラソン大会の立哨など、比較的誰にでもできる内容の活動をお願いしています。

＊ウォークラリーの立哨＊




《大滝小学校》

＊プールの監視＊




《多賀小学校》　《大滝小学校》

＊本の読み聞かせ＊




《多賀小学校》　《大滝小学校》

＊環境整備＊




《多賀中学校》　《多賀幼稚園》

＊校外学習の引率支援＊




《多賀小学校》

＊マラソン大会の立哨＊




《大滝小学校》

○ボランティア研修会・交流会

毎年、学校から依頼のある活動内容に関連付けた研修会を開くことで、ボランティアの質の向上と新たな人材の発掘を図っています。

また、活動回数の多い「本の読み聞かせ」については、先生を交えての交流会を持ち、不安や悩みの軽減



《交流会の様子》

を図るように努めました。

＊第１回本の読み聞かせ「子どもに本を手渡すとき」（２回講座）

小学校では、年間を通して本の読み聞かせボランティアをお願いしています。1日目に本の選び方や持ち方などの基礎を教えていただき、2日目には実演指導をしていただきました。


《講演の様子》


《実演の様子》

＊第２回「普通救命講習Ⅰ」

消防署から講師に来ていただき、ボランティア活動中だけでなく、日常生活でも知っていると役に立つ応急手当の方法や心肺蘇生法、ＡＥＤの使い方など、実技を交えて教えていただきました。


《講演の様子》


《ＡＥＤの実習》

＊第３回「ダンボールコンポスト講習」

生ゴミから堆肥を作るダンボールコンポストの仕組みと作り方を教えていただきました。今後、花植えなど環境整備のボランティアにも活用していければと思います。


《講習の様子》


《コンポスト作り》

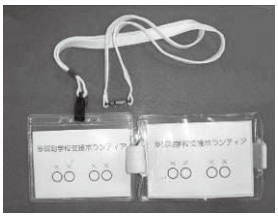
〈工夫した点・他校の参考となる点〉

○広報・周知

学校支援ボランティア活動を、一人でも多くの町民の方々に知ってもらうため、例年『ボランティアだより』を発行しています。今年度は、より確実に見ていただくために、町の広報誌『広報たが』に学校支援地域本部のページを設け、毎月掲載しました。活動報告や、ボランティアの登録募集、研修会の予告や報告を掲載しています。

○名札の作製

子どもたちから名前を呼んでもらえるように、また、学校や園での不審者対策にも役立つようにと、学校支援ボランティア用の名札を作り、ボランティア活動時に着用していただきました。



○連絡様式の統一

連絡の行き違いやＦＡＸの誤送付、個人情報の漏えいを防ぐため、学校から依頼のあった活動について、参加してくださるボランティアの方への連絡や、誰が参加してくださるかという学校への報告の様式を統一し、必ず文書で届けるようにしました。

2【事業の成果】

ボランティアの方から、「自分も勉強になった。」「子どもたちから元気をもらっている、励みになる。」「何かあったら、言って！」と声を掛けていただき、子どもたちも楽しみに待っていてくれて、ボランティアが特別なものではなく日常の生活の中に浸透してきています。

また、学校支援地域本部の運営委員であるキリンビール㈱様より「ペットボトルのお茶」を、㈱ブリヂストン様より「帽子」を御提供いただき、夏場の熱中症対策に使わせていただきました。



地元住民、企業、学校が力を合わせて子どもたちを見守る体制が少しずつできてきています。

3【今後の課題】

現在、ボランティアの主力は、時間的にも余裕のある高齢の方と小学生を持つ親で、今後、高齢化や子どもの卒業とともにボランティアから離れていくことが懸念されます。

若い世代の参加を促すとともに、特別なことではなく、なるべく日常の中でしていることを活かしたボランティア活動をしていただけるよう、また、必ずしも学校からの依頼とボランティア登録されている内容が合っていないので、敷居を低く、ボランティアを始め易くなるように学校・園へ働きかけていくことが必要と思われます。

また、お世話になったボランティアの方を学校行事に招待するなど感謝を形にしたり、先生と一緒に振り返りの時間を持つ等、次に繋がる活動を提案していくことも必要と思われます。